とす、同魚は頗る怯懦にして清洌なる水を避く、故に河川は雨後多少濁流ある時又は汐の干満により混濁を生じたる時多く漁し得べし同魚の游泳若くは溯上の行動は晝に限り、夜は靜穩にして深き處に駐まる。地方住民の實驗によれば同魚は多く鱒と同時期に來り、鱒多き年は同魚少なく、又同魚多き年は鱒少なしと云ふ。同魚は干物に製造するに適し又保存に堪へ「鱒ノスケ」又は紅鱒の如く日子を經ても澁味を帶ばず、是は同魚の特色とする所なり。

三鱒　露名之を「ガルブシア」と稱す、其所以は雄魚は產卵期後背部に大なる瘤を生するに由る、雌魚は之に反し產卵後と雖も吻端曲らず又背部に瘤を生せず、同魚は体長一尺五寸体量三百八十匁より五百五十匁稀に一貫目以上を超ゆることあり、体色白く体形扁平頭部細小吻端は尖り鉤形を以て大に曲る、顎骨と舌上に細小の齒を備ふ、背部は薄藍色に圓形の暗色班點を散布す、側と腹は他の鮭科と同じ尾鰭は藍色を帶び其分岐淺く圓形の暗色班點を備ふ、同魚はオホツク海及び白令海の諸河川を溯上す、他の鮭科に比し其產多く且水質を選ばず溯上するは同魚の特質とす、又溯上するや忽ち產卵し斃る、同魚は夏鮭に次ぎ來るあり又同時期に溯上するもあり、同魚の多少は鮭と密接の關係あるもの、如し。地

方住民中同魚を或年に依り河川を溯上せざるが如く云ふは根據なく、即鮭多き年は同魚大体少きが故に殆んど溯上せざるものと思はるゝならん。

四銀鮭　オホツク沿岸及勘察加に於て之を「キージユチ」と稱す、又同魚は水中に於て銀色を呈するを以て「ベーラヤ」即ち白色鮭若くは銀鮭と云ふ、兩館に於て斯種の鮭を「ロモー」鮭と稱す蓋し同種の鮭樺太北方ロモーに產するを以てなり、同魚は体長其他形狀等に於て夏鮭に酷似す、其味は夏鮭より遙に優る唯一異なる點は夏鮭には班點なきも同魚には背部に黑色橢圓形の班紋を有す、同魚に夏秋の二種あり夏鮭と鱒とに次ぎ溯上するものは夏の銀鮭にして我八月二日頃は最も盛季なり、秋の銀鮭は九月中旬頃より來ると云ふ小川を溯上せる同魚は忽ち產卵し、大河にあるものは十一月の初旬迄產卵せずゴルイギナ河に於て一月中旬未だ產卵せざるものありと云ふは其一例とす、ソボチナヤ河に於ける同魚溯上は十一月の初旬迄にメモローシエチナヤ河の支流には夏の銀鮭八月中鱒と同時に溯上す、或年に依り溯上甚だ少きことあり同魚は紅鱒に似たる性質を有し、溯水より流出する河川に限り溯上す、產卵後は河水深く泥あり結氷せざる地を選び棲息し、又驚く可き上流に溯上し、曉秋若くは冬の央迄止まるボリジエレヅカ上流又はオバリスコエ湖水の附近

にて地方住民之を漁し、凍凝せしめて食用に供す、勘察加の支流には冬季中棲息する所あり、其附近の住民は之を漁して生活の食資とす、尤も冬季の同魚は脂肪なく其味は遙かに秋の同魚より劣ると云ふ、同魚は鮮魚にて食するも又鹹魚若くは干物とするも、孰れも味佳良なり殊に美味と稱せらるゝは腹の燻製なりとす。

五太西洋鮭　斯種を露西亞に於て「シヨムガ」我邦にて之を太西洋鮭と稱す、同魚は体長体高等黒龍江に秋季溯上する鮭と大差なし、唯同魚は軟弱なる鮭科の一に算せられ、五月中旬結氷の融解を待ち直ちに沼澤より流るゝ小川を溯上し、産卵を始め六月初旬若くは中旬之を終る、尤も氣溫十度（攝氏）に達せざれば假令河川を溯上するも産卵せず、産卵の期日は五日乃至十二日にして卵の數は五千乃至六千其量八百七十二匁ありといふ。同魚は九月初旬ボリシエレーツク、クルトゴーロワ等の如き沼湖より流るゝ河川を上り、河口附近の深き泥ある凹所に棲息す其小部分上流に溯上し五月中旬海に歸る、西海岸中同魚の多き地はボリシエレーツク河よりオプルコーウイナ河間にして最も著きはコルパコーワ河及びブリウムキナ河なり又ウトホロヲスカヤ、コロフスヤ、クルトゴーロワ、シヨーモジナヤ、ネムチク河にも産す、アルマン川チギリ河は最も少なく、ペロデルーツワヤ河モ亦

シエチナヤ河の如きは全然産せずと云ふ。東海岸に於てはアツチヤ灣の北方カラフトウイルカ川の如き産地として著し、バロンコルフ灣にも同魚あり、同河の産地はオゼルナヤ河以北とす。

同魚は「鱒ノスケ」と同く勘察加特産の一にして且其産多からず又其味佳良なるにより之を貴重し地方住民は同魚より干物若くは鹽漬等の如き貯藏的製造を爲さず、寒氣の來るを利用し之を凍凝せしめ保存す、最も脂肪あるは十月中旬とす

叙上の事實に依り我が出漁家の目的物となる五種は紅鱒、夏鮭、鱒、銀鮭及び太西洋鮭にして其平均漁期は左の如し。

紅鱒	六月	
夏鮭	六月	
鱒	六月	
銀鮭	八月	
太西洋鮭	九月	

右は月に依る平均なるも而かも六月中旬より盛季に入るを以て、出漁家は漁區の遠近を問はず六月一日迄には漁區に到着する樣本邦を出港するを要す云々

勘察加及びオコツク海に於ける魚族の豐富なること以上の報告に徹して明々白々一點の疑團を挾むべき餘地なし唯だ問題として剩す所は　一、出漁期間を誤らざること　二、漁獲

物の運搬を敏活ならしむるにあり、語を代へて言はゞ交通の便を開くにあり現行協約の下に於て各漁區の漁獲物は他の船舶を以て積取ることを許さず、頗ぶる不便不利を忍ばざる可からず、乍併是れ一に協約の改正に俟つて其弊を矯むるの外なし、故に今日の處現行協約の範圍内に於て改良す可きは改良し、發展の策を樹つるを要す、是に於てか從來一回若くは二回往復せる船舶をして、其回數を倍加して往復積取りの便を開き而して勘察加に達するの航路を短縮せしむるは差當り焦眉の急務なりと謂つ可し。今帆船を以て函館を起點とせば二週間内外を要し、汽船を以てせば一週間を要するも根室若くは我が網走の兩港を起點とせば帆汽船共其三分の一の日子を節約し得可し、而かも春夏兩季海霧の難ある根室に比せば網走航路を擇むことの極めて安全なるを知らざる可からず、去れば網走港を開港場としてオコック沿海勘察加方面に對する策源地たらしむるは日露協約より生ずる利權の收獲上當然の希望なりと斷ず可く、豈に朝野政客の空しく看過す可からざる活問題ならずや、網走開港にして一度決定せられ、多年の宿望たる同築港完成の曉、釧路線鐵道に依りて太平洋岸の釧路港に聯絡し、夫より京濱方面に向ひ輸送の航路を使にせば、小樽乃至函館を經由し阪神若くは京濱需給地へ輸送するに比し其の日子と費用の節約、蓋し多大なるものあるは決して架空の論議にあらず（別項交通運輸の部參照）所謂勘察加出漁船舶の中繼場として網走港は北見の富源開發上現在既に有望の位置に在り、況んや知床半島の漁場漸次開發せられ沖合遠洋漁業繁盛の期に入れば世界有數の豐漁帶として嘱目せられたる舊來の虚名は一歩々々實益を現示し名實併せ獲るの日は即ち、帝國財源涵養の一助となり從來何等の注意を拂はず恰かも秦人の越人に對する如き感ありたる北見の漁業に就き朝野を擧げて驚嘆せしむるや必然なり、嗚呼近く衰退せる北見の漁業發展の餘地綽々たる北見水產界を鞭撻して生動せしめ、遠くは勘察加漁業に向つて敏活の行動を取り、國富の增進に資するの最大要務は一に繫つて網走開港及び仝築港の速成如何に在り、嗚呼實に是れが速成如何にあり。

第四節

林業及工業

北見四郡の山岳平野密林鬱蒼として晝尚ほ暗らく、千古斧鉞の入らざる箇所に乏しからず國境に沿ふて北西より南東に趨れる分水嶺は固より郡界を分かち村落を區別せる一小山脈に至るまで針濶葉樹所在に繁茂し、一山一嶽だも赤裸たる赭黑を表はすものなし。去れば

一たび十勝を見、二たび釧路の山容に接したるものにして、初めて我が北見の山靈に對せば眞に別乾坤に入りたるの感ありといふ、縱令身は木材業者にあらずと雖も、亭々たる喬木天を磨して、姿勢堂々たるを見ば垂涎三丈の慨ある寔に宜なりと謂つ可し。然らば田畑牧場の私有地は勿論、賣拂として出願者に處分濟のもの及び未處分濟なるも賣拂地若くば特定地として公示せられたるものを控除したる殘部、眞に北海道國有林と目すべき地積並に林積果して幾何なる乎は、讀者の當さに知らんと欲する所なるべし、乞ふ之れより調査材料に基き聊か記する所ろあらん。

森林面積と管理機關　明治四十一年全道に涉る國有林に就ゐて、一大整理案の發布せられし結果、自然林務に關する官制の改革となり、從來の網走派出所、及び之等に屬する各分署を廢して之を併合し、以て本道内五個營林區の一劃とし、同年六月新たに網走營林區署を設けられ、北見全國に所在する國有林を管理せしむることゝなれり。而して尙管内森林の監護、及び事業經營の關係より、更に四ケの大區域に分割し、一區は本署に於て其常務の傍ら、之を直轄事業とし、他の三ケ所は即ち紋別村、枝幸村、稚内町の要地に分署を置き以て、夫々部内國有林の監護及諸事業の經營を司らしむる組織にして、宗谷枝幸の所屬を除ける國有林面積は左の如し。

區別	面積	管轄區域
直轄	四四四、四二六、町四九〇九	斜里、網走、常呂三郡
紋別	四一〇、三六〇、八九一五	紋別郡

林相の概況　北見の森林は、殆んど其全部天然の儘にして、從來國土の位置及び搬出等の不便より、容易に需給の途を開らく能はざりし結果、未だ曾て斧鉞の入らざるヶ所多く、故に鬱蒼として晝尙暗らきの深林、亭々として天を磨するの巨木、到る處に存在し、其美觀實に言語に絶す。加ふるに地勢の狀況比較的峻險ならざるを以て、各樹木の生育狀態又極めて圓滿に發育するの事情は、品質上實に他地方稀れに見らるゝの特長を有す。針葉樹の内椴松蝦夷松等の如きは、一般に國境附近に繁茂し、或は數万町歩の廣大なる區域を占領して、單純林又は純林に近き林相を有するヶ所尠からず。而して、中部に降るに隨ひ、針葉樹の數を減じ、之れに反して濶葉樹漸く其數を增す、是に於て平椴松、蝦夷松、楢、榆、栓、桂、白楊等或に散生的に、或は園生的に混淆の林相を形成す。尙ほ殖民地近く降るに從ひ、針葉樹は全く其跡を絶ち、濶葉樹の單純林となり、又は有名なる北見特産と

も稱すべき白楊樹の一齊林を見る。畢竟するに以上の三段林相は北見全國に渉り、一般的に通觀したる林相なるが、尙各地方別に是等の林相を說明せんなら、國内西半部即ち枝幸宗谷の二郡は重に第一第二の林相に富み、第三段の濶葉樹林を缺き、又は第一段の林相即ち海濱まで、針葉樹の純林を認むるヶ所あり。而して東半部即ち紋別、常呂、網走、斜里の四郡は大体に於て前記三段林相の順位を保ち、地域又廣大なるを以て隨所に大面積の各樹一齊林を認むべし。

北見の五木　北見の國有林に於ては前述の如く、遍く樹種を包含し、實に目覺しき良好の林相を形成せりと雖も、是等の總べてを利用せんとするには、第一國土の位置搬路の不備需用者の關係及び其分量等よりして、一般普通用材の如きに向つて、其需給を計るは策の得たるものに非ざるは勿論、事業上種々の遺憾なきにあらず。故を以て北見の林業政策としては、是等の内或特種のものに限り、其利用を重に海外輸出向き材料に提供するとするも工藝的諸材料に供給するを以て尤も有利なる經營と認めらる。然り此の如き本邦無比の大森林に對し、其富力相當に利用開發を計らんには、其間又大なる考慮なかる可からず。況んや地の利に於て多大の不便を有する當國に於てをや。故に此方針を以て今各樹種の内、

或は品質若くは其分量に於て、或は特產的樹種にして、優に以上の要求に應じ、内地は勿論本道内に於ても、全く競爭し能はざる樹木の五つを撰んで、之れを所謂北見の五木と稱す。然り林業上現在及び將來大に活動して大に地方と國家とを利するものは、專ら之れ等五木の痛快なる奮闘に俟たざる可からず。今茲に該五木の名稱及び其特長を列記すべし。

名稱	特長
一、蝦夷松	品質及び數量に於て現時殆んど四郡獨有の狀況なり　製紙用
二、白楊樹	全上　燐寸軸木經木用
三、楡	全上　外國向き建築器具船艦用材枕木用
四、胡桃	外國向き建築材料及び銃臺用
五、オンコ	製紙箱水管用貴重建築用

利用量　現在の利用量は何如なる程度を示しつゝありやといふに、前述の如く廣大なる面積と特種の樹木及び多量の材積を有せるに比し、甚だしく少額の嫌あり。是れ畢竟位置の偏部なると、交通運輸の機關極めて不便なるが爲めならずんばあらずと雖も、抑も亦た從來四郡の森林の眞價が普ねく世の事業家に知悉せられざりしに由らさるはなしと去れば

管内林力に對し其全利用量の約三割にだも達せざる狀況にあるは、識者の大に注目すべき點なりといふ可し。然らば將來幾千迄の輪伐に堪へ得るの林力ありや。之れ特に宣明し置くの要あり。乞ふ姑らく左の數字を熟視せよ。

四郡官林總面積　八十五万四千七百八十七町三反八畝廿四歩

此内三分の二を林地整理后固定國有林地に見込む時は、其面積　五十六万九千八百五十八町二反六畝十九歩

となり一町歩平均六百尺〆の蓄積ある計算なれば

總蓄積　三億四千百九十一万千四百九十五百尺〆

となり輪伐期壹百五十年回歸年三十年とせば

年伐材積　二百二十七万九千四百〇九百尺〆

を得可く尚實用年伐材積を八分と見做し、針葉樹を三分濶葉樹を七分の割合とし、之れが輸出し得可き材積を針葉樹二分の一とし、濶葉樹を五分の一とせば

針葉樹　二十七万三千五百二十九百尺〆

濶葉樹　二十五万五千二百九十三百尺〆

針濶葉合計石數に換算すれば實に

二十六万四千四百十一石（五分減）

となり百石時價貳百圓とせば、此總價格は左の如し

五十二万八千八百二十二圓

是れ四郡に於ける國有林年伐量に對する最低限度の算出に屬し、而かも年々輪伐し此程度だに超えざらしめなば、實に永久無盡のものたり。尤も此數量は外國輸出木材のみに關する調査にして、年伐量二十六万石以外に内地向き木材及び附近町村に於ける需用と、民有地又は國有未開地より伐採搬出する材積多大なることを忘却す可からざるなり。

材木の價格　國有林拂下價額及び未開地内立木賣拂價額は、所謂樹木の山元直段にして、之を以て地方の林産物價格と爲すべきにあらざる事は勿論なり。即ち之れを造材し或は一定の市場に搬出して、其市場に於ける市價の標準に依つて決せらるべき運命を有す。近來輸出向き木材業者の往々着目する所ろとなりて、四郡各地に入込み着々北見森林の實相を究め、又は取引先きの關係を密にし、漸く林業らしき事業を企つるに至るを見るは、地方の發展上喜ぶ可き現象なりとす。殊に未開地に於ける樹木は、所要の薪炭材以外は大概之

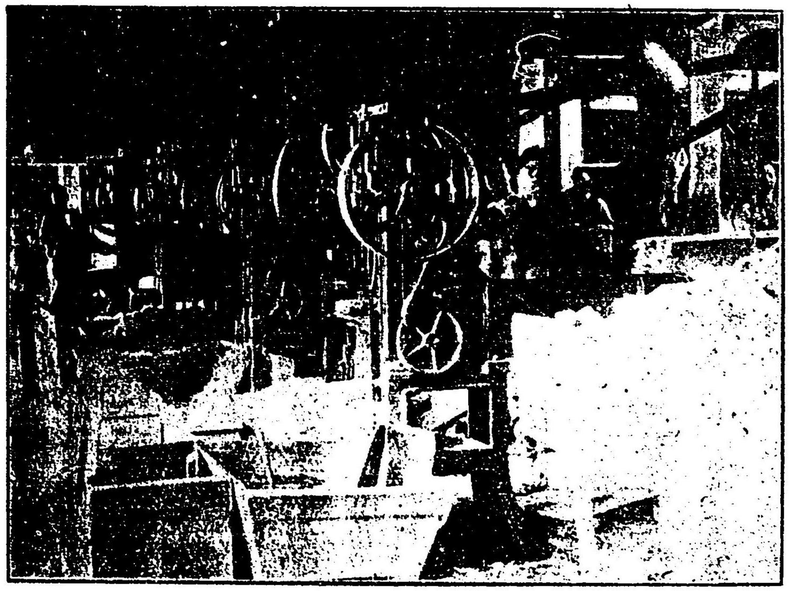
斜里村木材置場

れを燒棄して開墾の目的を達せざる可からず地上の立木は却つて開墾者に對して苦痛を與へつゝありたるものが所謂利害顚倒し無を以て有に變ずるの僥倖あり。爲めに網走、斜里、紋別、常呂其他の海岸より輸送せらるゝ木材價額は壹百万圓を越ふるの盛況を呈するに至れり。

將來の林産　北見四郡は海産に於て一種の天惠に浴するのみならず林産に於ても亦た多大なる天惠に浴するものなり。如斯天惠を保育する地方に在ては之れを適當に調査し運轉せば地方の發展手に唾して爲すべく富力の現實は左のみ困難なる事業にあらず而して之を興起すると否とは固より當局の

方針に據ること大ならんも、專ら地方住民の努力と深遠なる經世眼に待たざる可からず、況んや目前の一小利害に拘泥して、百年の過恨を貽すが如き行動を敢へてし、悔として恥ぢざるものあるは、北見の發展上百害あるも一利なしと斷ずべし。網走線鐵道は開通し、野付牛湧別間近く竣功せんとし、網走釧路線網走下湧別線、美幌釧路線等近き將來に於て開通の曉、林木利用の範圍は突飛的に擴張せられ、四郡林業啓發上一新紀元を劃するや明々白々也。今是等鐵道及び道路沿線に近き樹林の内、需給の關係確立して、盛んに事業の起らんとする部分に對し調査するに、國有林及び民有地を通じて、年々の伐採材積は三百十二万尺〆此價額二百六十二万圓餘と計上せらるる。此他下駄棒、燐寸軸木、函材長物材、器具材、製紙用パルプ、水道用木管工藝的成品の發展し更らに網走、紋別其他港灣の修築成り、或は輸出港として開放されなば俄然として面目を改め從つて北見四郡の林産價格一千万圓を達するの日ある、蓋し遠からざるなり。

北見の製軸業　明治四十一年後半期より、經濟界に於ける大々的打撃を受け、一時は火の消へたる如く、各工場の休業を見たる、北見製軸業者も、昨今稍々快復の順調に至り、各所の工場何れも作業しつゝあり、其の内重なるものに付き略述する所あるべし。



林業及工業

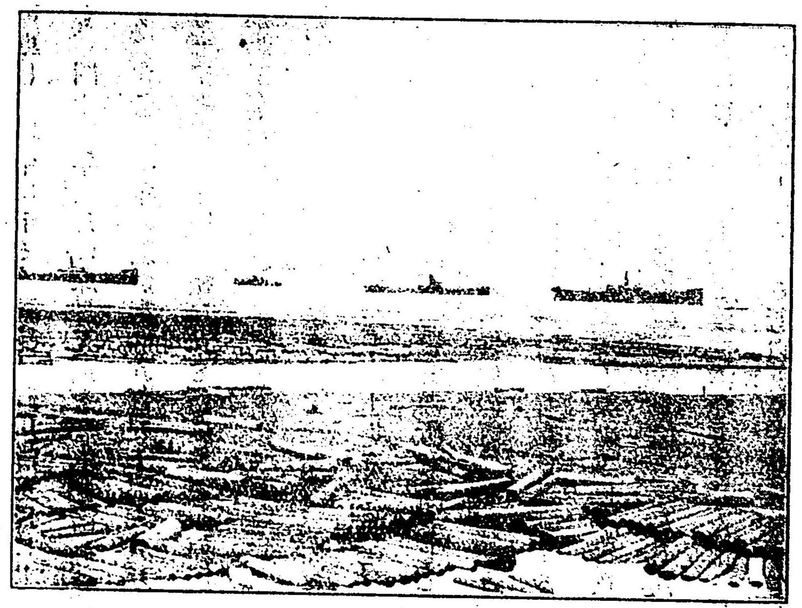
日本燐寸軸木株式會社大曲工場作業其況

▲網走工場　網走郡網走村大字大曲に在り日本燐寸軸木株式會社の所有にして今を去ること二十余年前即ち明治二十四年八月東京の人山田愼氏の創設に係り主要製品は燐寸軸木にして職工男四十七人女三十四人一人一日の賃金男七十五錢女三十七錢を標準とし、外に勞働人夫男八十人を使役す、一昨四十三年中の製品一等軸一万八千圓二等軸三千七百五十圓なり。此他明治三十年紋別工場を設け、同三十四年濤沸工場を置き紋別郡沙留村には分工場を設け何れも山田氏の經營に屬し、同三十八年迄繼續せしが三十九年山縣勇三郎氏工場全部を讓受け、山縣製軸所と稱し、同五月株式會社組織に

變更し、現今に至る。社長は瀧川辨三氏にして、紋別沙留の二工場は原料不足のため中止し、四十三年新たに床丹工場を起し、濤沸、床丹二工場を兩翼とし、盛んに製造しつゝあり。會社一ヶ年の製造高は五百五十把入五万俵にして輸出先きは神戸とし、販賣價格二十万三千七百五十圓前後なりといふ之れが原動力は網走工場四十八馬力濤沸工場二十四馬力猿澗工場八馬力なり。

因に記す山田愼氏は單に北見製軸界の元老たるのみならず實に網走町の發展に關し至大至切の恩人として感謝すべき紳士なること是れなり、往年氏は網走町に於て製軸業を開始し自己の關係せる函館濱船會社の所有船をして製品の輸送に從事せしむるに方りて某部下は工場に於て費消する米噌其他の雜品を買込み之れを些少の手數料のみにて、工場關係者へ賣渡さば、一擧兩得の妙策ならんと進言せるに對し、氏は曰く然り貴下の言の如く、双互の便利は必らず有らん、併し余の工場を得意とし、職工を華客として商業を營む網走市街の商家は、爲めに多少の打擊を被るなからんや。商家の打擊は網走町の打擊也、町の衰枯盛衰は豈に我が工場と沒交渉なりとせん哉。是れ余が工場を有しながら、傍ら商業を兼營するの妙策を採らざる所以也と。世を擧げて利に趨り、自己の懐ろ勘定以外、眼中何物を

斜里木材材積込高況の二



も映せざる似非事業家多き今日氏の如きは網走町民の永久忘却す可からざる恩人として紀念すべき功勞者と推稱すべき也。

▲丸玉鈴木製軸工場　常呂郡野付牛市街地に在り、鈴木浩氣氏の所有にして、卅五年七月の創設に係る。原動力は瀝機一台十九馬力にして主要製品は燐寸軸木なり。

職工男二十二人女五十九人賃金一人一日男七十錢女三十五錢外に勞働人夫男四十二人あり、四十三年度の製品四万三千四百五十五圓に達し、網走線鉄道の開通と共に、建築材料の需用著しく增加せるを以て、十二馬力のサクション瓦斯發動機を併置し、傍ら製材業を兼營し野付牛停車場新市街の建

設に對し多大の便宜を與へつゝあり。

▲五益社端野製輪所　同郡同村字端野に在り、持主は井上貞次郎氏にして四十一年四月の創立に係り、原動力は瀝機二臺八十六馬力を備へ職工男二十一人女十八人賃金一人一日男六十錢女二十錢外に勞働人夫二人を使役す。四十三年中の製品は約二万五千九百七十七圓なりといふ。比他湧別村にも製軸所を設け、原動力は瀝機一臺三十二馬力を用ゐ、職工男二十九人女二十八人賃金一人一日男五十二錢女二十錢外に勞働人夫男五十五錢女三十錢外に勞働人夫五人を使役す、四十三年中の製品價額三萬八千〇十五圓〇八十八錢五厘なりと。

▲蠣崎製軸所　紋別郡湧別村にあり、蠣崎彦太郎氏の所有にして、井五年七月の設立に係して、原動力は瀝機一臺三十五馬力、主要製品は燐寸軸木にして、職工男三十二人女二十八人、賃金一人一日男五十五錢女二十五錢外に勞働人夫男四十一人を使役す。四十三年度の製

品價額は五万二千五百圓なり。

▲瀬戸瀬工場　紋別郡湧別村字セトセに在り清水喜太郎氏の創設に係る、四十三年度の製品價額漸く一千六百八十圓に過ぎず。

▲柴田工場　紋別郡興部村にあり、四十三年度の製軸價額一萬九千二百三十三圓。

▲品川製軸所　常呂郡錐沸村川口に在り、製軸價額四萬七千二百五十圓。

▲柴田製軸所　所在地仝上にして、柴田友藏氏の所有に係る。四十三年度の製品價額四萬三千三百圓なり。

製軸業の傍ら製材業のみを經營する工場としては

▲丸大工場　網走郡網走村字クルマトマナイに在り、小龜利三郎氏の所有にして四十一年十月の創立に係る。原動力は石油發動機八馬力を用ゐ、製材精穀製粉業を營み來りしも、網走線鐵道工事進捗に伴ひ、工場全部の移轉に着手せしを以て事業の成蹟は知る能はず。

▲本間挽材工場　網走郡能取村大字最寄村ピトカリに在り、持主は本間寅作氏にして、四十一年十一月の創設に係る。原動力は瀝機一臺十六馬力職工男十名女一名にして、製品價額枕木二万圓下駄棒一千圓、椴板製材二千一百圓なり。

▲兼子工場　同郡網走村字クルマトマナイにあり、兼子嘉平氏の所有にして四十二年十月の創立なり、原動力は石油發動機一臺三馬力を用ゐ、主要製品は製粉精穀にして、職工男二名を使役し、四十三年度製品賃錢二百九十七圓五十錢。

▲櫛田木工場　斜里郡斜里村字飽寒別原野にあり、櫛田又左衛門氏の所有にして、四十一年十一月の創立に係る。原動力は二馬力の水車二臺にして、四十三年中の製材價額二千二百七十圓。

▲雄武工場　小樽木材株式會社の經營に係り、盛んに瀝機を据へ付け製材に從事するは四郡中比儔なきを見る、最近製品價額椪材八千八百六十六圓廿八錢棧橋用材一万四千四百九十九圓五十二錢、建築用材三千八百五十圓の巨額に上れりといふ。

製軸製材等の工業以外、各農家に於て水車の便に依り澱粉製造、及び小麥又は蕎麥の製粉業を兼營する者少なからずと雖も、特に之れを紹介するに足る者稀れなり、即ち左に小麥粉のみに付き各町村別調を掲げて姑らく參考に供するに止めん。

町村名	製粉數量	價額	製造戸數	原料數量	原料價格
上湧別	二四、〇〇〇斤	一、二〇〇円	四	一二〇石	九六〇円〇〇〇
野付牛	一五八、〇〇〇	一二、六四〇、〇〇〇	六	一、五八〇	一、一〇六、〇〇〇
網走	一、七〇〇	一〇二、〇六〇	一	八、五	七二、二五〇

▲釀造業　酒造業に從事する者及び醬油釀造業者は左の如し。

網走町	上田丈吉	下湧別村	伊藤紋藏	
仝	熊澤貢	野付牛村	嶺次吉郎	
以上	酒造業			
網走町	小龜利三郎	下湧別村	武藤富平	
仝	本間熊治	仝	合資會社伊藤商店	
紋別村	田中龜次郎	野付牛村	新井竹次郎	
以上	醬油釀造業			

之を要するに北見の製造工業は、極めて幼稚の謗あるを免かれず。到る處として水利の便あらざるなきを以て、將來水力電氣の應用し得らるゝ時期に入り、年々移住し來る農家の數を百千倍加し、農產の豐富なるに及べば、各種の工業勃起するや必然にして、決して架空の妄想にあらざるなり。而かも鐵道の敷設港灣の修築、道路橋梁の開鑿補修等交通運輸の機關だに具備せば、立ろに運賃の輕減となり、收益の增加となり、三五年を出でずして原始的時代の木材全盛期と共に、文明的工業の發達は辨を駢べて北見生產界に絶好對照を示すに至るべき也。

營林署長
松岡直溫君の林業談

一林業と地方　北見の林業が歲と供に非常な勢を以て發展しつゝあるは取りも直をさず地方森林の豐富と之れが運轉に伴ひ來たる種々なる要件の誤解が、一般に明瞭となつた結果からであろう。故を以てか近來各林業家に於ても從來の如く一種冒險的な心掛けも薄らぎ極めて着實に一定の施業案等を立て、以て此處彼處に健全なる事業の遂行され居るを見ても証明される譯である。今一概に林業者の最も苦痛とし又た事業に其經濟の運命を左右する雜物は何んであるかと謂ふに申す迄もなく山元材料を伐採し、之れを一定の市場或は最終の土場迄、搬出するに於て地方的有形無形の手數が面倒なるや將た容易なるかと、尙進

んでは地方を離れ、内外國取引先きに輸送する機關の便不便なる事である。然り我北見に於ては名にし負ふ森林國の立場よりして、或は事業が事業なる丈け目下地方産業上行政當局は勿論、地方人士の凡てが日夜研究に研究を積み、誠意以て之等の障碍を減滅し、勤めて事業家の安全を慮り、延いて國の富源と土地の發賑を心掛けてある目下の狀態であるから、往々他地方に見聞するが如き運材上いまはしき故障や嘆聲を發する様な事は以降斷して無い筈である。殊に彼の獨乙國民が一般國勢の隆運を謳歌する文句に「獨乙の文明は森林より來たる」と謂ふ文句があるが、正に然りて我北見の文明も森林より産み出すの分量實に少々ならぬ關係を自覺して來たから、此の際幾多林業家の入り込み來るは、擧國大に歡迎する處で、又最良の機會であらうと信ず依つて以下北見森林の梗概と有要樹種併に其の年伐利用材積を掲げ以て廣く世の林業家の參考に供し、併せて陸續北進の活動を希望する次第である。

二森林面積　行政區劃の關係と大体林相の區分より其面積を斜里、網走、常呂、紋別の四郡に限り說述するに、將來國有林として約六拾万町歩又民有地として現在以降林籍を解除せらる見込面積約貳拾万町歩則ち合計八拾万町歩の大面積を占領す。最も右民有豫定地の内には民林、牧場、耕地、及植樹地の地種を抱含し居るも、大体に於て何れも樹林地であるから、現在林業方面よりは所謂擴義の森林とみなされて居る。

三國有林内年伐量　林木の種類は非常に富んで居るが、是には内最も有要と認むる者のみを撰んで掲記せんに第一トドマツ、エゾマツの類は多く純林として、將た混淆林として全林面積の半數以上を占領して居つて、殊に經長、品質の優良なる事は實に目醒ましい者である、就中エゾマツはアカエゾが勝つて居る。又トドマツは巨木、中木、小木等整然として隨所に、若かも一種幽雅なる林地を形成して居る。然るに以上二樹の總蓄積は如何程あるやと言ふに現在の調査に依れば實に、一億四千四百万尺〆の多量を有して居る、而して之れを年々輪伐的小斫伐して永久世の需用に應する力、則ち年伐量を求むれば極々扣へ目に計上しても七拾二万尺〆の大數を得る。然るに一面現在の需用量を調ふるに右の約二割弱に止まりて居るから尚年々六拾万尺〆の殘余がある譯である、殊に以上の二割も極海岸に近き針濶混淆林より主に濶葉材を拂受け旁付帶として伐り出す様の始末であるから自然形質も宜しくないのは勿論である、則ち針葉樹の精髄とも申す可き數万町歩の純林區域は、未だに太古其儘にて現存して居る誠に惜い事である。今其産地の重なるヶ處を擧げんに野

付牛村シユトコロ、ニオトコロ、官林此面積約貳万五千町歩同村ムカ官林此面積約貳万五千町歩美幌村ツベツ、ポンキ、ン官林此面積約二万町歩上湧別村字瀧ノ上、瀧ノ下官林此面積約參万町歩、渚滑村上渚滑官林此面積約貳万町歩幌内村ホロナイ官林此面積約壹万町歩等最も美良なる針葉林の純林又は純林に近き混淆林であつて、一度び之等の林相狀態を大觀したらんには、實に欝々蒼々として長く、廣く、且つ緣に際涯なきの狀げに蒼海の夫れの如くに感ぜらるゝである。

又濶葉樹の占領區域は昨年林地區分調査の結果將來固定林となる該林相地が甚だ僅少となつた爲に、針葉樹林に比し其面積も稍劣るけれども、蓄積に於て現在尙六千二百万尺〆を有して居る。而して年々永久に斫伐利用し得らるゝ年伐材積は、四拾貳万尺〆弱であるが之れも針葉樹と同樣一町歩の平均材積を極く消極に見積りてあるから、實際は尙二三割の增加を見るであらう然るに內有用材として毎年拾万尺〆以上の供給力を有する者はナラノキ、センノキの二種であつて、之れに次ひではシナノキの五萬尺〆、其他ヤチダモ、ホヽノキ、キワダ、クルミ等又相當の產額があるも、從來ナラノキ、センノキ、ヤチダモ、クルミの樹種を除いては殆んど需用がない爲めにシナノキを始めキワタ、ホヽノキの如き、

年々少なからぬ餘剩を累加して現在莫大なる供給力を有して居る、殊に北見のシナノキは品質の點に於て既に有名であるから少し眞面目なる企業者が投資し、以て事業を起す樣の事となれは、充分の利益を見る事疑ひないであらう。

次ぎに白楊樹は從來所謂特產的關係から澤山あつたけれども、近來は官林より民有豫定地の方が餘程多い則ち官林では各所取集で約貳拾万尺〆內外で民有豫定地は約廿五六万尺〆の蓄積であらう而して該樹は其性質の關係から國有林にても皆伐作業を取るから、年伐量は比較的多いが、元來本道內に製軸工場を有する者以外には、拂渡さない規定であるから一般の需用に應ずる事は出來ない、然し民有豫定地は何等制裁なき爲め自由に買受け、諸般の用途に充す事が出來る。

四民有豫定地上の材積　前にも述べた如く現在以降將來林地、牧場、耕地として民有に歸する面積は實に漠大な者である、今假りに其面積の概算を見積つて見れば又大約貳拾万町歩より降る事は万あるまい、然して各種地上の立木は一面障碍物として取扱はれ居るので一齊に皆伐を希望するのと、比較的運材に便利なので、賣買上所有者も事業者も大に好都合である、殊に土地所有者の方より見れば座して數百千金を得らるゝ譯だから誠意以て事

業家に信を置し出來得る丈けの便宜を取計ふ如きは勿論の義務である。偖て樹種に於て針葉樹則ちトヾマツ、エゾマツの占領地積は官林より甚だ少ない、則ち民有豫定地の約二割五分なる六万町と見て大差あるまい、然し之等は殆んど皆伐の情態であるから利用材積は仲々多い今假りに一町歩の利用材積を平均百尺〆の少量と見積りても優に六百万尺〆はある、又トヾマツとエゾマツの混淆歩合はトヾマツの方が多い樣である、尚エゾマツは黒の方が勝つて居る、産地としては紋別郡澤木、幌内、渚滑、常呂、野付牛、網走郡ツベツ、斜里郡越川、上斜里、アツカンベツ、オンネベツ、ルサ等の地方は實に美麗なる林相を呈して居る。

濶葉樹は地勢が概して緩であるから一般に巨大で又た其徑長の如きも針葉樹に劣らぬ特長を有して居る、就中ナラノキ、センノキ、ヤチダモ等の有要樹種は純林としては少ないが他の雜木と混淆して到る處に秀抜な者が澤山ある、今全地積の六割五分則ち拾四町の區域に渉り單に用材のみを限り蓄積を求めんに一町歩平均五拾尺〆と見て七百万尺〆となる、内センノキ、ナラノキヤチダモ等の有要材を其二割と計算しても、之れ又百四拾万尺〆を得らる、誠に少なからぬ産額と言はねばならぬ。偖て産地としては四郡内何れも甲乙なき樣であるが、就中野付牛、斜里、美幌、渚滑方面は比較的富んで居る、而して白楊樹則ちヤマナラシは獨りモコト地方のみにても六万尺〆其他野付牛、美幌、ヤムベツ、サロマ、ニコロ、トコタン、バロウ、イクタラ方面にかけて合計約貳拾五万尺〆の大量を現存して居る。

五、結論　北見四郡に於ける森林の狀性と需給力の關係は以上を以て略ぼ窺知せらるゝであらう、尙便宜之等官民兩樹林の伐合計を累計すれば則ち國有林に於て針濶計百四十万尺〆、民有豫定地に於て七百五十二万尺〆其他白楊二十五万尺〆總計實に九百十二万尺〆の大數となる、而して國有林の伐量は永久輪伐的に作業せらるゝ結果、從て其供給力の無限なのは更めて申す迄もない、又民有樹林地は現在以降重に解除せらるゝ新區域を見積りてあるから、固より千古不伐の處女林である故を以てか殊更らに吾人は益世の事業家に向つて注意を喚起したいのである、況んや國としては、從來の企業者を始めとして尙一人たりとも眞面目なる事業家の入り來る事は實に我北見文明史上忘る可からざる光りであるからである云々

第五節　鑛業

四郡の面積山川の大を以てして、鑛物の天恵に缺如せるもの、如く説く者あるは、抑も亦た誤れるの甚だしきもの也。從來鑛業地として四郡の現はれざりしは、畢竟するに交通運輸の便開けざりしに由る。されば重量及び容積の輕少なる砂金の採取のみを以て、鑛區出願者の多數を占めたるものなるべし。今や鐵道の開通に隨ひ、漸次鑛區出願の範圍を擴大し、金銀銅石炭滿俺の如き露頭あるヶ所に向つて、探見者の冒險的視察調査を遂げ、北見鑛業界の勢力沖天の觀あるに至るや必然にして、先きの天恵皆無論者をして顏色なからしめずんば止まざるべし。現今砂金其他の鑛區所在地及び鑛業權者等は左の如く、野付牛上湧別の金銀銅鑛、常呂の滿俺鑛は未だ何人の掌裡にも歸せずと雖も、是れ亦た企業家の注目を促がし能取山道の石油も市場に上るの時あるや疑ひなし。

鑛業權者現在數調

試掘	斜里郡	金	中川　助作	砂金	後藤勝藏、大場新次
遠音別	銀	工藤とめの	金	斜里郡	尾形留七、岩谷定治
同同	銅（金礦）	清水　康雄	同同	同人	

試掘	紋別郡	砂金	紋別郡	尾形留七、岩谷定治	
紋別	金	矢野篤之助	金湧別	木村唯一	
同	常呂郡	石川岸源平	同	清水藤次郎、織田篤馬、安藤磯次郎早川市郎右衛門	
同	太茶苗	炭	橋本基次	同同	同人
同	斜里郡	金	宮下幸一郎	同同	及沙留　岩田宗晴
遠音別	銀	横山　肇	同	紋別	新谷文藏
同同	郡	藻	古屋憲英、白石義郎	同同	渚滑　島崎幸、齋藤仁藏、大木勇助
採掘	斜里郡	硫	皆月　ハッ	同同	同人
遠音別	黄	同	同人	同同	同人
同同	同人	同同	矢野篤之助	同同	同人
同同	同中村定三郎、古屋憲英、	同同	瑠橡　大多喜長造		
同同	尾形留七、岩谷定治	同同	奥部　河合吉太		
同同	小野庄太郎	同同	遠藤大哉、中川三郎		
同同	紋別郡奥部	遠藤大哉、中川三郎	同同	雄武　田口源太郎	

編輯
砂川龍助、山崎守太郎、小林
金幌内處二、遠元重元、酒井千代松　同同同人
同同同人　同同部瑠橡、興部　羽柴義謙、
同同　羽柴義謙　雄武澤木、幌内　鈴木德三郎

第六節

商業と金融

商業地としての北見は、農産林産工産鑛産水産の各種を合して、漸く三百五十餘万圓に過ぎず。而して輸入超過三十万圓内外を上下し、戸數一万二千戸を算じ、人口僅かに六万に垂んとする狀況なるを以て、特に之れを論ずるの材料に乏しき憾みなしとせず。新開地の通則として移民の集團と共に、必らず數戸の商店現はれ、商品として呉服太物を店頭に飾るの外、和洋酒、罐詰類は言はずもかな、白米味噌醤油石油菓子莨より、鍬鎌ハローブラオの農具は勿論、或は鍋釜、和洋小間物雜貨の果て迄、よろづ屋的に店頭に陳列し、以て顧客を待つ。其利純大底二割以上を貪ぼり、尚ほ且つ飽き足らざる顏色あり。甚だしきに至ては、農家所要の商品を高價にて貸賣し、秋収の時に及んで、農作物の販賣を引受け、自己の貸賣代金を取立つる外、仲買人としての鞘を利する者比々皆然らざるはなし。或は

十勝釧路方面の商買は貸賣品に對して、三ヶ月以上は毎月二割内外の利息を付する慣例を作りつゝありといふも、北見の商家に在ては未だ如此慣例あるを聞かざるは、未だしもの幸福ならんか。商人側より言はゞ、二割三割の利益を商品に付し置くも、時に貸し倒れの損失あり、時には廢物を生ずることあり、旁々外觀と内容と全く反比例し、商店も中々發展どころか維持すら困難なりと。然れども北見の商人は、比較的暢氣なり、則ち生活上の苦勞少なし。苦勞少なきは一面商品利益多大なるを意味し、暢氣なるは他面競爭心稀薄心を運鈍ならしむ。無理も思ひ切つて言ひ放ち亂暴も臆面なく斷行す。譬へば二三圓の商品を購ふに當りて拾圓紙幣を出したりと假定せよ。而して購ふ者は五六里も隔たりたる農夫にして、收獲物を賣渡して始めて握れる汗膏の代價なるとを記せよ。商店の小僧曰く剩錢なしと、では此次まで貸して下さい。貸賣は店則として致しません、併し剩錢丈けは私の方で、預にして上げますから、此次に出た時にしては如何ですと、さも親切らしく語るを耳にす。時刻遲くなれば歸宅後に入らむ、最愛の妻子は、購ふ可く豫定せる品物と自己の歸りを如何に待詫びつゝあらんかを、遂ゐに剩錢は商店の預り證となりて、賣買は茲に一段落を告ぐ。商店の預り證は單純なる農夫の貸賣と相同じ、一方貸賣は店則として峻拒し

借賣は都合善ければ迚、蔭に廻つて舌を出すや否やは保證の限りにあらざるも、斷行して敢へて憚からざるのみか、世人も亦見て以て毫も之れを怪まず。又冬季交通不便の際に於て、米穀又は石油の如き日需品倉庫に充溢するに係はらず、遽然品不足を流布せしめ、一足飛びに暴利を貪ぼるの實例甚だ多し。或は四斗入一俵の白米八圓にて買入れたるも、相場は次第に崩れて七圓台に喰ひ込みたる場合、尚ほ且つ北見相場として八圓の價額を維持せしめ、商家は相連合して之れに當るも、之れと正反對に七圓臺にて買入れし白米が、八圓臺に暴騰せし入電に接するや、直ちに値上げを斷行して暴利に飽くの實例甚だ多し。如斯は二流三流の小賣商人に在りては容易に行はれ難きも、一流の卸商人仲間に在りては朝飯前の仕事にして、眞に一擧手一投足の勢に過ぎず、商人の暢氣と苦勞少なきは、結局生産從事者の不利益を意味するものにして、何れの時か經濟界の權衡を保ち、生産者に於て自由に且つ愉快に商賣を左右し、擒縱し得るの時機に達すべきか、固より購販組合の如き産業奬勵生産者保護の途多々ありと雖も、今日の北見としては之れが成立は易々たらんも其の活用に至ては亦た甚だ遺憾の点なしとせざるべければ、一朝一夕に之を望むことを得ざるべし、交通の便は開らけて、四十五年以降の北見商界は永く春夢を結ぶを許さず。

爾の勇氣を鼓舞して、爾の天職を發揮せずんば、急轉直下の勢を以て、主客顚倒の變調を現出せん。金融機關としては四郡中唯一の根室銀行網走支店あるのみにして、各地に貯金組合あり多少の金融調和に資するなしとせず。今左に根室銀行網走支店の四十四年度に於ける金融狀況を得たれば之を參考に供せむ。

明治四拾四年中根室銀行網走支店金融概況

金

預金		拂戻高	
總預高	六五三、九一二円七五〇		六一〇、八二六円九〇
當座預金	一六五、一七五、三三〇		一三五、八四二、五〇〇
小口當座預金	一九〇、五六二、五四九		一二七、四八七、五〇〇
其他諸預金	一、〇〇九、六五〇、六二九		八七四、一五六、四九〇
合計			
貸出金			
貸出高	二三三、七〇四、〇〇〇	返濟高	一四七、一七三、〇〇〇
貸附金			

當座貸越	一七、二一〇、六一〇
割引手形	一一一、〇七〇、〇〇〇
荷爲替手形	一〇三、八四六、四七〇
合計	四六四、八三一、〇八〇

荷爲替手形仕向ケタル分

地名	受ケタル分
根室	三、八八九、八三〇
函館	二五、七六七、九二〇
小樽	二二、三五〇、九三〇
青森	〇
土崎	〇
東京	一一、七九三、四五〇
其他	四〇、〇四四、三四〇
合計	一〇三、八四六、四七〇

北見之富源

地名	送金手形取組	高	仕拂高
根室	九、五九六、六〇〇		二、〇七六、一三〇
釧路	四五二、三三九、九七〇		五一、〇〇〇
帶廣	一、一〇〇、〇〇〇		八、四四五、〇〇〇
利別	五五〇、〇〇〇、〇〇〇		八七七、八九〇
函館	二八六、一五七、九二〇		二〇、五三五、〇六〇
小樽	一一五、三九七、四八〇		四七二、四七二、七四〇
札幌	二二、一七一、七五〇		七八、〇三六、五六〇
旭川	三三、三八三、九二〇		一一二、一五七、一一〇
東京	四三、六三九、一七〇		三三、六〇二、五二〇
其他	五六、〇〇四、八〇〇		一二三、二六二、七一〇
合計	一七八、〇二五、九一〇		八五一、五一六、七二〇

此の他野付牛村に於ては、明治四十年來大同造資組合を設けて、他日金融機關設立の準備、

を爲しつゝあり。其方法たるや一口金五圓宛滿四ヶ年貯蓄し、五千口一万貳千圓を得る時、定にて今既に全部組合員の蓄積を結了したる由なるが、之れが首腦者としては鈴木浩氣氏を組長とし、岩淵周之助氏を會計主任とせり。

網走町に於ける會社銀行の營業目的及び資本金等の事情は左の如し。

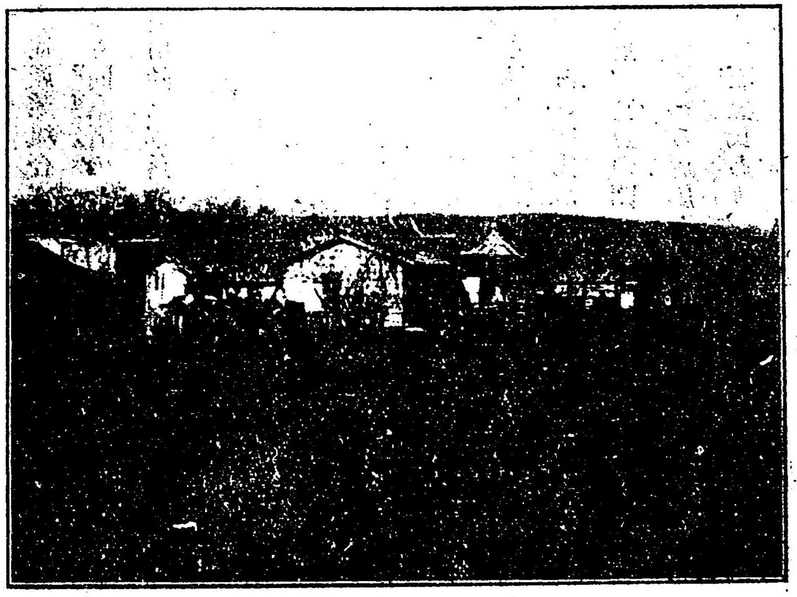
名稱	所在地	設立年月	營業目的	資本金總額	拂込金額	積立金	社債現在額
合資會社北見運送組	網走町大字北見町中通二丁目三番地	四十三年四月廿三日	運送業	一〇、〇〇〇円	三五、〇〇〇円	―	―
日本燐寸軸木株式會社	網走村大字大曲一番地	卅九年五月	燐寸軸木製造販賣	五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	三、二〇〇	―
株式會社根室銀行網走支店	網走町大字北見町中通五丁目三番地	三十一年三月一日	銀行業	五〇〇、〇〇〇	三五〇、〇〇〇	一四五、〇〇〇	―
合資會社網走倉庫	網走町大字北見町中通二丁目三番地	四十二年十月十八日	貨物保管倉庫業	一〇、〇〇〇	一、二五〇	―	―
北海林業株式會社網走出張所	神戸市湊町三丁目六番邸網走町大字北見町中通一ノ四番地	四十一年五月	北海道產林木の海外輸出及燐寸軸木の製造販賣並に北海道に於て植樹開墾牧畜を爲す	二〇〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	〇、六〇〇	―

此他產業組合法に依る團體として、丸日組網走商業組合及び網走海陸物產商組合なり。何れも同業者の一般的利益を保護し、併せて親睦を敦ふする目的を以て組織せられ、前者は橫山隆三郎后者は中川米次郎の兩氏首領たり。

第二章　官衙

北見之富源を管轄する行政廳の首腦は北海道廳網走支廳と稱し、廳舍は網走町に在り。現今山浦常吉氏支廳長として在任し、圓轉滑脫、常識に富み、其民衆に對するや極めて溫容寬も城壁を設けず、氏の德を頌する者多き從來稀に見るの良二千石也と評すべき乎。是れある哉氏の網走支廳長として轉補せらるゝや、北見拓殖の事務は立ろに振張し、移民四集、富源の開發手に唾きして爲すべきの盛況を呈せり。氏の配下に在りて拓殖勸業の要衝に當れる者屬石黑藤太郎氏亦た盛名あり、伊勢は津で持つ、津は伊勢で持つ、山浦氏ありて石黑氏あり、石黑氏ありて山浦支廳長の圓轉滑脫の妙を示せるを思はずんばあらず。

敎育の橫山、會計の香川兩氏亦た好個の吏材として、行政廳の首腦は何れも適材を適所に



網走町南通り

官衙

置くと稱すべき也。

網走區裁判所　は網走町に在り、現任判事は栗田保德氏にして、在任日尙ほ淺く評判如何は知る所にあらず。

網走警察署　網走町に在り、警部松井太郎氏署長たり。辣腕か敏腕かは知る人ぞ知らむ。先づ歷代の署長中に就きて比較せば、氏の如きは怜悧のお役人と評するも過褒にあらざるべし。

網走營林區署　網走町に在り、技師松岡直溫氏署長たり。氏は溫厚篤學の士君子にして、紳士の模範とす可し。其品位ある態度と悠揚として迫らざる應接振りは、人をして思はず襟を正さしむるものなからず。

網走土木派出所　網走町にあり、昨冬の新築に係る。技師神保金衛氏所長として敏腕を振へり、新進の工學士にして前途有望なり。

網走稅務署　網走町に在り、稅務屬六谷喜十郎氏署長たり。着任日淺きも營業稅及び所得稅調査のため、個人の家宅搜査等の如き、未曾有の行動ありて一部の非難ありたるも、氏は前任地河西稅務署に在りて、好評を受けたる眞面目なる吏人なれば、昨日の惡評は部下の獨斷的行動として自然證明され、漸次氏の眞價を認むるに至るならんと。

網走二等測候所　網走村字ニクルの丘上に在り、北海道廳技手星川信吉氏所長たり。在任の長き網走官界稀れに見る所、氏は溫厚篤實毫も邊幅を飾らず、他人に接するや丁寧親切にして、眞に古武士的俤あり、春秋に富み前途有望なり。

北見農事試驗分場　常呂郡野付牛村に在り、技師梁田參氏場長たり氏も亦た溫厚篤學の士にして熱心農事の指導開發に盡されつゝあり。

第四章　交通

現今海路によりて出入するものは、先づ北海道廳の補助を仰げる、日本郵船株式會社の定

期船に據るか、又は社外船に依らざる可からず、航路は函館若くは小樽の兩港に起り、東の方根室を經て知床岬を過ぐるものを、稱して東廻と云ひ、西の方宗谷海峽を通過し來るものを西廻と稱す。補助航路中東廻は函館、釧路、厚岸、根室、羅臼又は泊、斜里の各港に寄港して網走を終點とし。毎月三回の往復あり。西廻は小樽、稚内、枝幸、幌内、雄武、興部、沙留、紋別、湧別、常呂の各地に寄港し網走港に至て止む、西廻航路は毎月八回以上の往復を爲し社外船にては藤野汽船部所屬のもの及び臨時船の入港するものあれども、期日の確定せるにあらず。

陸上の交通は網走線鐵道に依りて十勝又は釧路方面より出入の便あり。函館青森間の海運を除きたるもの

網走　上野間　九百七十四哩二分

網走　札幌間　三百七十六哩二分

にして假定縣道により奥部經由とせば

網走　札幌間　百〇九里廿二町

第七師團所在地なる旭川に達すべき中央道路を通過するとせば

網走　札幌間　九十三里十一町十八間

に短縮せられ、網走町より隣接各市街への距離は

根室町へ　四十里十七町四十五間

稚内町へ　七十一里廿一町四十八間

美幌村へ　九里一町

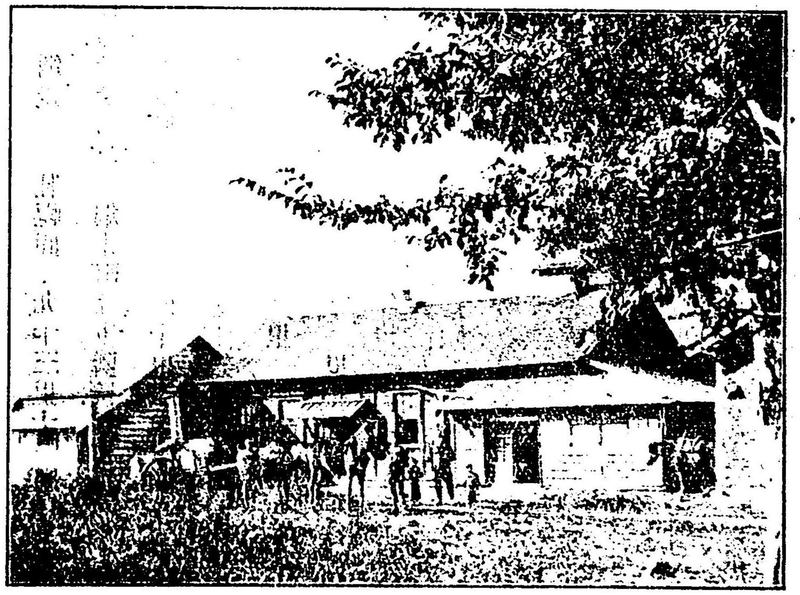
野付牛村へ　十一里十三町五十間

紋別村へ　二十三里三十町十六間

あり。各町村間又は隣接國との道路筋へは、四里乃至三里毎に官設若くば私設の驛遞所ありて、旅客の宿泊、人馬の繼立業に從事し、遺憾なきを期せらる。

道路は一時凌ぎの殖民道路多く、假定縣道と雖も、補修粗漏なるを免かれず、一朝連日の降雨に逢ふ時は、人馬の通行に支障を來し、物貨の運送甚だ困難となり、運賃暴騰するの弊ありと雖も、新開地の悲しさ到底路面の完全を期し難き事情なしとせず。

官設驛遞所又は私設人馬繼立營業は、冬季及び夜間又は惡路ならざる限り、乘馬一頭一里の賃錢十二錢にて旅客の求に應じ。貨物の運送は荷馬車を以てすると、駄馬に依るとの差



交通

中佐路測量遞所

ありて、一定せずと雖も、大抵一駄十錢内外の割合なれども、貨物の多少と距離の遠近に依るは勿論なりとす。

今假りに海運の便に依りて、貨物の輸入を計らんと欲せば、

自網走至各港滊船運賃

（中牟田回漕店調査）

着港名	運賃摘要	
小樽	金四拾五圓也	陸揚地仲仕及び解賃本船持ちの事
函館	金四拾九圓也	仝上
神戸	金九拾五圓也	積取船仝上
	金八拾五圓也	
四日市	金九拾五圓也	積取船仝上
	金八拾五圓也	
横濱	金八拾圓也	積取船仝上
	金七拾圓也	

解賃	百石	一一円六〇〇	壹個	円〇五八	但し五斗入雜穀二百俵
陸送賃	百石	三、〇〇〇	壹個	、〇一五	仝上

網走港諸掛

驛名	運賃	摘要
釧路	金參拾五圓參拾六錢也	雜穀百石の運賃
中央小樽	金五拾六圓參拾六錢也	仝
兩館	金六拾七圓四拾四錢也	仝

自網走至各驛汽車賃

釧路各驛間運賃調

至釧路	置戸	訓子府	上常呂	野付牛
哩程	一三四哩	一四三哩	一四八哩	一五三哩
木材	二〇円一六	二〇円三〇	二〇円三〇	二〇円六八
				七噸一車貸切

白米	二〇円一六	二〇円三〇	二〇円六八　七噸一車貸切
農産	一三、一三	一三、九二	一四、三五　一四、七九　仝

網走各驛間運賃調

北見之富源

至網走	置戸	訓子府	上常呂　野付牛
哩程	五二哩	四三哩	三八哩　三三哩
木材	九円九四	八円九三	八円〇五　七円一八　夜七噸一車貸切
白米	九、九四	八、九三	八、〇五　七、一八　仝
農産	五、九五	五、一七	五、一七　四、二九　仝

備考　七噸一車積込量左の如し

木材	樹	大凡貳拾壹貳石	青木	仝三十一二石
	白楊九太	仝　二十二三石	栓角	仝三十一二石
	枕木	仝　八吋百本　九吋九十本		

北見之富源

農産	大豆四斗入	百三十二三俵	小豆　仝　百二十四五俵
	長鞦四斗入	百三十俵	小麥五斗入　壹百俵
白米	百二十俵		

前表に依れば函館網走間百石の汽車賃六十七圓四十四錢に對し、瀧船賃四十九圓なりといへば、之れに十一圓六十錢の艀賃及び陸送賃三圓を加ふるも、尚ほ四圓弱の少額となり發着手數料積卸賃等を加算すれば、冬季航海杜絶の場合を除く外、鐵道便に賴るよりも、瀧船に依るを以て利益ありとすべし。況んや從來の經驗によれば、白米の如き產地なる新潟秋田越中方面より、直輸するとせば百石僅々三十四五圓の運賃を要するに過ぎず。假令鐵道院に於て破格の大割引を斷行し以て、瀧船と一大競爭を開始せざる限りは、長途の汽車輸送を見ること稀れなるべしと斷ずべし。

第五章　教育衛生

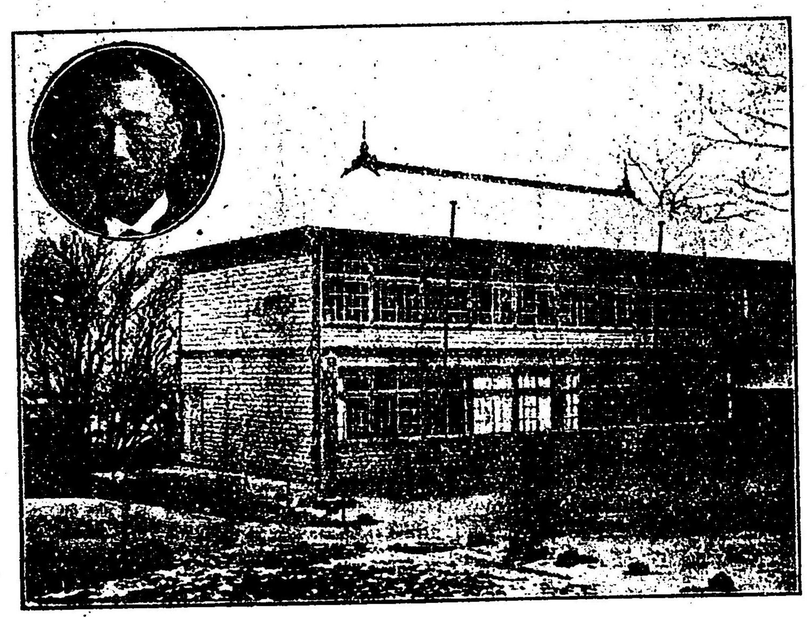
四郡に於ける教育狀態は、新來移民の集合するに隨ひ、先づ假校舍を設けて特別教授所とし、順次進んで、簡易教育所、尋常小學校尋常高等小學校を設置するに至る。今四十三年末管内小學教員、兒童、學級種別表を掲ぐれば左の如し。

學校別	學校數	學級數	兒童數	一學級平均兒童數	正教員數	備考
特別教授所	四〇	四〇	一、一八七人	三〇人	一	
教育所	一九	二三	九六九	四二	二	
尋常小學校	一七	三五	一、九二〇	五五	一七	
尋常高等小學校	九	六四	三、一八四	五〇	三三	内譯（尋常小學校二千八百二十七人、高等小學校三百五十七人）
計	八五	一六二	七、二六〇	四五	五二	

にして、爲めに毎年要する所の經費は各郡町村を通じて、七万一千〇十二圓六十二錢五厘を算し、之れを各町村費總額十三万五千五百八十三圓三十錢五厘と對照すれば半額以上の巨額を占め。教育費一戸平均率最も高きは沙留外一ヶ村の九圓十六錢三厘にして澤木村の八圓九十三錢七厘之れに次ぎ、常呂外三ヶ村の四圓三十八錢二厘、能取村の四圓四十錢九厘は少額の部に屬す。

單に開村の新舊に依るのみならず、苟くも一戸を構へ、一部落を造る以上學齡兒童を有すると否とに論なく、當然責任の重大なることを自覺するは、教育費の負擔に於て、特に其最も適切なるを認めずんばあらず。見よ今日の行政機關に於ては、學齡兒童の就學を奬勵するに急なるも、如何にして教育費を納付せしむるに易き乎は、論究せられざるにあらずや。無教育の徒は眞の國民にあらず、帝國の富強は教育の普及すると否とに關す、縱令食ふに食なく飲むに水なきも、疲れし足を學校の門に入らしめざる可からずと言はゞ、誰れか亦其無情に驚かざる者あらんや。且つ之れが教員となりて教鞭を握る者は往々にして轉

々他に任を更へ、敢へて兒童と家庭とに親炙するの暇なく、漫りに赴任旅費を貪ぼるが如き弊害なきや否や、而かも教員其人の心事陋劣なるや、其前任地の學校に於ける諸種の事情は粗漏極まる調査報告に委ねて以つて、自村の教育場裡に招致すること、恰かも娼婦の遊冶郎を引張り込むに似たるものなきや。昔は病者あり、庸醫來り診して曰く、斯病に人參を用ゐれば、立ろに平癒せんと。即ち巨額の金錢を投じて、之れを購ひ服藥せしめたるに却つて頓死せりと。固より一場の偶話に過ぎざらんも北見に於ける教育界の事情は、大に之れに類する者なからず。既に新開地として、各般の保護奬勵を與へて、移住せしむる以上は、一定の期間を限りて、義務教育の費用を國庫支辨とし、教員の轉々更任する弊を絶ち、新來父兄をして彼れが如き重き負擔を免がれしむるの急務なることを叫ばずんばあらず。既に教育其ものゝ國家の富強に大關係ありとせば、國家が相當の保護を與へて、移住せしめたる者に向ひ教育費を支辨するは、決して不當の要求にあらず。苟くも口に北見の開發を説く者は、念ひを深く茲に致して輿論を喚起すべきなり。



稲垣校長と北見女學校

私立北見女學校は網走公園桂ヶ岡に在り稲垣吉愼氏の經營に係る。明治四十三年の創立にして翌四十四年五月廿五日、道廳長官の認可を受く。昨四十四年三月選科生第一回六名の卒業生を出し、今四十五年は補習七名本科五名選科十八名の卒業生を出すべく、成績頗ぶる良好なりといふ。

教師は校長一名、學科教師一名、裁縫教師二名、保姆一名、舍監一名、嘱托教師四名にして、現在入學生徒數は選科四十七名本科十三名補習科十二名を算し、尚ほ本年度新學期よりは入學生劇增して百二三十名に達

するの盛況を呈するならびといふ。

同校の特色とするところは教師と生徒とは宛然一家庭にあるの思ひあらしめ儉素質實を旨とし苟くも浮薄に流れ奢侈に渉るが如きことなからしめ、經費は一ヶ月食費舍費月謝及び小遣錢を合せて、月額僅かに六圓以内にて、辨じ得べしとなり。尙ほ本年は附屬幼稚園を開らく計畫熟したりと聞く。

教育衛生機關としては網走外三郡教育衛生會あり。山浦支廳長を會長に戴き、各町村役場所在地へ支部を設けて、各町村長戸長を支部長とす、事業として經營したるもの丶内、特筆すべきは、小學教員夏季講習會開催、聯合教育會に代表者出席、教育活動寫眞利用等にして、悁氣滿々たる北見の教育界に向つて一掬の刺劇劑を與へたるに似たり。終身會員三十二名、通常會員千百十六名、四十四年度の收支豫算一千七百五十圓を有す。

衛生に關しては網走病院長醫學士池端俊輔氏が、本書のため特に寄稿せられたるに付き左に之を掲ぐ。

醫學士 池端滿俊輔君

單に北見と言へば、烏も通はぬ八丈ヶ島以上の聯想を起す人多し。されどこは所謂喰はず厭ひの評論にして空想の愚を悔ふるに至るもの多し。此れ等に就きては既に詳しき前記述に讓り、余は爰に少しく當地衛生の模樣を概述せん。

網走外三郡に於ける現在醫師數は三十一名あり、其散在個所と醫師數とを表記すれば

郡部	醫師數	大學卒業	官立醫學校卒業	試驗及第	從來開業	限地開業	合計	數
網走	一八	一人	七人	一人		一八	二八	
斜里	一八		一人	一人			二人	十人
常呂	一八		四人	一人			五人	八人
紋別	一八		五人			二人	七人	十一人

合計醫師數　一人　三人　六人

十六人　二人　三人　三十一人

藥劑師數

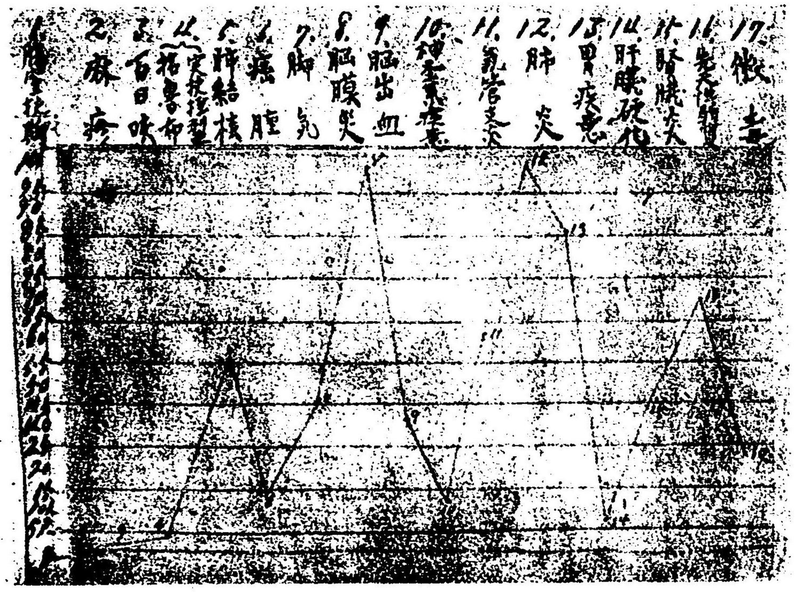
郡別	試驗及第	舊試驗及第	合計
斜里			
網走	一人		一人
常呂	二人		二人
紋別		一人	一人
合計數	三人	一人	四人

産婆數

郡別	試驗及第	限地免許	合計數
斜里			
網走	三人	二人	五人
常呂	七人	一人	八人
紋別	三人	三人	六人
合計數	十三人	六人	十九人

されど尚山間僻地に至りては醫師の不便を訴ふる處多し、されども鐵道開通拓殖進捗の結果醫師の當地に業をなさんとするもの續出するの傾向あるは慶賀す可き事なり。

此より當地方に於て最も多く人命を奪ふ病魔は如何なるものが大部分を占むるかに就て、當管内の死亡統計表を掲げ此れを論述せん。



以上の表の示す處に就て考ふれば、最も多數を占むるは腦膜炎と肺炎なり此れに次ぐは胃疾患、先天性弱質、氣管支炎、肺結核等なり、而して吾人の最も注意を惹く處のものは急性傳染病の數なり。今顧りて日本全體に於ける死亡統計表を見るに、日露戰役には七万五千餘の將卒を殺し了り、廿九年に於ける三陸の海嘯は二万二千餘の生靈を浚ひ去り、其他日清戰役廿四年に於ける濃尾震災も亦た幾多の人命を奪ひたりと雖も決して其年の死亡數を上すに至らず、反てコレラ赤痢等の流行を來せし明治十九年の如きは最も死亡數の高きを示せりされば吾人の生命を最も多數に奪ふものは天災に非ず戰爭に非ず寧ろ急性傳染病なりと言ふ

も敢て過言に非す。斯く恐る可き急性傳染病が此表中に於て最低數を示し然も其種類に至りては唯腸窒扶斯、實扶垤利亞痲疹等に過ぎず、此の如きは殆んど他地方に見ざる處にして北見人士の幸福此より大なるはなく、以て北見は急性傳染病に對し所謂極樂の別天地と贊美するも過言に非ざるなり。然れども北見人士は之を以て大平を夢み、若し交通機關なる鐵道縱橫に當地を貫通する未來の曉も、尙此の極樂の狀態を持續し得ると言ふが如き空想を維持せんか、此れ大なる誤にして鐵道は遠慮なく傳染病を運び、淸淨なる此別天地を忽ち修羅の巷と變せしむるの時期は將來に於て來らずと斷言すること能はざるなり。

して修繕

さて飜りて多數を占むる疾患に見るに最も多きは腦膜炎と肺炎なり、然れども北見に於ける最も多き疾病を直に此等疾患を歸することは不可能なり。如何となれば以上の表は死亡の統計表にして患者の數とは全く別問題なり。例之ば神經衰弱、咽喉加答兒、或は氣管支炎等は當地に於て最多數を占むれども、大概此等患者は死亡するに至らずして治癒するものなるが故に此表にては少數に外見するなり、此れに反して腦膜炎等の如く此れに罹れば殆んど死亡する疾患は此の表の高數を示すは勿論のことなればなり。故に此の表を以て直に當地人士をなやますこと最も多き疾患は何物なるかを論ずること難し、今余輩當地赴任後四ケ年間に於ける實驗により少しく喋々せん。

當地の氣候と呼吸器病との關係

、足を當地に入れざる者をして當地の氣候を豫想せしむれば一言にして寒冷と言はん、然れども事實は此等簡單なる一言を以て言ひ盡す事能はず余をして此れを言はしめば半ケ年は春暖の期にして、半ケ年は寒冷の期なり。寒冷の期は十一月より翌年の三月末日に至る間にして其中最も嚴寒と稱するは流氷の當海岸を見舞ふの時期にして、一月の下旬より二月の終りに至る間なり。然れども屋內は暖爐の設備完全にして加ふるに薪炭甚だ安價なるを以て寒氣に苦しむこと甚だ少く、寧ろ東京に於ける炭火生活より暖きこと數等なり。されど屋外の空氣は甚だ冷にして屋內の空氣と屋外の空氣の溫度の差著しき爲め、呼吸器道の疾患を起すこと甚だ多く、爲めに小兒の氣管支炎は冬季に於て著しく增加し、其結果抵抗力弱くなり、延いて肺炎等を起し死に至るもの多々なり。或は此れが肺結核の誘引となるもの亦少からず、今此肺炎の死亡數を月別にして表記すれば此理一目瞭然なり。

月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
肺炎死亡人數	五人	十四人	八人	十一人	四人	六人	三人	五人	六人	四人	七人	十七人

北見之富源

即ち此の表の示す處によれば、十二月最も多く四月此れに次ぐ、兎に角余の所謂寒冷の期に屬する月には同患者の數增加せるを知るに難からず、此れ上述の理によるなり。されば寒冷の期に呼吸器弱き者に適せざるも、四月中旬に至り海面の氷塊は離散し跡なく地上の青草萌え出づる時に至れば心氣一轉所謂極樂の境に入るの思ひあらしめ七月八月の猛夏と雖ども一團の春風吹き渡り、百花一時に開き蝶舞ふの光景を呈し暑さと言ふ事を知らず、四月下旬より十月迄は斯くの如き良氣候打續き其快言はん方なし、されば一度當地の夏の良味をなめたるものは足を南に向け旅行するを辭するもの多かる可し、加ふるにオコック海により清淨にせられたる良空氣は此沿岸一帶に充滿し、尙新鮮の魚介に乏しからず。唯比較的魚の種類多からざるを遺憾とす。然れど此の近海には魚類少きに非ずして、捕獲方法甚だ拙劣なるが故に、種々の魚を捕ふるの手段を施さず、唯來るものは我網に罹れと言ふが如き聖人的漁夫のみ語を換へて言へば捕ふるに非ず、偶々捕へらるゝを待つと言ふ方適當ならん、されば土地の開發と共に漁業方法を改良せば種々の魚介の豐富となる必せりされば余輩は此良氣候良空氣新鮮の魚介が當地をして冬と反對に反て呼吸器病者例令ば肺結核患者の轉地療養地として決して須臾明石に一步を讓らしめぬものと信じて疑はざる處

なりされば鐵道開通し交通の便開けたる曉には當地に避暑的別邸を建築するも亦妙ならん家屋と疾病　一般に嚴寒時に於ける吹雪並に寒風を防ぐ目的を達せんが爲め、つとめて窓を小くするの惡習あるが爲め、光線の充分射入する家屋尠く從ひて衛生上不適當のもの多し、殊に山間に於ける孤つ家には此の事最も甚だし、且山間は交通甚だ不便なるが爲め食物極めて不良にして米さへ食せず、イナキビを常食とするが如きものあり、爲めに時々英吉利病の患者を出すことあり、又トラホーム等の傳染病一度斯る家屋に足を入るれば、全家人悉く此の爲めに苦めらるゝは屢目擊する處なり。されば交通機關發達と共に此等家屋の不完全なる點を改良し、以て來襲せんとする大敵なる傳染病に備ふ可きなり。

雪と眼病　雪降り出せば突然眼疾患者の續出を見る、殆んど毎年例となり居る事なり、而して屋外勞働者の此れに犯さるゝもの多く、甚だしきは激烈なる結膜炎を起し、或はトラホームの輕症なるものも、此の雪の光線反射の爲め刺戟せられて急性炎症を起すもの亦尠からず此等を總稱して當地方人は雪眼と稱し居るなりされば冬期の旅行の際は必ず薄墨色の眼鏡を用ゆる事必要なり。此は當に光線の直接反射を防ぐに功あるのみならず馬車等に乘る時馬蹄により飛散する雪粉並に塵埃の害を免るゝが故に此の結膜炎を防唯一の武器也

食物と疾病　北見は全般沃野にして地味肥え農夫は數年間肥料を要せずして作物を得る處多く從ひて野菜穀類は新鮮にして豐富なり尙魚類も山間に非ざる處は前述の如く種類は尠

第二編　北見之町村

第一章　斜里郡各村

第一節　斜里郡外四ケ村

◎沿革　明治廿七年以前は毫も記錄の徴すべきものなく、隨つて其詳細を知ること難しと雖も、今之れを稍々信憑すべき口碑其他の傳說?に據る時は、北見四郡の各町村に在りて當郡の首腦たる斜里村の開始は、最古の部に屬せり。幕政の頃ろ松前藩時代、本道の漁場は總べて所謂運上屋の支配を仰ぎ、維新前後會津藩專ら村落の守備に任ずるや、網走、常呂兩郡を加へて、之れが支配の下に置きたることあり。北見沿岸中斜里場所の名嘖々たるものありしといふ。

明治維新の太政に際し、開拓使廳の所管に歸するや、十一年十一月廿五日第廿七大區二、三、四小區々務所を、斜里村に置き總代人川端又三郎區務取扱を兼勤す。爾後戸長の任に當る者同人及び前田友治、和賀魚取、永田高致、中山維重、後藤彌次郎、福原才次郎、兼

きも尾數は豊富にして安價なること驚くの外なし、然れども鰊を多く粕肴さしず食ふの悪習ある爲め纔かの害を蒙むるもの多しされど衛生思想の發達と共に此等悪習の減少する傾きあるは賀す可きことなり。

當地と神經衰弱症　文明發達優勝劣敗の度進むに從ひ、神經衰弱症の增加は避く可からざる處なり當地も亦神經衰弱者比較的多し、其源因に至りては種々あるも其主なるものは遠く故國を離れ移住せし人多きが故故郷を思ふの念深きと他に無聊を醫する慰安物なきが爲めとによる處多からんか。

當地と花柳病　花柳病も亦他地方と同じく多數を占むる疾患の一にして殊に死亡統計上先天性弱質の多きも此の徴毒の依て預る處多からん。然れども當年ユールリッヒ泰氏の名譽あるサルバルサンありて殆んど此の爲めには如何なる重症も撲滅せらるゝものなれば、宜敷此の文明の利楽を利用し此等疾患の撲滅を計り健全なる第二國民をつくることに注意す可きなり。

其他尚記す可き處幾多ありと雖も、此小頁のよく盡す處に非ざれば、後に筆を擱く。

兎に角目下は急性傳染病の恐るゝものなく、尚宇ケ年間は實に住泉なる氣候を有する爲め衛生上には大平の夢を見つゝある時代なり。此夢果して何時破らるゝか將來を刮目せんのみ呵々。

北見之町村
新卒の斜里市街

重浦次郎、阿部八十治を經て、現任和知金次郎に至る。松前藩時代より維新に至る間、居民は概して土人のみにして、海岸に住し漁撈を業とし僅少の和人は漁期に至れば來りて土人を使役して漁業を營み、漁期去ると共に番人を殘して去る。維新前後に於て漁業家として、資産聲望最も高かりしは、藤野四郎兵衛氏にして、當時は全村擧つて主從の關係を有したりといふ。今尚ほ多數の漁場漁舍倉庫等を有し、其下風に立ちて生業を營む者亦た少からず、開拓置廳以來拓地殖民に付き保護奬勵至らざるなく、農事教師を巡廻せしめ耕作を指導せしめられたりと雖も、交通甚だ不便なりしを以て、刮目すべき進境を見ること能

はざりしが、明治三十一年斜里原野、飽寒別原野、止別原野等を解放して殖民區劃地を設定し、移民の來住日に月に多きを加へ、近年木材業の發展に伴ひ、天與の一大美林は漸く徒らに腐朽の厄を免れ、遠く海外の市場へ向つて輸出せらるゝあり茲に於てか始めて事業家の着目する所となりて、現今の盛況を示すに至れり。

◎地勢　△△

斜里村は斜里郡の中央斜里川の河口に在り、東は假定縣道を隔てゝ朱圓村に西は止別村に南は標津岳斜里ポンノボリの高峰山脈を以て根室國標津郡に境し、北方一帶は渺茫たるオコツク海に瀕す、中央に斜里川及支流サバラ川の貫流するあり、斜里岳は村の南に聳へ、北見第一の高山にして海抜四千八百尺なり、低地概ね平坦にして、針濶混合密林地多く地味一般に肥沃にして農事に適す、然れども海岸に近づくに從ひ濕地あるも、排水せば最良の地たり。

朱圓村は斜里村の東方にあり、東はヲコロルシトベツ川を以て、遠音別村に西は斜里村に接し南はウナベツ山其他の山脈高く聳へ根室國目梨郡に境し、北はオコツク海に面しウナベツ川朱圓川の小流あり、沿岸の低地は地味最も肥沃なり、其他は高丘地なるも概して平坦にして、何れも農耕に適せり。

遠音別村は知床半島に在り東南は千島帶山脈重疊し、知床山、硫黄山、金山、遠音別山等高く聳へ根室國目梨郡に境し、西南は朱圓村に界す。西北方オコック海に面し、海岸一帶岩石岬角甚だ多く、遠音別ウトロイワヲヘッ等良漁港ありて、最も漁業に適し高丘地は良材に富み諸川細流の低地は農耕に適せり。

止別村は斜里村の西方にあり東は斜里村に西倉瑠村に南は標津岳藻琴山の山脈を以て、釧路國川上郡に境し北はオコック海に面す、止別川は村の中央を貫流し、其兩岸は概して地味肥沃なり、其他高岳は一帶の平原にして樹、タモ、白揚樹等密生し、土地肥沃と云ふにあらざるも農耕に適せり、海岸に近づくに從ひ濕地あるも排水せば最良の地となるべし。

蒼瑠村は止別村の西北にあり、東は止別村に西は濤沸湖及ウラシベッ川を以て、網走郡に南は藻琴山脈を以て、釧路國川上郡に境し、北方一帶オコック海に瀕す、土地は高丘地多きも概して平坦にして農牧に適す、ウラシベッ川沿岸の低地は地味最も肥沃なり。

◎官公署　斜里外四ヶ村戸長役場明治十一年十二月二十五日設定せらる管轄區域は斜里村蒼瑠村、止別村、朱圓村、遠音別村の五ヶ村とす。

網走警察署斜里分署　年月日不詳斜里村四ヶ村戸長役場内に於て戸長事務兼掌明治廿八年中戸長役場と分離明治三十七年三月廿六日斜里村番外地現今の廳舍に移轉せり。

斜里保護區員駐在所　明治三十年四月一日森林監守駐在所を置かれ同三十八年五月林務課網走派出所斜里區保護員駐在所と改稱せられ官制改革の結果網走營林區署の配下にありて現今の名稱に改む。

斜里郵便局　明治八年七月四日の創設に屬す。

◎社寺　斜里山禪龍寺は曹洞宗明峰派報恩寺末にして、明治三十二年許可を得て說敎場を創設し擔當敎師鈴木雄禪能く力を布敎に盡くし苦心經營の結果同卅八年四月廿六日寺號公稱の許可を得たり。

◎戸口　斜里郡各村の總面積は實に九十四方里にして、而かも之れが下級行　政廳　としては、單に一戸長役場あるのみ。固より戸口極めて稀薄なれば事務亦た甚だ繁雜ならざるべしと雖も、之れを戸口過剩の嘆聲を發する關西諸國に比すれば、霄壤の差ありと爲すべし、明治四十三年末調査の戸口表を掲ぐれば、

北見之町村

戸數　人口　舊土人　戸口

	戸數	男	女	計	戸數	男	女	計
斜里	六二三戸	一、四〇三人	一、二五二人	二、六五五人	二三戸	三四人	五七人	九一人
止別	一二一、	二七〇、	二一九、	四八九、	二、	五、	三、	八、
朱圓	七九、	一〇〇、	七三、	一七三、	六、	七、	一一、	一八、
遠音別	五、	五、	四、	九、	｜	｜	｜	｜
蒼瑠	五、	六、	｜	六、	｜	｜	｜	｜
計	八三三、	一、七八四、	一、五四八、	三、三三二、	三一、	四六、	七一、	一一七、

◎財政一班（△△△△）　町村基本財産は左の如し。

土地時價　建物時價　有價證券　時價株券　時價現金　預金貸金　合計

斜里村	普通基本財産	四七〇円	二〇〇円	｜	｜	｜	八〇三円
斜里村外四ヶ村	普通基本財産	一五六、	｜	八一、	一、一五九、	一、三九六、	一三三円
	學校基本財産	七四六、	二、八三九、	｜	｜	｜	一〇、三、五九五、
	備荒基本財産	｜	二〇六、	｜	｜	｜	一、二五九、
							一、四六五、

にして明治四十四年度歳入經常臨時合計九千七百八十三圓三十三錢四厘の中に付き、雜收入使用料一千〇二十八圓〇八錢を除きたる外は、戸別割及び寄附金に依りて之を徵收し、歳出の主なるものは、教育費四千九百〇七圓八十六錢五厘、村醫費六百二十二圓八十七錢勸業費補助六百四十四圓三十錢、村費取扱費五百五十八圓、雜支出五百十二圓等なり。

◎教育（△△）　新來移民の增加と共に、義務教育に關する設備は、刻一刻も忽緒に附すべからざるものあり。各町村を通じて町村費の大部分を占領するは、實に教育費を以て首位に置く可し。而かも之れが經費の負擔者は、主として先住者に於て忍ばざるべからざるなり。僅々八百餘戸の斜里外四ヶ村に於ても、血を吐く思ひの決心にて設定せられたるものは、斜里尋常高等小學校、飽寒別尋常小學校、以久科教育所、小清水教育所、止別教育所、川上教育所、上斜里教育所の七校ありて、村費總額七千二百三十圓五十錢中、教育費は四千六百二十四圓四十六錢五厘となり、其六割四分に當れり。即ち一戸平均七圓六十三錢八厘の村費より、五圓五十五錢六厘の教育費を要する割合なれば、年々歳々其負擔は劇增し、或は爲めに町村の基礎を危殆ならしむることなきを保せず。土地廣漠にして、森林の富力大なる新開地に於て、宜しく現在又は將來有望なる土地又は森林の賣拂を受けて、他日の

用に供すべきは刻下に於ける最大急務なるべしと信ず。町村基本財産の造成は、各町村通有の宿題にして亦た常に新たなる努力を要する案件なり。苟くも地方の開發を談ずる者にして、單に築港鐵道の如き活問題のみを見て、基本財産の造成に力を致さずんば、他日噬臍の悔あるや必然なり、豈に思はざる可けんや。

◎△△△重要問題　斜里外四ヶ村に於て當面に横はれる問題は、網走釧路線速成より大なるは莫し、議會に請願して採擇せられたる一再ならざりしが、最近發表の鐵道網には幹線未成線として朱記せられ、釧路根室線鐵道沿線塘路驛より分岐して標茶驛を經て上斜里を通過し而して網走港に達するもの即ち是れなり。固より近く一兩年内に起工するや否やは、斷言し難きも然れ共地方人士、熱心活動の如何によりては、起工期日を繰上ぐること決して、至難の業にあらずと知るべし。

◎△産物　斜里には驚くべき豐富なる天産あり。遠音別の皆月硫黄山、及び金、銀、銅、鐵を有するの外、前述の如く肥沃なる殖民地、見事なる森林を擁す。木材の斜里は今後幾年の久しきに亘りて、益々其聲價を發揮すると共に農産鑛産又は工産水産に付きても、亦た著しく眞價を高め、往年北見一圓を支配したる斜里の全盛期を再現すること疑なしと信ず、要は有志の和衷共同、公共に力を致して倦まざるにあり、三井の土地賣拂決定に自から安んずるは、是れ自から侮る者なり、奮起せよ斜里外四ヶ村の有志諸君。

◎△△△村有志　斜里村に於て公共の事業に盡瘁しつゝある諸氏を紹介すべし。

△半澤眞吉君　は宮城縣亘理郡の人、明治十二年三月大藏省四等監吏補として函館稅關に奉職し、仝十三年三月職を辭し、四年六月網走に上陸し、仝月廿三日網走郡役所雇を奉職し、尋で十五年一月紋別郡各村戸長となれり。在職永からざるも當時草創の際、百事緒に着かざる時に當り、鋭意村政を整理し、村治に貢獻せられしこと尠からず。明治十八年四月職を辭し再び網走に出で、在住中總代人となり、教育事業及び町村の經營發展に盡さる。君性豪邁にして進取の氣象に富む、夙に心を拓殖に傾く、明治三十三年斜里小清水に驛遞所の開始せらるゝや、君進んで其取扱人となり、臻莽を開き荊棘を拓きて交通を便にする等、幾多の辛酸を嘗めらる。蓋し君は拓殖の成否は交通の便否に在るとし、二十四年自費を以て網走郡藻琴村より斜里郡止別村に至る道路を修繕し、交通を便にせり。君は實に仝地開拓の祖先にして小清水の今日ある君に負ふ所尠からざるなり。明治二十七年驛遞所取扱人を辭し、斜里市街に移轉し、爾來酒造業或は漁業に從事せられしが、其後斷然二

業を廢し專ら心を農業牧畜に注ぎ、傍ら商業を營み新來移民の利便を圖り、或は農具を購入し或は種苗を輸入し、或は馬匹の改良を圖り、或は農民を指導する等、斜里地方農業の光明を放ちたるは、全く君の力多きに依る。又力を公共事業に用ゐ、總代人となりて村政に參與し、或は學務委員となりて學事に盡し、或は農會長となり農事に努め、其功績枚舉に遑あらず、今や內外の信用日に加はり地方の元老として指目せらるゝに至れり。君齡既に六旬を過ぐるも其元氣壯者も及ばず、老軀を提げて常に町村發展に鞅掌せられ現に村の總代人たり老ひて益壯んなりとは夫れ君の謂ひか。

△平田嘉吉君　は宮城縣亘理郡の人、明治二十四年本村に移住し、商業を企て漸次業務を擴張し、傍ら牧畜に從事して馬匹の改良を圖り、又回漕業を營み現に日本郵船株式會社の代理店たり。君性剛直夙に心を公共事業に用ひ、總代人となりて村政に參與し、或は學務委員となりて教育の振興に盡し、或は衛生組長となりて村衛生に留意し、或は消防組頭となりて消防の改良を圖る等、斜里地方發展に資せられしこと尠少ならず。本村消防の今日ある蓋し君の畫策にかゝる所多きに因る。今や君は地方の有力者として推稱せられ、牟澤氏と共に本村の元老として敬重せらるゝに至る。

△有坂克己君　は兵庫縣姫路市の人、明治四年一月一日を以て生る、三十年本道に渡來す以來諸業に從事し幾多の困難に遭遇す、三十八年當地に上陸し木材業を企て、些少の蹉躓を受けず、逐年巨大の木材を輸出し、資財歳に嵩み其基礎益々固きを加へ、內外の信用日に加はり、今や地方屈指の富豪を以て指目せらる。近年益々其事業を擴張し、網走管內斯業の巨鎭たり。君性至孝溫柔にして寡言人に接するや懇切、人を使役するや慈愛を以てし、主從の關係親子に異ならず。殊に公共事業に熱心にして地方の發展、君に俟ちしもの尠からず、君の名利を好まず謙讓なるは現今稀に見る所。君の性情の深遠なる知るべきのみ。君や夙に身を實業に委ね不折不撓忠實業に當り、勤儉自ら資を作り、今日の榮を致し他の敬重する所となる、又以て世の子弟の範となすに足らんか。

△吉野由太郎君　君は石川縣江沼郡の人、明治七年二月を以て生る、幼にして渡道し、夙に身を實業に委ね或は商業に或は漁業に從事し、幾多の辛酸困苦に遭遇せり。君斯業の素地は實に此時に裨成せられたり。明治三十七年當村に來り一商舖を開き、荒物雜貨を販賣し、漸々業務を擴張し、資產益々多きを加へ、今や地方の巨商を以て目せられ、世の信用を負ふに至る。近來心を牧畜に注ぎ牧場を經營し、馬匹改良に努め傍ら木材業に着手

し、有坂氏と共に該業の二頭たり、君性豪邁にして果斷、又公共事業に熱誠なり、或は學務委員となり地方教育の進歩に努め、又資を公益に投ずる等地方の發達、君の資する所尠少にあらず、現今斜里村總代人員及學務委員たり、又以て君の輿望を知るに足る、君齢春秋に富む爾後の活動刮するの價値ありと云ふべし。

△藤澤純一君　は石川縣金澤市の人、明治七年九月を以て生る、幼にして渡道し其親父に從ひ、函館根室を經明治十九年當村に移住す。夙に身を水産業に委ね漁具の改良を圖り又漁業方法を考察し、或は孵化場の設置に盡瘁し、常に漁獲の增加に努む。又水産組合事務に輳掌し、其貢献する所少なからず。然れども逐年魚族減少し沿海漁業の望なきを見るや、多年の營業を見る弊履も啻ならず、飜然身を商界に投せり。君性方直にして果斷又言責を重んず、心を公共事業に用ひ、或は學務委員となり、村の學校に與りしことあり。今や地方有志者の一に數へられ、信用日に加はる君年猶壯他日有坂、吉野二氏と町村の重荷を分擔するものは君か。

此の外醫師としては佐藤豊明、外山昌藏、教育家としては永田泰亮諸氏ありて、何れも町村の中心人物たるに耻ぢず。

第二章　網走郡各村

第一節　網走町　外二村

△△沿革　本町村の沿革は史に徵すべきものなく、漠として考ふべからずと雖も、今故老の口碑並に舊記を蒐集して鑑みる時は、遠く貞亨年間に始まり、松前藩宗谷場所を設くるを以て、開拓の嚆矢となすものゝ如し、而して其の場所は今の北見國全部を總括し、藩主の直場所と稱し、藩士を勤番交代せしめ、商人に命じて物品の仕入並に産物の運輸を爲さしめ、アイヌとの交易を圖れるものなりといふ。寛永より寶暦に至るの間村山傳兵衛藩命を奉じ之れが任に當り兼ねてアイヌに漁業の方法を敎へ大に水産物の增加に努む、寛政年間宗谷場所を分ちモイワ（常呂紋別兩郡界）以東を斜里場所となす網走は即ち斜里領の一部なり文化初年柴屋長太夫之に代はり同五年に至り藤野喜兵衛を以て斜里場所受負人に改む、此に於て喜兵衛は大に土人を使役して漁場を斜里網走に開らく實に和人が漁業を營むの嚆矢たり。時にアイヌの斜里領に現住するもの千三百四十五人。

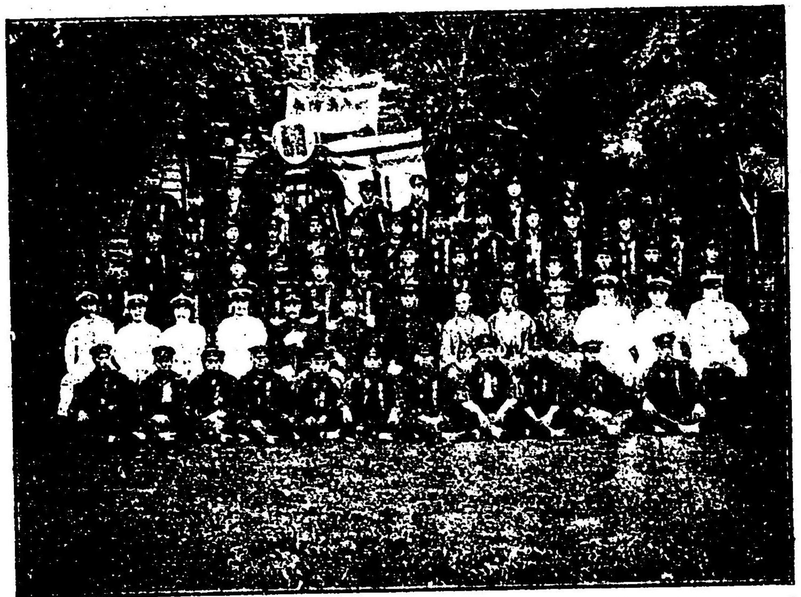
安政二年幕府蝦夷地を擧げて、直轄地となし大に廳民の移住を勸むと雖も、本領に移住す

るもの殆んど稀れなりき。此時に當り天然痘大に流行しアイヌの死亡するもの前後相踵ぎ其數八百人に及べり、安政六年幕府蝦夷地の一部を割きて、仙臺會津庄内南部津輕の五藩に賜ふに至り、紋別、常呂、斜里は會津藩の領となりしも、網走は依然幕府の直轄地たりしなり、之れ網走が斜里領を脱して單獨に場所名を冠するに至れる始とす、當時網走に於ける部落及人口左の如し。

藻琴	アイヌ	四戸	新栗履　五戸
勇仁		二戸	ヲショプ　七戸　漁舍　四棟
ノツエト		四戸	漁舍　三棟
フンベオマナイ		三戸	仝　三棟　網走　番屋一棟（運上屋に均し
最寄		七戸	アイヌ　三十一戸　倉庫十一棟
			ビットカリ　漁舍　壹　棟

文化以降明治初年に至る迄代々藤野氏受負人となり專ら開拓の任に當る、當時行政機關の運用は受負人の下に、支配人、通詞役、濱親方の三役あり、通詞役は和蝦間通譯の任に當り戸籍事務を兼ね、濱親方は漁業を主管し支配人は賞罰通商收稅等其他百般の事を統理せり、土人間には正乙名、副乙名、小使の三役ありて、法令下達の任に當れりといふ。

明治二年八月開拓使を置き蝦夷地を北海道と改め國郡を設くるに當り、北見國と稱し別に八郡となす、斜里、網走、常呂、紋別、枝幸宗谷、利尻、禮文之れなり、更らに斜里網走二郡を名古屋藩に移されたるも、未だ一の施設を爲すに至らずして罷免せらる、仝五年九月開拓使支廳を置かるゝに及び本郡は根室支廳の所轄に屬す、翌六年根室支廳網走出張所を同九年郵便局を同十二年郡役所を置き、漸次行政機關の設備を見るに至れり。時に網走町能取村藻琴村の戸數六十九戸、人口三百九十二人



網走町消防組

北見之町村

北見之富源

明治十四年網走村を割きて北見町を設け市街を區劃す、當時北見町に於ける戸數はアイヌ三十餘戸和人僅かに數戸現時の中通一丁目南裏通の如きは樹木鬱蒼晝猶ほ暗らく羆熊の出沒甚しく、網走河畔には鹿群常に絶へざりしと云ふ。

明治十五年戸口の增殖に伴ひ巡査出張所を設け、翌年に至り警察分署に改む、又同十七年網走小學校（現時の郵便局）を開らき學齢兒童をして就學せしむ。是れ北見國に於ける小學校設置の濫觴なりと云ふ、仝十九年アイヌを市街の東部に移す、之れ俗稱アイヌ地と稱する今の南通一丁目なり、二十三年三月二等測候所を網走村字ニクルに仝二十四年能取村大字最寄村に網走集治監分監を網走村字大曲に山田製軸所を設けらるゝや、俄然移住者を增加するに至る、仝二十九年上常呂原野に屯田兵屋建築の事あり、當用の貨物は總べて網走港を經由したるを以て一層繁昌を呈するの機運に向へり。

明治三十年四月網走税務署を置き、仝年十一月郡役所を改め北海道廳網走支廳となす。同卅三年根室區裁判所北見出張所を設け、卅四年網走區裁判所と改稱す、又明治三十三年七月始めて北見町外八ヶ村戸長役場を置き、北海道廳脳佐藤貫一戸長事務兼掌、同年十一月佐藤信吉戸長に任せらる、明治三十年四月北海道二級町村制を實施せらるゝに該り北見町外八ヶ村は、其施行地に指定せられ、同時に北見町外八ヶ村を網走町外二ヶ村と改稱し、戸長佐藤信吉引續き組合長となり、同三十六年三月三十一日金田虎吉代て其後を襲ふ。三十九年現任佐藤信吉再び組合長として復任するに至る。

◎境界　東はウラシベツ川濤沸沼を隔てゝ斜里郡蒼瑠村に東南藻琴山を以て釧路國川上郡に境し、西は一帶の山脈を以て常呂郡常呂村同郡野付牛村に隣り、西南は網走郡美幌村に接し、北は海に枕む東西拾里南北六里、面積六十方里なり。

◎地勢　東西南の三面は山岳相連なり、地勢北に向て漸降し、丘陵高原となり、以て海濱に至る。海濱は段階の下に狹き沙濱多く、高原は概して地味膏腴ならずと雖も、其大部分は牧場に適す、又河湖の沿岸は肥沃なる壤土と濕地と相交はり頗る農耕に適す。

藻琴山は東南に聳え高さ三千三百九十六尺其脈南西に走りて漸く低く、能取山は北に突出して能取岬となる共に椴松等の針葉樹に富み又天然の野桑あり。

網走川は長さ二十四里八町源を釧路國境に發し、ッベッ川美幌川を併せて網走湖に入り、再流して北見町に沿ひ、オコック海に朝す舟揖の便あり。

藻琴川は長さ十三里二丁源を藻琴山より發し、藻琴村を貫き藻琴湖に入る其他メマンベッ

川ウバラナイ川ウラシベツ川等の細流あり。

網走湖は東西二里南北二里廿七町周圍十一里十四丁其北方僅に半里を隔てゝ能取湖あり、東西里二町南北二里一町周圍六里卅三町湖口直に海に開く其他藻琴村に藻琴湖あり周圍一里十四町之れに隣りて濤沸沼あり周圍七里七町何れも海岸に在り。平時は其口を海に開くと雖一朝暴風激浪に逢へば忽ち其口を閉塞し湖沼の水漲溢するに及び再其口を開くを常とす、魚族の生息するもの鰊、鱒、鰈、鮭、イトウ、鰍等とす又藻琴湖は蛯蜆の産額少からず。

◎官公署　網走支廳　明治六年根室支廳網走出張所を置き同十二年郡役所を設け網走斜里常呂紋別の四郡を管轄す、同三十年十一月改めて北海道廳網走支廳とす。

△網走區裁判所　明治卅三年根室區裁判所北見出張所を設け專ら不動産の登記事務を取扱しが同三十四年二月出張所を廢し、網走區裁判所を置く。

△網走警察署　明治十五年戸口の增殖に伴ひ巡査出張所を設け翌十六年警察分署に改め同十九年九月網走警察署と稱す。

△網走稅務署　明治二十九年上常呂原野開發に伴ひ網走町は非常の繁榮を來すに至り、其翌三十年四月網走稅務署を置く。

△網走監獄　明治二十四年最寄村に北海道集治監網走分監を設け、同三十年に至り休監同三十一年九月開監同年十一月釧路分監出張所と爲り、同三十四年十月更に網走分監と改め同卅六年四月網走監獄と稱す。

△網走郵便局　明治九年の創立三等局なり。

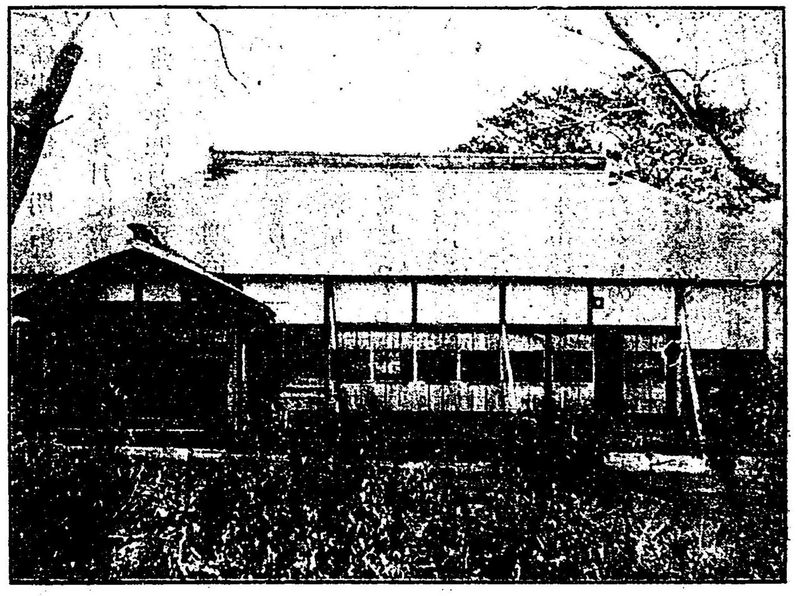
△網走二等測候所　二十三年の創設に係はる。

◎社寺　嚴島神社　無格社なれ共網走開村以來の神社にして、眺望極めて絶佳なる網走公園に隣りて建立せらる。

△法龍寺　（曹洞宗）新潟縣人渡邊泰龍十九年十二月の創立に係る。現住職加藤瑩嚴師。

△光輪寺　（眞宗本派）明治廿六年九月藤野四郎兵衛高田亦次郎三浦重吉等本願寺派の寺院なきを患ひ、本山敎會本部札幌出張所へ僧侶の派遣を請ひ布敎漸く進むに及び廿八年七月新寺を建立したるもの、矢田谷道順師住職たり。

△永專寺　（眞宗大谷派）明治二十二年十月眞宗大谷派說敎場を設けたるに初まり、漸次信徒の增加するに至り同廿七年三月寺號公稱出願翌廿八年一月許可、同年六月建築工事を起し、三十年十月竣工寺永法專師住職たり慈惠院を附屬せしめ、免囚保護事業に熱心執掌せ



網走の法龍寺

北見之町村

らる。

△弘道寺（眞言宗）明治三十四年七月の創立にして堂宇は三十五年七月落成したり。

△眞性寺（淨土宗西山派）明治三十四年十一月寺號公稱認可を得同三十六年七月新築したるもの、住職は祖父江性範師。

△大盛寺（日蓮宗）明治三十五年十月寺號公稱の認可を得て堂宇新築を果したり。

△最乘寺（臨濟宗）明治三十五年七月寺號公稱出願同三十五年八月認可を受けたり、最乘天柱師住職たり。

△網走圖書館　日露戰役を記念として明治三十八年創立の議熟し、仝卅九年一月網走新聞雜誌縱覽所と稱したりしも、基礎漸く

確實となるに從ひ、名稱を改め新館を造つて異彩を放ち網走隨一の文明的設備として稱揚せらる京谷勇次郎氏名譽館長たり。現今新聞雜誌の數五十種に下らず、藏書亦た數千部、日々閱覽者平均十名を越ゆるの盛況を呈せり、閱覽料は無料とし別に維持會を設けて基本財産の造成を計り、尙ほ特志會員を募りて當分新刊書籍の購入を計る等、着々面目を改めつゝあり。

◎戶口　四十四年三月末の統計によれば、

町村名	人口	戶數
	男 女	計
網走町	三、一六四 二、七五二	五、九一六 一、三〇〇
能取村	八七三 六三五	一、五〇八 三三〇
藻琴村	二八五 二四九	五三四 一二四
計	四、三二二 三、六三六	七、九五八 一、七五四

◎財政一班　町村基本財産內譯左の如し。

	種類	土地時價	建物時價	有價證券時價	株券現金時價	預貸金	合計
網走町外二村	普通基本財産	円 一、三四五、四〇〇	円 一、五四八	四一九	—	四、六〇四	円 六、三四九
	備荒基本財産						
網走町能取村	普通基本財産	七二					七二
網走町	普通基本財産	二八、八〇八	一五、	一九		二、〇五九	四六、八三六
	學校基本財産					三四五	三六五
藻琴村	普通基本財産	六六				二五八	一、一四九
能取村	普通基本財産	四		八二五		一八三	六〇七

當町村は二級町村制を布かれ網走、能取、藻琴一町二村の組合として一個の行政區劃を造り、町村自體の直接經營に屬するものは、各自之れを處理するの規定なり、即ち組合としての四十四年歳出入豫算如何といへば、合計六千〇三十三圓〇三錢の內にて、使用料百圓雜收入九百五十九圓〇三錢、國庫交付金二百圓地方稅交付金百八十圓、地方費補助金僅かに百八十圓の外總豫算の約七割四千〇九十六圓は、悉く三千〇七十二圓網走町、七百六十八圓能取村、二百五十六圓藻琴村に於て負擔する所に係る。然り而して之れが支出の費目

に付きて主なるものを吟味するに、四千三百八十八圓の役場費、百五十圓の教育補助金、百十五圓の衛生費、四百圓の勸業補助費、雜支出の六百二十四圓等にして、他は極めて少額なりとす。

網走町の歳計は一万五千八百五十一圓五十一錢六厘にして、雜收入二千四百十四圓〇〇六厘町稅一万三千百十七圓五十一錢等あり。而してこれが支出は教育費の九千〇〇一圓二十八錢七厘を筆頭として、諸稅負擔金三千百〇一圓十六錢、醫師手當一千二百圓、教育補助金百五十圓、警備費八百十三圓十二錢、土木費二百六十六圓等あり。補助金と稱し手當と唱へ、若しくは之れに類似せる性資の費目少からざるやに見受けらるゝと雖も、新開地のことなれば、一刀兩斷に之れを切捨つること不可能なりと覺ゆ。町財政に深く思を致す者は、無性矢鱈に經費の節減論のみを頑守せず、積極的費目は進んで其負擔に甘んじ、消極的に屬する分は、擧つて之れを否決するの勇氣なかるべからず。既に積極的方針の下に蹉進せば、時に或は經費膨脹の虞れなきにあらずと雖も、三五年の後必然其効果現はれ、却つて財政上好影響を生ずるに至らん。

◎教育　網走尋常高等小學校、帶於將府教授所、第一藻琴教授所、第二藻琴教授所、大曲

尋常小學校、濤沸尋常小學校、禮文尻教育所、女滿別教育所、於將府教育所、卯原內教育所、東女滿別教授所等ありて町村稅經常部一戶平均額網走町十圓三十七錢三厘、能取村六圓五十四錢八厘、藻琴村五圓六十三錢三厘に對し、教育費は一戶平均網走町七圓十三錢三厘、能取村四圓四十錢九厘、藻琴村五圓三十六錢三厘の割合なれば亦た重大なる負擔を忍びあるを看取するに難からざるならむ。此他私立としては北見女學校あり。

◎重要問題　網走町外二ヶ村に於て刻下の重要問題は多年の宿望たる港灣の修築、及び網走釧路間鐵道速成、網走下湧別間鐵道速成等の外、築港着手以前に於ける海陸貨物運輸の聯絡を計るべき一小突堤の修築、特別輸出港としての網走開港問題等にして、何づれも波及する所の利害關係重大なるは言ふを俟たざる也。此外各原野に聯絡すべき殖民道路の開鑿、移民の招來、電燈電話の設備を要するものあり。築港鐵道問願に付ては、速成同盟會を組織し、網走町在住の町有志を以て會員とす。現任會長遠藤勘兵衛、副會長京谷勇次郎の兩氏なり。最近組織せられたるものには、網走湧別間鐵道速成同志會ありといふ。

往年北海道問題に付き、政黨政派の別なく、協力一致して攻究し實行するの目的にて、北海道倶樂部出現し、網走町に於ても亦た之れが支部を設け今日に及べり。而して常任幹事として支部長の實權を握れる者は、高田亦次郎氏にして、熱心努力しつゝあり。

◎網走實業視察團　は昨四十四年九月十日より同十八日まで往復九日間を費やし、十勝釧路兩國實業を視察し、依つて以て網走實業界の刷新に資する所あらんと期せしもの其目的たる、頗る賞讃すべきものありとすべし。一行は團長横山隆三郎副團長中川米次郎兩氏を筆頭として野坂良吉、高田亦次郎、中牟田雄三、高田喜兵、中川國藏、梅澤久治、遠藤龍吉木下詳、貴田國平の十一名にして到

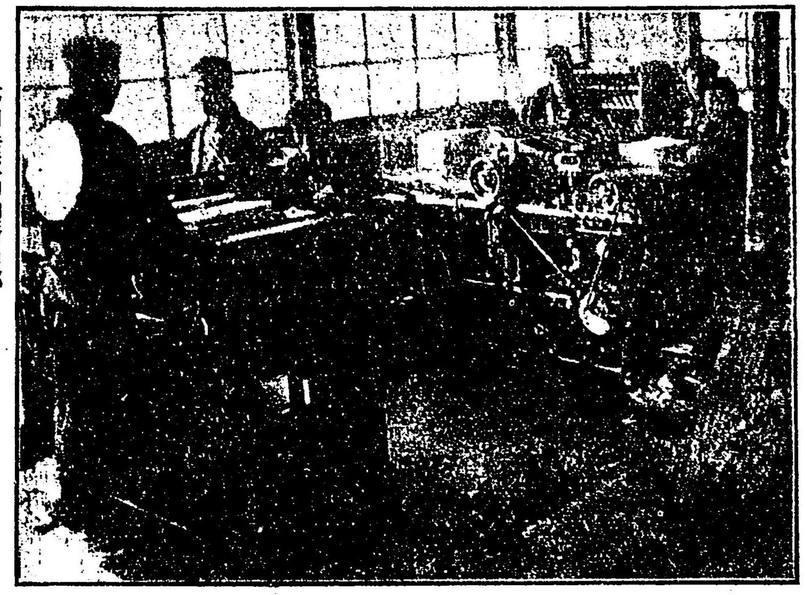
網走實業視察團

▷前列右より　中川國藏　横山隆三郎　中川米次郎　野坂良吉
▷后列右より　貴田國平　高田亦次郎　高田喜兵　梅澤久治　遠藤龍吉

る所、多大の歡迎を受け、釧勝北三國實業界に向つて、一匙の興奮劑を投じたるの功果なきにしもあらざりしが如し。網走突堤問題の再燃、網走電燈の設立等は、少なく共視察團一行の提唱與つて力ありしを認めざる可からず。

◎網走突堤問題　の再燃といふ以上は管々しきを厭はずして、之れが由來を說明するの要あり。本問題は今を去る五ヶ年以前即ち明治四十年より仝四十二年まで三年繼續にて、網走港海陸貨物の聯絡を敏捷ならしめんため、字『ポンモイ』へ突堤を築設するの計劃にして總工費三万三千百八圓五十九錢三厘、內七千圓は道會に於て補助することに決定、殘額は一時北海道拓殖銀行より、年七朱の低利を以て町債として借入れ、之れが支辨の方法は、輸出入貨物に對し一個二錢宛の突堤使用料を課するにあり。工事內容は防波堤七十五間八分三厘金一万三千百三十三圓六十二錢七厘、防砂枠三十四間五分金千百七十八圓〇一錢八厘、船付場張石延長八十五間五分金五千百廿五圓四十九錢三厘、船付場石垣延長八十九間五分金壹千八百二十四圓十七錢九厘、埋立地周圍石張延長八十六間二分金三千八百〇六圓六十七錢六厘、浚渫土坪一千百三十八坪九合金四千五百五十五圓六十錢、事務所建坪二十五坪金三百七十五圓、諸機械購入其他雜費金一千五百圓、工事監督費金一千百十圓、工事

設計調査費金五百圓等なりしが、勿論町會にては仝部大多數を以て可決し、一二の反對者ありたるも、大勢止み難きものと稱し、反對論を拋棄して、贊成者となりたる如き、奇聞もありたるやに、當時の一笑話題に上りたりしが、町會以外に於て町債を起すことを嫌ふ有力者現はれたれば、建設は難く破壞は易しの譬の如く、折角事實として、出現せんとしたる海陸聯絡の設備は、一朝不幸にして土崩瓦解の慘狀にて一段落を告ぐるに至れり。然るに時勢は遂に永く網走町の眠睡を許さず、背後より突進し來れる鐵道は、從來網走町の勢力範圍として、唯一の賓客として豫算內に編入したる野付牛、美幌の二大農村を奪取して、彼れが如く情交濃厚なりし商業關係をしも、鐵車一門其の蹂躙に放任するの憂き目に遂はんとするに至れり。曩きには町債危險論をお題目として反對せし連中も、今や自家商圈の縮少否な絶滅を見んとする危機に際しては、何條安閑として坐して死を待つの迂を學ばんや、鐵道のために蹂躙せられんとする頽勢を挽回するには、所謂海陸聯絡の便を開かざる可からず。築港の急要は勿論なるも、築港着手期を迎ふる迄の期間は、他人の閑問題にあらず、是非共突堤工事を施すの急要を認むと、扨ては一致の意見を表明し、而かも其の地點は果して從來のポンモイを執るか、但しは網走河口に變更するか、乃至はバイラギ



高田活版印刷所内部

に施行すべきかの比較論あるに過ぎざる迄に進行しつゝあり。而して以上三ヶ所の施行地に付き單に工事の難易輕重論を上下せば、或は如何なる結論に到達するやを保せずと雖も、既に海陸の聯絡を期せんと欲せば萬障を排して鐵道に近接するか、又は鐵道を利用することの至便なる位置を選擇するの要あり。網走川を挾さんで設けられたる網走停車場へ聯絡するには、網走河口を擇ぶこと寧ろ當然の要求ならずや、知らず町有志諸公の所感果して如何。

◎産物　燐寸軸木、各種農産物、果實、魚類、木材等の產額少からず。尙ほ將來益々增加の狀勢あり。

高田源藏翁

◎高田源藏翁　網走に於ける元老の頭目として高田源藏翁を推すことは何人も異議を唱へるものはあるまい是れは主人筋なる藤野家の全盛時代は、全く北見一圓の領主であつたかの如く思はれ、僻阪の村落に至るまで又十藤野家の使用人でなくては夜も日も明けない位の有力者は大抵又十に衣食したことのある關係にして悠揚迫らず頭腦明晰にして公共心に富み、且つ万事控へ目にして決して出遮張らず鵜の毛程も高慢痴氣の顏せぬ處は一に大言壯語二に虛榮增長を以て能とせる現代の慣々者多き場合言はゞ塵溜めに鶴か降りた如きもので大に網走の爲めに氣焰を上ぐるに足ると思ふ。乍併物には一利あれば一害の伴ふ理に洩れず、肝腎の先輩として敬慕すべき翁は出遮嫌ひであると同時に町村の問題に付ても容易に喙を容れず、翁でなくては人氣振作上殆んど困るといふ樣な事柄でもオイ夫れと諾しないのは、慾目より見れば實際玉に瑕である。隨つて網走町も知らず〳〵翁の氣風に感化し了されて能く言へば無事平穩暖かに勢力を扶殖した餘光もあり、殊に網走町の有から、自然翁の眞價を買ひ煽りたるものであら

き春日を背に受けて林檎畑の草を拵る樂隱居の風があり、活氣に乏しく波瀾に乏しい嫌ひが無いでもない。翁に對し不足ヶ間敷批評を加ふるは編者の好む處にあらざれば此邊で擱筆するが、要するに網走町が今日一歩は一歩よりも堅く深く其地盤を造りて、歳と共に發展し、甲黨乙派と相反目するの弊風に染まざるは、全く翁等の德に胚胎せるもの丈けは明言して置きたいのだ。去らば高田翁の雜話や如何に……私は十二三の頃から江洲の藤野家に丁稚奉公いたし、五六ヶ月にして北海道へ廻はされました。又十の店則として北海道に向ける者は、大概本店で五六ヶ月訓練した上でなければ採用せぬことに定めてあるからです、私が網走へ初めて來ましたのは明治十六年と存じます夫れから年々巡廻したものです、廿七年までは根室の店へ居り一旦大阪の本店へ引上げ三十二年に及びて網走の店へ來ました。昔から鱒は斜里、鮭は網走、鯡は紋別と評判せられたもので、就中斜里は盛んなものでした。斜里には御維新前迄運上屋が建てゝありまして紋別や常呂は其配下に屬したものです。網走は幕府直轄の時代もあつた樣に存じます。元と〳〵藤野家が本道へ事業を營むに至つた端緒は、天明九年四郎兵衛次男藤野喜兵衛が當時十三歳の少年にてありながら大志を懷きて親戚萬屋万藏なる者松前城下枝ヶ崎町に於て呉服商を營み居れるを以て

見習のため渡道し、寛政十二年屋號を柏屋と稱し又十と唱へ北海道出産物運輸賣買を家業とせるに始まり、漁業を營むに至りたるは文化三年に余市の漁場二ヶ所請負許可を得たのが抑もの濫觴で、初代より五代まで藤野喜兵衛の名義を以てし、六代より八代までは藤野伊兵衛と改稱し、明治十七年に及びて藤野四郎兵衛の事業を或は善兵衛といひ、或は伊兵衛と稱して經營するは文明の今日妥當ならずとの御注意を賜はり、色々と苦心の末斷乎たる措置に出で、爾來北海道の事業は漁業海運商業等凡べて藤野四郎兵衛名義に復したのであります、呉服店は藤野庄兵衛を用ゐて居つたも同斷復舊致しました、此十七年の改革あり て私は總支配人に擧げられたのです。北見も從前は漁業も頗ぶる豐富でありましたなれども、今日では到底見込は立たなくなり將來は漁撈の方法を變更する外はありますまい……

……金融機關ですか、左樣北見にも今少し便利なる金融機關の設備は必要と考へます、根室に於て根室銀行創立の際は、故柳田老人の熱心なる首唱があり、且つ何れも其急要を認めて居つたけれども、何にしろ柳田といへば根室で頭を抑さへる人が無いので鬼に金棒の譬の如く柳田に銀行を預けたならばどんなことをするかも知れぬと大に心配したもので す。夫れで一部策士の方寸より安田に賴み込みて頭抑さへの道を開らき、漸く創立したも

のです、北見でも銀行の一ッ位は是非欲しいものと存じます。ナニ私が發起人となれば網走は纏まる、網走が纏まれば各村有力者も賛成し設立が困難でないと……イヤ私では迚も駄目です、他に相當の人がありますから御研究なさつた方が地方の得策でしょう……

田中留吉君

河口の護岸工事ですか……あの大時化に向つては普通の設計で兩岸を保護することは危険と思ひます……河口の浚渫は至極結構なる思ひ付きならんと存じます。浚渫船を使用して絶へず河口を浚渫し、時化が來て泥砂を吹き寄せたならば風ぎを待つて更らに浚渫し小蒸汽船や解船乃至川崎船をして自由に出入せしむる方策を廻ぐらすのは決して無謀の仕事ではあるまいと思ひます。云々

◎田中留吉君　ヤーお待たせ申しました、サアどうかお樂くに……イヤ私のこちらへ參りました動機ですか、ナニ格別取り立てゝお話しする程のことはありませんが、實際私が北見へ來ましたのは偶然ある機會が生じて據ろなくやつて來たのが緣となりましたのです。其偶然の機會と申しますのは小樽の丸金合資會社支店主任が、妻君を娶るとか旅行をするとかいふ樣なことで、暫らく店務の監督上私が小樽へ出張することになり、色々とお手傳申して居ります內に紋別郡藻興部村ルロチ原野に於て西山鑛山署長や玉城某の名義を以て牧場の貸付を受け玉城の義兄に當る佐伯三郎といふ方が、先年白楊を伐採して神戸へ向け積み出した、其時事業に經驗少なき佐伯氏のことなれば、一本平均五斗の船荷證を發行され爲替を私の店へ賴んで來ました。ソコで八掛けとし四斗宛の爲替を附したが、愈々計算の結果は一本三斗五六升しか無かつた。即ち差引八百餘圓の貸越しとなつて回收の途が立たなかつた處が、佐伯の申すには、ルロチの牧場にはまだ五千石位白楊が殘つて居るから百石立木二十圓として借りの方へ引き去つて貰ひ、利益があつたなら分配して下さいとの話、勿論公平無私の提案でした。夫れで會社は直營として白楊伐採のことに定め、私が擔任して出張するのですが、何分北見へはどちらから參るつて宜しいやら更らに分かりませんので、何んでも名寄から新道が開けて居るといふ噂を耳に挾んで三等室の客となり小樽を出發した。途中旭川から二人の女學生らしき者と同車したので北見行を以て尋ねて見た處、女生は名寄丸宇旅館の娘で北見への新道もありますとの答へ、大に力を得て三十六年の十二月下旬初めて北見の土を踏んだのです。然るに案外石數が無かつたゝめ其翌

北見之町村
網走田中氏別邸敷地

春英國船ロードアシツリム號を傭ひ入れ、二千三百石丈け積み出しました。丁度其時です常呂沖ではエラミー號が座礁したのは佐伯の借金は減額せぬのみか、却つて四百圓增加して合計壹千貳百圓となり、大笑ひとなつたことがあります。夫れから何んとかして此失敗を挽回したいものと存じて居ります内、同業者の義理立も私の方のみで立てゝ行く必要も御座りませぬから、卅八年の暮れに亦又私が出張して來たのです。其時は格別利益は擧げ得なかつたなれども段々と事業に興味は乘るし、種々の方面に就ても經濟に事業を行ふ見込が立ちました三十九年には約三万四千圓許りの純益を擧

げ漸く私の不名譽を雪ぎ得た時は實に愉快でした。夫れから其翌年は事業縮少の案を樹てましたけれども、主人は大丈夫北見の白楊樹七割丈け占領すれば、決して損失を蒙る心配はないからと申さるゝので枝幸方面から斜里へ掛けて北見沿岸の白楊買占めに着手した。丁度主人の見込通り此年も三万圓許りの純益でした。手控へと擴張主人と私の考への相違せる點で私は大に之れに敬服せざるを得ないのです、兎に角く引續き今日に至るまで、年々北見の林業界に伍して輸出を圖みつゝあるのは、畢竟前申しました如き偶然の機會からで、豫じめ北見の事情を調査したる後ち始めて事業を經營するといふ順序を踏んで徐ろに計劃を樹てたのではありませぬ。私の來ました三十八年頃は藻興部ルロチの海岸渡し白楊百石漸く六十八圓位で、今日に比較すれば雲泥の差があります。序でだから申して置きますが北見で木材の計算に五拾六入といふことを申します、是れは五分までは切り捨て六分よりは寸に加へるといふので、お負けに片皮除でしたが私がこちらへ來ましてから兩皮除き狹部寸止めの法に改め、船積みも亦た此計算に依ることになりました。之れは實に北見の木材界に一新紀元を開いたものと存じます。北見木材の將來ですか……左樣北見のためには前途益々有望と申したいが、私は營林區署の調査は到底信じ得ないので言はゞ悲觀

論者です。早い話が某々官林には五十万尺〆の材積があるとの話に人を派して調査させますと漸く其五分の一しか無いといふ有様で、夫れが既に一回二回と伐採し了つた後ちの官林です。斯様の筆法で無暗に材積許り過大に計算するならば、今後十年乃至二十年間年々二三十万石の伐採に堪へ得るの資格が北見の山林にはあるか否かを疑はざるを得ないのです、私共では折角北見へやつて來た以上如何にもして永久に此事業を營みたい考へは十二分に抱いて居りますから悲觀説を唱へるのは心中甚だ平かならざる次第でありますが、事實は他迄事實とせざる可からずで、私の想像や調査が外づれて北見の山林は決して左様な薄弱な材積で無いとなれば、夫れこそ却つて喜ばしき限りと思ひます云々。

京谷勇次郎君

㊁京谷勇次郎君　南部出身の人は網走でも大分成功した者が多い。京谷君は獨立獨歩社會の風波に幾多の苦酸を嘗め盡くして今日の地位を贏ち得たといふ波瀾ある經歷は有して居らぬ、隨つて青年輩をして腕を扼し

皆を決せしむるに足るの奇行や異聞に乏しい憾みはある。去りながら德川家康流に寸を得ては進み、尺を獲れば守るといふ克己心忍耐力には頗る富んで居らるゝ、言は〝万事万端着實温健なる遣り口で〟先輩として高田源藏翁に私淑する寔に所以ありと謂つ可しだ。藤野家で漁業部を休廢する迄北見根室を總理し、遠く「カムサツカ」迄漁業に出懸け又十漁業部の總指揮官たる要職に在つたが、昨年來右の漁業部閉鎖と共に斷然藤野家を辭し、今は單に飯より好きな網走圖書館の館長として閑日月を樂むで居る。又十に暫らく居られたので網走町外二ヶ村組合會議員や町會議員として永年町治に盡瘁せられたなれども、今は悉く辭任して、僅かに鐵道築港期成會副會長丈けは地方の要望默止難く色々劃策せられつゝある。一日親しく勘察加漁業に就ゐて其意見を聽く……予は藤野家の爲めに明治四十年露領「ニコライスク」の漁業を視察し、翌四十一年より四十三年まで三ヶ年間「カムサツカ」漁業に從事しました。あちらの魚族も重もに鱒鮭の豊富なることは、今更予の喋々を要せざるところで、例の漁業協約の下に露政府から借區漁業權を獲て、該半島の沿岸漁獲は本邦人に依りて遺憾なく開發せられつゝありて、其收獲は年々多少の厚薄は免かれずとするも概して好漁を失はず。茲十數年間はまだ〳〵魚族の減耗を見ることなかるべしと思は

れます。斯く年々豊漁なるにも拘らず當業者中往々利益の伴はざるを嘆ずる者あるは、出漁費（重に運賃）の高直なるに反し、收獲物の價格低廉に失する結果に外ならずで、是等は一面收獲物の製造に改良を加へると同時に、益々航海機關の完備を計り、両々相俟つて漁業經濟上の得策を講ぜざるべからざるものと存じます。予の出漁した場所は「オヴルコヒナ」と稱し、勘察加西海岸中の大部落で、川上には「カムチヤダール」土人が居りまして函館から九百七十噸の伊吹丸で六晝夜を要し、重藏岬からは四晝夜の航程で假りに網走から聯絡が取られるならば四晝夜を要するならんが、中には千島列島を迂廻するもあり、往々にして難破の厄に罹るのは大に研究すべき事柄であらうと存じます。勘察加沿岸は二露里（我が十八丁）毎に漁區を設けて邦人の漁場としてあります。借區料は大抵最低七百圓、最高四千圓位で、沖出は百間位海深は漸く四五尋位迄の處でありますが北見では今日沖出三百間であるのに比較すれは、其難易雲泥の差があります。漁期は六、七、八の三ヶ月七十日間で、其三分一以上は時化のため休業するのです。漁夫の雇入れは函館とすれば平均三十五圓六月より九月迄の四ヶ月間で此外に手當として百名三十圓の分配奬勵法を設けて居ります、一統四十人の漁夫を要するものと思へば違算はありますまい。藤野家では四十一年に二統で八十名四十二年に三統で百名四十三年も同樣でした。平年漁と言へば先づ鱒鮭混合で一人當り五十石位の見當です、魚族の豊富なることの一例を申せば漁船が錨地にありて糸を垂るれば、直樣鰐や鰈が喰ひ付きまして寸時も猶豫が無いのです、夫れであるから鱒なり鮭なり群來する時の狀況は到底紙筆のよく盡くす所ではありません。現今勘察加と、露領尼古來斯加から年々五十万石以上の收獲があり、其他米領「アラスカ」よりも輸入あるため、相場の高低常なく漁業家は何れも大漁しつゝ却つて損失を招く處れがあるのです。加之運送に頗る多額の費用を要しますので、藤野家と帝國水產會社と露人デンビー丈けは漁船を用ゐて運送するも、他は悉く帆船を用ゐて居ます。夫れに甲の漁場では漁船なり帆船なりへ積込み、船腹に空きがありましても乙の漁場の收獲物を積取る事の出來ない規定でありますから、極めて窮屈千万不利益至極の位置に立つて居るのです、仝じく日本人同志の收獲物を日本の漁船が積取るのに漁場の當事者が相違すれば直ちに協約に反するといふが如き窮屈なることではお話にならない程馬鹿げて居るのですか、事實は事實だから致し方はありません……我が北見は「オコツク」海に面し「カムサツカ」西海岸へは約四晝夜にして一直線に航行するの利便を有し、從來他地方へ出漁する船舶は函館

よりするもの七分其他の開港地よりするもの三分の割合なるも、何れも吾北見よりも二晝夜乃至四晝夜の長時日を要し、且航路の迂廻等其便否は同日の論でない。而かも今や網走築港は本道十五年計畫の八大築港中に數へられ政府財政の都合次第近き將來着手せられんとする運命にあれば、該築港にして竣成の曉は「オコック」海出漁者の足溜り場として漁港たり貿易港たるべく、斯くして「オコック」海の遺利を完全に拾收し得て漁業の發展を期すべく、茲に於てか始めて漁業協約の効果を見ることを得るならんと信じます。「カムサツカ」漁業と網走築港との關係は、夫れ如斯重大なるものありと、斷するのを憚らないのです。然らば網走築港は單に本道拓殖上の問題たるのみならず。實に國家經濟上一日も忽緒に付すべからざるの緊要事項なりと稱すべきものであらうと信じます云々。

野坂良吉君

◎野坂良吉君　北見隨一の名物男で、他人の爲めに私財を投じて、奔走盡力することに、熱烈なる者は、誰れを推すかと問ふ者あらば、異口同音に野坂君を以て之れに擬することを躊躇しない。君は實に博愛家として、一部の社會に黄金佛視されて居る、食ふに困るか

ら助けて貰ひたいといへば、身に着けた衣類を脱いでも之れに與へる、況んや懷ろにある阿堵物をやだ。去れば他人の難に赴くや、自他の財寶であると否なとは、更らに問ふ所ではない、彼我無差別である。於是乎入るを計つて出づるを制するの暇がない、自然財政上の不權衡を惹起し、年が年中苦勞の絶え間がない、そこで奮闘する、其の獅子奮迅の有樣は、何人も之を認めざるを得ないので、現に牧畜業に從ふ傍ら、土木請負業もやる。水産組合長の要職に在つて、漁業も營んで居る。網走町に二級町村制を布かれて以來十餘年になるが、初期以來引續ゐて町會議員の名譽を荷へるは、恐らく君一人であらう。去年迄解運送業にも關係して居つたが、今は其の關係を斷つて居る。消防組の組頭で、網走倶樂部や、網走築港鐵道速成同盟會やの役員として、有らゆる網走町に於ける公共團体に指を染めないことは無い、實に多趣味、多方面の活動的人物である。單に網走の野坂君ではなく、北見の野坂君で、或は北海道の野坂君と推稱するも、過言ではあるまい。……

網走の消防ですか……あれは廿三年の八月十四日網走神社祭典の時に發會式を擧げて、今日に及んだものです。其當時は小頭が二名で、人員が三十三名でした。今ですか、今は人員が五十名に增加して、小頭は三名です、漁業に就ゐて私の意見ですか、別に是れと云

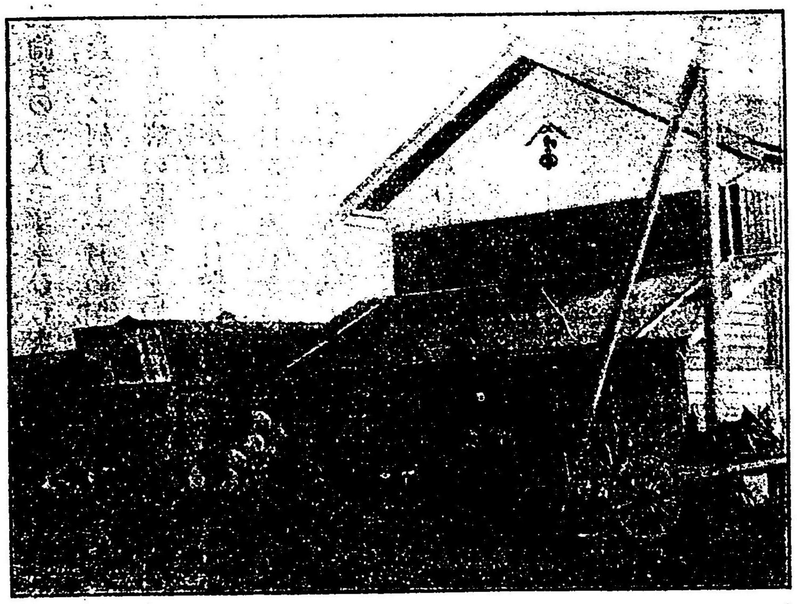
ふて、新らしき考へは持つて居ないのです、併し現今の如き定置漁業に安んじて、年々歳々薄漁を慨く様では、實際困つたものです、道廳の探險丸が三年間、オコツク海魚族の探檢を遂げました結果、鮫、鮪、鯨、鱈、鮃、等の豐富であることが判明したのです。今後は是非共漁船漁具を改良して、沖合漁業を盛大にしなければ、此の萎微不振の狀態にある北見の水產界を、活躍せしむることは出來ないと存じます。沖合漁業は前途頗ぶる有望であることは、既に定論である、一百有餘里の沿岸を有せる北見で、而かも世界で一二と指を屈せらるゝ豐漁帶に居ながら、沖合漁業に一指だも染めることの出來ないのは、畢竟漁船の碇繫場が絶無なる故と斷言します。夫れで私は網走の突堤問題に付き、單に貨物の積卸しに便するといふ耳の目的計りでなく、漁業發展策の上から打算して、一日も速かに設備を完成したいと存じます。既に魚族は豐富であつて、漁船や漁具は改良せられ、一朝風波の難を避けるに、安全なる突堤がありとすれば、誰れか薄漁の定置漁業に安んずる者がありましよう。全体道廳は固より中央政府に於ても、露領沿海洲と漁利を爭ふ可き北見方面に避難港の設備をして、漁業の發展を期する考への無いのは、私共の遺憾と存ずる點であります、曾に漁業と限りたるのみならず、凡べての產業改良發展に付ては、どうしても舊來の陋習を打破して、北見人士の一大覺醒を促がし、一致團結、勇往邁進の覺悟が無くてはならないと信じます。彼の小成に甘んじて、我利的觀念に陷ゐり、地方の問題を放任する如き守錢奴は、片ツ端より放逐して、眞に意義ある網走の繁榮を、計りたいものですと云々。

横山隆三郎君

◎横山隆三郎君　北見に關する書物を出版するといふことに付き、先日も廣告掲載方の勸誘に接したが、其際私の意見を述べて置いたから御存知でしようが、如何に北見の富源が有利有望といふことを新聞や書物に書いたから迚、同じく北見の人達で仲間同志が之れを讀んで喜ぶに過ぎないといふことであつたならば、決して功能は澤山期し得られまいと思ふ。從來新聞の廣告も屢々勸められるけれども、ホンの內輪丈けの糠喜びでは廣告料を拂ふ丈けの價値を認めないから、常に謝絕して居ります、但し鐵道が愈々開通して新聞や書物がドン〳〵本道は申すに及ばず內地へ迄頒布せらるゝ如き時機が來れば、勸誘までもなく進んで廣告する積りです。お話の北見之富源も單に網走の新聞に廣告して北見の仲間同

北見之町村

志に知らすのみならず、小樽、函館、札幌の各有力なる新聞へ廣告しては如何です……
……柳檜か冷評か天邊から浴せ來つて横山君の氣焰當る可からず、僕の淳々として辯明するを聽き了るや……ハアーさうですか夫れならば私の店でも廣告いたしましやう。
ナニ網走線鐵道開通後の感想ですッて全体私は築港は論外として鐵道の如きは町自身が進んで巨額の運動費を費やし無理矢理敷設して貰ふのは一時の空ら景氣を起すには宜しからむも言はゞ槿花一朝の夫れと同じく却つて町の衰態を來すに止まること丶信じて居ますから網走も町が八釜敷騒ぎ出さぬとも政府で進んで敷設して呉れる時機の來るを待つといふのが宿望でした語を代へて申すならば天然自然に文明の利器を迎へるので遮二無二運動して引張る如き狂氣染みたことをするのは私の執らざる處でありますソコで私は明秋鐵道が開業したならば今日の儘なる網走としては衰微はしても繁昌はすまいと思ひます左樣開通後は野付牛に比較して網走は三分の一しか貨物の集産力は無いと斷言します乍併私共が視察團を組織して十勝釧路両國を實地視察して得ました結論によれば大築港が着手され竣工される以前に少なく共突堤を設けて海陸聯絡の方法を便にしたならば或は三分の二以上の貨物を呑吐する盛況を迎へることは決して至難であるまいと信じます此の網走に於ける突



横山商店

北見之町村

堤の成否は實に網走の死活問題で鐵道の利用上から見ても重大なる運命を荷ふて居るのであります。前年私も亦たボンモイの突堤に反對した一人ですが、彼の時築堤したらば貴説の如く（編者に對し）使用料を徴收して費用の一部を補ふことが出來たでしやうが、今日となりては迚も使用料を徴する譯には參りますまい之れは私が大に謝さなければならぬ點であります何れにしても網走の突堤は網走の死活問題として是非共一日も早く拵らへ上げて鐵道の利用を講じ大築港の着手期を速かにする前驅と致したいものです。
之を要するに私は網走線の開通に付ては悲

觀論者の一人です幸ひに突堤が出來ましたならば多少愁眉を開くに至らむも是れ迄とは違ひ農家は何れも一月の閑散期に收獲物の俵裝抔をして徐ろに賣放つことゝなり此場合網走港より是等の農產物を搬出することが困難となり自然鐵道の便に依りて背後からドシ〳〵釧路乃至小樽へ向け搬出せらるゝであらう日需品の買入も勿論網走商人の手を藉らずに直接農家は自から之れを註文する買ふ物もない斯くして網走町の繁昌を望む樂觀論者は恰かも木に縁つて魚を求むるの比ではあるまいか越年期に於ける木材事業の如きも從來の如く悉く網走の海岸に搬出するや否やも疑問となる時期が到來せぬとも限らず是れを思ひ彼れを想へば悲觀せざらんと欲するも豈に得可けんやの網走町ではあるまいか云々。

中牟田雄三君

◎中牟田雄三君　私の履歴ですか何も履歴なぞとお話しする樣の事はないのです。御承知の通り私は肥前佐賀市で舊鍋島藩です、本年は四十八歳で初めより實業とか商業とか順序的に練習して實業に從事したのではないのです、軍人生活もし腰辨生活もし、常に貧に處して貧に甘んじて居ります。今日の生存競爭の世の中で資金も經驗も手腕もなき私共は迚も競爭に打勝つことは出來ませんから、先輩者の同情によりて經營して行くより外はありません私の職業ですか、個人經營は海運業に土木業です。會社としましては倉庫業に鐵道貨物取扱業です、定規としては藤野漁船を取扱ましして臨時に月に一回位兵坂行きの二千噸積の船を扱つています。御蔭で兵坂行は重なる荷物は軸木ですが滿載して出帆します、一方郵船と申す大會社が本年より北見航路に向て偉大なる高壓手段を以て大々的競爭を蒙つたから、私共は非常に苦戰惡鬪を繼續しつゝあります、私共はとても大會社のしかも數万圓の補助を得つゝある郵船とは到底競爭する者は少しもありません。つまり郵船の運賃率により臨時に社外船は連賃を定めております、如何に郵船が競爭しても北見沿岸より社外船を驅逐し、獨專と云ふ譯には參りますまいからこゝ暫くは郵船と社外と妥協しても、陰に陽に競爭は免れますまい。殊に鐵道は目前にきてをるし、來年營業線として鐵道開通の曉には社外船今日より以上に入港する樣になります。北見沿岸の航路を郵船のみにて獨專する時は、實業家は總て大打撃を受けて倒產者が必ず續出するだらうと思ひます。要するに社外船は實業家に採ては直接に間接に利する處多大にして郵船を監視する樣のものです

夫に北見沿岸より毎年輸出する數十万石の木材は、社外船にあらざれば之を積出すことは出來ません、本年は尚に十一月中旬でありましょう夫にも不拘大孤川丸だの盛運丸だの大瀛船が網走へ入港し、數十日碇繋して高浪を凌ぎ、美事に木材積入を完了し本日（十一月廿三日）出帆しました。盛運丸は本日も盛にノトロ沿岸で積荷して居ります。今日まで北見沿岸は十一月はとても木材の積荷は出來ぬことになつてをりましたが、獨り網走は十一月でも積ると云ふ新しきレコードを作つたのです。是等は決して社外にあらざれば郵船には出來ません。網走港は少し修築さへして貰へば、一月中は必す荷役は安全に出來ます、鐵道開通し何等海陸連絡の設備なきは佛を造りて魂を入れぬも同樣遺憾千萬です。

聞く處によりますと網走の先覺者諸君は大に感する處あり、憤然として中央政府に港灣の修築の急を迫ると同時に、町費を以て艀船の碇繋場を築堤せんと既に町會にて決議を經たる事なれば近き將來に現實せらるゝものかと聊か意を強するに足れりです。

陸運送の事ですか、陸運送業は會社組織で北一合資會社北見運送組の名義の下に、去年より經營しました、此の營業はごちらかと申せば充分の經驗もない故、釧路の方へ數ケ月事務員を練習にやりまして網走線が開通すると同時に逢別驛に支店を設置し、引續き逢別野

村牛線に於ては野付牛村名士の經營に係る大發送する爲め大々的困難をしました、野付牛同運送組と大々的競爭が始りまして如何にも困難しましたが、後には双方意志疏通しました故合同計營に致しまして今日も繼續しております、序ですから運送の事ではありませんが之に關聯したる網走まで鐵道開通したる曉には、どうなるかと云ふ問題を簡單にお話し致します。網走の先輩者の一部及ひ野付牛の紳士連などは斯樣に申して居ります、鐵道一度網走まで開通したる時は網走はだめ、逆も現狀の維持が困難だ。支廳も警察も裁判所も其他總ての行政廳は皆野付牛に移轉すると云ふて甚だ悲觀しております、ところが夫は充分鐵道の運賃を調査しない結果だらうと思ひます、現今總ての行政廳を百年の後はいざ知らず、今日直においそれと申して移轉する譯には行くものではありません。のみならず鐵道開通後に於ける網走は海陸の設備を完了し、是非北見國の物産のみならず進で釧路十勝の物産も我が網走より呑吐するやうに、偉大にして且つ遠大なる百年の長計を今日に於て立案せねばなりません。則ち港灣の修築開港場の資格等尤も急務中の急務です、それに先

刻申上ます通り、私は網走將來の悲觀論者と絶對に反對の意見を持ております、まあ重なる物産の運賃は鐵道開通後にどうなるか調査して見れば、野付牛、置戸方面より釧路に搬出すると網走に搬出すると木材には針葉樹、栓角、類は七噸車貸切扱にて鐵道廳に納金するのみにして（運送店の扱料及び積入積卸は加算せず）約三臺車にて百石を積みますから其運賃は釧路には六十一圓餘、網走には野付牛よりなれば二十一圓五十錢餘、置戸よりは三十圓餘りです。楢木や白楊丸太は四臺車位で百石積みますから、之は釧路には八十一圓四十五錢餘、網走には野付牛より三十一二圓、置戸より四十圓位であります、農産の輸出は割引になりますから、大豆十一圓餘、網走野付牛間は十五圓餘でありますから、之は釧路には二十九圓餘網小豆小麥にて少しづゝ差はありますけれども、平均して百石野付牛釧路間は二十九圓餘網走野付牛間は八圓五十錢餘であります。枕木ですか之は八吋は七噸車に百本九吋九十本位積みます、運賃は野付牛釧路間一挺に付貳拾貳錢位にて、網走へは八九錢位のものです。此の運賃より比較して見ると農産は釧路の三に對し網走は一です、木材は品により三と一との割合と二と一との割合になります。要するに木材の如きは時機の利用問題にて、網走に搬出せらるゝものと釧路に搬出せらるゝものと無論ありますが、十中の八九まで、網走に出ると思ひます、農産物や白米の如きは網走商人の奮闘次第であらうと思ひます、決して何れの方面より見ても鐵道開通後網走を悲觀する樣の事はありません、必ずより以上の發展することは計數上よりありありと判明しております、大に氣を強し進んで利を收めねばなりません。さりながら網走は悲觀することはいらぬと申してぼんやりしてはおられませぬ、進で改良す可き事はどし〳〵改良もし、商品も或る程度までは値下も斷行せねばなりません、又た木材の艀賃雜貨の艀賃等も賃錢を釧路と同一に引下げる覺悟で設備せねばなりません。本船の運賃も海浬數に從て引下げねばなりません、百石に付釧路と網走に出すのとは木材でも農產でも數拾圓の差を生じます。然し現況のまゝにて艀賃を下げることは或は無理かも知れんが、設備の如何によつては引下げる餘地は充分にあるのです、前申上ます通り百事さしおき開港場の資格港灣の修築に全力を注ぎ盡すは網走先輩者の責任なり義務なりと確信します。又た開港場の事に付ては少し調査した事項もありますけれども先輩諸君に於て夫々腹案もありますことゝ信じますから、私はこれで御免を蒙ります。〳〵だらぬことを長々と申上で相濟みません。

遠藤勘兵衛翁

◎遠藤勘兵衛翁　北見國は往昔より漁村に過ぎぬ沿岸の殖民地であつた、其漁業は海岸建網本位で他に考慮する處なく今や建國に資すべき大々的遺利のある「オコツク」海の海田や耕耘適地の土壤肥沃なると、森林の豊富なるは本道中甲乙を爭ふ石狩國と比肩すべきは何人も認識する處なれば、多く論ずるの要なし、只惜むらくは交通機關不備の爲め事業實施に付幾多の危險を含が故に着業の至難となり、人煙の稀薄なるは朝野の銘士に閑却せられ拓地殖民の遲々たる原因であると想ふ。

△△△△△△　海陸交通機關　網走港の將來北見の拓殖は、國家の利源を開發し、邦家萬年の富強を致す所以である、其富源を開發せしむるは交通機關を利便ならしめざるべからずとは予輩の持論而已ではない、朝野の輿論既に一定し又既往將來共に政府及び專門家として北見沿岸の港灣修築は網走港に於てすべきものなるは、是れも一定の歩調を以て確立せられたのである。則ちシー、エス、メイク、藤井博士、伊藤技師、園田案河島案等の如く而かも政府は北海道拓殖計畫案を定められて、爰五年を以て完成するの方針を確定したる以上は、公約として之に伴ふ交通機關の一部鐵道敷設せらるゝ次第であるが、網走の如き終點地は海上に於ける港灣の修築と相俟ちて始めて効果を奏するのです、然らざれば實蹟を擧る事が出來ぬのである。

然るに政府は何が故に施設を躊躇して今に着手の運びに至らざるか、或は曰政府は財政緊縮事業繰延の方針なりと。

果して然るか否は疑問です、成程不急の事業なれば國家經濟上繰延も「さこそ」と思はるゝも、北見拓殖上現下喫緊の急務なりとして巨額の國帑を投じ、網走を終點として敷設したる鐵道を如何に利用するか陸上の交通機關如何に完成すると雖も、海陸連絡を全せざれば人體に於ける右手右足のなきが如く、況んや北見の主產物は洋の東西を問はず諸外國へ搬出すべき木材である。鐵道完成したる曉は一日も早く特別輸出港として開港を促し來るは自然の趨勢にして、單に地方民が唱導する而已ならず鐵道敷設は國家なり「されば」國家經濟そのものが大聲疾呼して開港を促すものと云はねばならぬ。

北見國は殆んど半破間氷海となり、半身不隨の如くなれば築港は無用なり幹線鐵道開通せる以上は網走築港は贅物なりと、是れ等は我田引水者流の片言にして一月下旬より三月下

北見之富源

旬迄流氷の爲め航海杜絶するも其二ヶ月こそは積雪中幾百萬石の木材を伐採し製材搬出等必要缺ぐべからざる生產時期にして、四月より呑吐すべき天與の期間なれば、造物者の配置宜きを得たるものと謂つべし。

又鐵道の運輸に於ても網走港が勢力範圍に屬し呼應すべき近距離に依らず百哩以上乃至貳百哩以上の長距離なる釧路小樽港に搬出するは國家經濟として甚だ不利なるものと云ふべし、築港の費途は數百万圓を要するものなれば、國家財政上暫く猶豫すべきの事情ありとせば「せめて」は特別輸出港に供する程度を以て、該一部を修築する數十万圓位は北見國より生する自然收入を分割して之れに充つるも短日月の間に回收し得らるゝものと信ず。

移民招致策は多々ありと雖も、先住者の成功に基き彼等の知緣をして信賴より生ずる後進の移住者は彼我相待つて愛土心の極めて鞏固なるは既往に徵して瞭かなり、然るを地方實力の進運に放任するとせば、北見の如き未だ人口稀薄にして、地方人民の負擔に堪へ難く墳墓の地を去つて交通不備山野の茅屋に鋤き、猛獸と戰ひ臥薪嘗膽細煙を經營せる先住者は徒らに故郷の天を望みて長大息を洩すに至る、牧民の見地よりせば哀むべき狀態を演するなきを保し難し。

北見之富源

北見沿岸中宗谷岬の燈臺のみにして、航海業者に對しては暗夜に無提灯的不親切を窮め、人命救濟海國男兒を布敎しながら公德慈仁は「ゼロ」であると云はれてはならぬ常呂岬、知床岬の燈臺は急設を要するものなり。

尙ほ進んでは渺茫たる「オコック」海の海田は無盡藏の漁利あれば國家の寶庫として遠洋漁業他日隆盛氣運に至るあらば、國家經濟上大々的稗益と同時に諸外國が密漁の侵略を監視する便利もあるのである。

石狩國の今日を成せるは開拓使時代政府の保護策と小樽港の交通機關に外ならぬ、現時の北見國は交通機關を完成するを生命とするの外はないのである。僕は述懷として

予齡六十有一年　海陸交通叫機關
誰云老人冷水也　勿嘲老幼元一生
交通機關を完成して　文明の空氣を呼吸せよ
交通機關を完成して　安逸の惰民を放逐せよ
交通機關を完成して　拓殖の實を發揚せよ
交通機關を完成して　富國强兵國防に資せよ

北見之富源

交通機關なる哉、交通機關なる哉、何ぞ不思議の事業として繰延の理由あるか、畢竟網走地方民が一致協力熱心なる活動せざるが爲めではなからうかと疑ふのである。

看よ釧路港は今日の成果を擧るもの偶然ではない活動は克己忍耐熱心にあり、交通機關完成の爲め熱心にして醇厚俗を成し活動せざるべからず、活動は身體健全となり精神爽快となる。彼を思ひ之を思ふも淺薄々弱なる思ひではならぬ。活動は克己忍耐熱心にあり、克く其の艱難に堪へ克く其の困苦を忍び思ひを果さねばならぬのである。

題△思　思ひこそ思ひなおしてまた思ひ　思ひとふさておかぬ思ひを

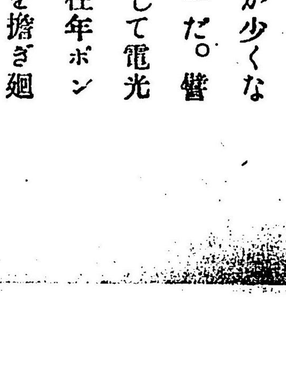
交通機關の一部たる網走港修築の爲めには上下心を一にし熱心なる活動を以てし普天の下率土の濱王臣たるの本分に愧ず邦家万年の富強を計らんことを。

◎木下詳君　網走町の商人中春秋に富めるは銅鐵商中川國藏君と共に、君も亦た青年實業家の側で隨つて勇氣物々當にヂット我慢も、無爲にして終るが如き意氣地の無いことは大嫌ひで稱も荒居るは愛嬢縣の人で書

雜誌和洋小間物店を開らき、傍ら貸屋といふ極めてチミな營業を兼ね網走町屈指の富オカヨ店としては少しく異樣に感じさせ、或は君の性行も表裏兩面があるものと速了される嫌ひも無いではないが、人物評に渉るが如きは抜きとして、茲には君が網走町會議員として活動の舞臺に在ることや網走商業組合の評議員として、組合の實際上全責任を負ふて劃策することや、乃至は其別働隊なる丸日組合の主幹として、商業界に於ける花形役者たること丈けを記して置く。

鐵道開通後の網走商界ですか、イヤ十人十色で悲觀樂觀交々の樣に承ります、夫れかあらぬか商品の仕入れも昨今では六分仕入れを唱へる向きもある樣に聞きます、自分達の考へでは爰元石に噛り付のても網走の商人は品切れの誘りを受けないに樣商品の潤澤に努めねばなるまいと思ふて居ます、ナニ君今日鐵道開通の野付牛を見給へ汽車積みよりも却つて經濟に付くといふので網走から從前の如く商品を揚げる商店もあるではないか、ソウ〳〵悲觀するものではあるまいて、マト今後は十勝釧路の商人と互に腕を磨ぬて雌雄を爭ふ底の勇氣がなくて此の網走を如何する如何すると言ひたくなります、網走の商界を賑にするには是非共町の繁榮を策せねばならぬが、鐵道院でも鮮魚の運賃は高級品として扱ひ來ら

しものを今回特に普通品同樣賃金を引下げたから網走も大に販路の擴張に努めねばならぬ夫れから附近の山野は悉く牧場として經營せられありて、町の發展に資する處が甚だ少く個人の私有地に對して何も彼れ是れ容喙する限りではないが、出來るならばドシ〳〵開放して小作人を入れ、農耕地を增加することに奮發して貰ひたいのです、是れは地主の側から申しても大に利益の擧がる方法であると信じます、網走町附近に農家が殖へたならば、夫れ丈け町の發展に資するには相違ない。併しながら此位のことでは滿足することが出來ぬ既に網走線鐵道が貫通する以上は百難を排して網走築港の速成を迫り、野付牛美幌方面の商權を恢復せなければならぬのです、自分は網走町の全力を傾注して之れが速成を迫りたいと思ひます、殊に其の築港速成の聲を大ならしむると共に現に一大不便を感じつゝある解船の繫留所所謂網走の突堤は位置がバイラギであるとかポンモイであるとか、但しは河口であるとかいふことは、十分調査を盡くし違算なきを期して、是非共急速實効を擧ぐることに致したいと考へます、折角文明の利器たる鐵道が敷設せられて、直ちに網走町の衰退を憂ふる如き有樣では殆んどお話になりませぬ。海陸運輸の便を增してズン〳〵改良に改良を加へたならば網走町の繁榮は期して待つべしで、我れ〳〵町民の奮發力如何に依つて榮枯盛衰を岐かつことゝ信じます云々。（四十四年十一月九日）



中川茂一君

◎中川茂市君　網走町には新潟縣出身の人物が少くない、就中君の如きは異彩を放てる有志家の隨一だ。譬へば甕中の錐で、君の才能は物に觸れ事に對して電光石火、是非曲直の判斷を下すに躊躇しない、往年ポンモイ突堤問題に付き原前道會と共に故峰村翁を擔ぎ廻はつて、折角の計劃を中途にして、挫折せしめたるため、網走線鐵道開通の今日、海陸聯絡の設備を欠ぎ、噬臍の悔を貽したるのみか、西村六部長をして、網走町民は不信の民也と絶叫せしめたのは、耳尙ほ新らしき事實なるが、兎に角く町會の決議を經て將さに是より實行期に入らんとするに方り、廢案に歸せしめたる君の活動振りは、敵も味方も一齊に刮目して、永く念頭に刻み込ましめ、一方の儌將として重きをなすは、偶然ではない。君は專ら牧畜業に全力を注ぎ、牛馬の改良に腐心せられ、再三町會議員たりしも、今や辭任して單に產牛馬組合の評議員たるのみである。

網走の繁榮策としては、交通機關を設くるより外に急務は無いと思ふ。全體未開地の開拓

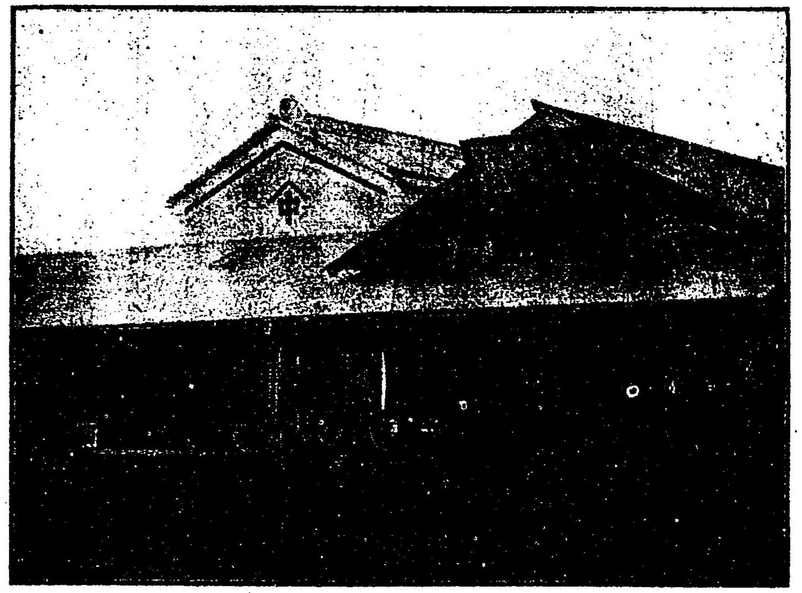
は、地を拓らき民を殖えるの計眼目である。現今の北見は北海道中の未開地で、一大鞭と共に是れ迄放任されておつたのだ、十五年經營案は同じく拓地殖民の二大目的に外ならすとせば、北見と天鹽に全力を傾注すべきである、夫れが如何です、未開地を開らくといふ理由の下に堂々たる經營案を樹てゝ、矢張北見を嬰兒扱いにするとは奇怪千萬ではないか。長官なり部長なり代議士諸公なり、少しにても拓地殖民の實際的意義を了解したならば、決して今日まで、北見の如く天鹽の如く、放任される筈ではあるまいと思ふ。乍併幾ら憤慨した迚、棚から牡丹餅が落ちてくるものでないから、北見人士は大に活動して、天下の耳目を集注するの策を講じなければならぬ、丁度お祭りに踊屋臺を擔ぎ廻はつて、賑かにするのと同じく、陽氣に樂觀的に騒ぐ必要がある。先づ以て網走の築港速成は、町民多年の宿望で、未だ實際着手の時機に達せないから絶えず世間から忘れられない様に其聲を大にして行かねばならぬ。網走線鐵道は開業されるのみに甘んぜず、山間線に咏を占められたるに關せざるなく、海岸線の網走湧別間は、絶叫したい。厚岸網走線は、既定の線路で變更して、速成せしめ太平洋とオホツク海との聯絡を簡捷にする。鐵道といふ事業に對しては、道路を開鑿して、

貨物の集散に便ならしめ、移民招來に力めねばならぬ。斯うして始めて網走の繁榮を期し得らるゝので、我輩の希望は實に是れ以外には無い。迚も大築港の着手は何れの日にあるや、自然增收豫定の如くならすといふ現況なれば、網走町として是非一時凌ぎに艀船の碇繋場を拵へる必要はある。前年我輩はポンモイ突堤に反對した、夫れは川口になりバイラギなりの方面を調査して比較研究を經たものでないから反對したのだ。海陸聯絡の設備を不必要なりとして反對したのではない。我輩一己の私見としては、川口を浚渫して一方に護岸工事を施こし、相當の水深を保たしめて艀船や漁船や小蒸汽の出入に便ならしむる様にしたいのだ。悠々たる網走川の流れは靜に、水深く兩岸は平坦なれば貨物の積み卸ろしに差支なく、川上みには停車場を設けられあり、是れ程海陸聯絡に恰好の ケ所は外に多くあるまいと思ふ、誠に天與の地形である。見給へ越後の信濃川を、敦賀の川でも酒田の川でも唯一方に護岸工事を施した許りで、海水が之に打ッ付かり、河水が之れに激して今迄淺瀬でありしものが、今日では相當の水深を保ち得て、舟揖の便が大に開けたではないか。河から土砂を吐き出すために、年々幾萬の厄介物を拵へつゝあるし、以上の諸大則と比較すれば、網走湖といふ一大沈殿地を川止工持あて居る網走川は、開闢以來何千萬年靜

岸から吹き寄せ來りし土砂のために河口を閉塞されて、舟揖の便を欠いで居る、越後や酒田の如く小規模でもよいから護岸工事を施こしたならば、優に海陸聯絡の目的を達し得らるゝであらうと確信する。河口を浚渫したならば西岸の砂濱は、一大突堤の作用を示し、貨物積卸に便利を與ふるは必然である云々。

中川國藏君

◎中川國藏君　明治五年八月佐渡國に生れ、寡言沈默當世得易からざる熱誠率直家である。現今中通六丁目に一大店舗を構へ、銅鐵物商としては恐らく北見一の盛況にありといふ評判だ網走町會議員の名譽を荷ふて居らる……網走問題ですか、肝腎な經費の一點に付きて突堤一件も甚だ心細き情態にありますが、元と〳〵私共は前のボンモイ突堤が成立しない時から、網走港より輸出入せる貨物に一個に對し、一錢宛を徴して之れを以て海陸運輸聯絡の一端に供する丈けの設備を完ふしたい考へで着々進行せしめ、一ヶ年許りで貳千百五十四圓九十三錢の徴收が行はれたのです、處ろが物產商組合の連中から大反對を受けまして、今日まで廢棄の儘になつて居りますあれを繼續してやり來つて居つたならば立派な財源に數へて相當に設備が出來たであらうと實に遺憾の至りと存じます、これは私のみでなく木下詳君も極力主張した同志ですが、同君も亦大に殘念がつて居ります。荒浪に浚らはれた枠の費用ですか、あれは茲に決算表があります詳細は佐藤町長の手許に保存されてあります、工事費に一千七百四十四圓三十一錢物品代十四圓五十八錢人夫賃六十圓五十三錢監督費九十七圓設計費二十圓といふ計算で殘額は毀はれた石枠を解の出入に差支なき樣取除工事の人夫賃に支拂つた筈ですから、今日では一錢徴收問題も夫れ切りに結了したのです、海陸の聯絡上大築港の出來る迄應急設備と



中川織物店

じて突堤の必要は勿論のことではありますが、其費用を産み出すことが頗る至難で町債によるとすれば第一其消却方法から先きに決めて置かねばならず、如何に低利でも之れを一般住民の戸別割に賦課するとせば其負擔に堪へぬ苦情が必らず續發すると思はす、私ですか突堤は必要と考へますけれども財源に就ては苦心して居るのです……電燈會社のことですか、之れは是非共一日も早く設立したいものです、ナーニ私共でも發起株位はお引受け致します、鐵道が開通した後ち電燈が無い樣では誠に耻かしい次第です云々。（十二月九日）

峰村敎平君

◎峰村敎平君　君は網走町に於ける最も年壯有志家であつて亦た最も金權を代表する人物である。但し金力のあるに任かせて、無暗な眞似をするでもなければ、金持風を吹かせるでもなく地方問題といへば率先して奔走するので、網走の上下老若を通じて評判が善いのは結構だ。……私の北見開發策ですか、イヤ是れと申して、お話する程のものはありません。が、折角ですから必ず注意を拂ひた移民招來策に就て少しく述べて見ませう。

移民の增減は依つて以て本道開否の分かるゝ處と雷同ならば、廣大なる殖民地を控へ有る北見の發展策として、移民招來の問題は、陳腐の如くにして且つ新らしき問題と思ひます。私の考へでは移民を大別して、單獨移住、團體移住の二とし、此の團體移住に就ても一、自治的團體移民、二、保護的團體移民の二つに區分し、前者は移民夫れ自身が打つて一團となり、幹部を設けて團長の指揮命令下に服從し、殖民地に於ては共同長屋的生活を爲し、兩三年後に愈々未開地を墾成した曉、隨時分立して一戶を構へさしたならば、創業中の無益な費用も省け、互に仕事も勉勵し、好成績を擧げることが出來ようと思ひます。第二の移民は從來募集せる方法で、地主が自己の小作人として、多數の移民を招募し、保護を與へるといふのですから別に說明する必要はあるまいと存じます。……

中川米次郎君

◎中川米次郎君　君は明治八年八月京都府小川二條に生れ小學の課程を終へると共に又十藤野家へ見習奉公として入り間もなく根室へ廻はされ元と網走町唯一の老舖たる藤野家經營の下にある白木屋呉服店に來り當時の主任高田亦次郎氏の配下に屬し會計の要職に在り

しが郡合上白木屋の閉店に際し一先づ他へ轉せしも烟眼なる君は將來に於ける網走町の發展を察して立脚の地を定むべく再び來つて獨力幾多の困難に打勝ち多年の辛勞空しからず今日の處では町の中心點が漸次東より西に遷れるため三丁目以東は多少寂寥を感じ來りしとは言へ偵がに市内隨一の稱ありし金清商店を凌ぐの勢ひで荒物商としては三丁目以東の巨腎を以て目せらるゝに至つて居る是れある哉君は海陸物産商組合の組長として將た又町會議員として大に重きを爲して居るのは偶然ではない……溫厚なる君は何處やら爭はれぬ優さしき上方辯を交へて網走商權の擴張に付き語つて曰く鐵道が全通せぬ今日では從前の華客たりし野付牛美幌方面の勢力範圍を侵略せられたなれ共扨て愈々全通の曉には一擧して之れを恢復することは決して難事ではありません釧路旭川乃至小樽等より鐵道便にて日需品を輸送しつゝあれ共其最も多額の取引を爲せる小樽と野付牛間の運賃は白米百石約六十圓餘である、是れは臺車を借切つての割引運賃だ然るに毎年當町商人に於て產地より白米の直輸入を計れば運送賃漸く百石に付き三十四五圓しか掛らない優に小樽との競爭に打勝つことが出來る其他我々の勉強次第で幾等も商權の擴張が出來ると思ひますのであるから私は少しも悲觀しては居らぬのです唯米は產地直輸入の運賃低減に依て以上の强味があるとしても其他の雜貨を兩館より仕入るゝものとせば是非共郵船なり社外船なりの運賃引下げを忍んで貰はねばならぬのでありますす四十四年中は郵船と社外船と競爭の姿なりしため四十九圓の運賃を三十二圓に減じたが年末に際して郵船は妥協して運賃の復舊を決行しました其處で私と横山さんと商品仕入れのため兩館へ出張した際に郵船支店に到り態々其の復舊の不當を鳴らして乞ふ所ろがありましたが係員も大に之を諒として同期丈げは運賃据置となりました併し四十五年同樣我々は之れを要求する覺悟です汽船の運賃を一方で低減すると共に艀賃や運送賃も低減し汽車運送に對抗するのは急務であるから隨つて築港の速成艀船の碇繫場を設備することは目下に於ける焦眉の急務といふことに歸着するのでありますす網走町發展の大策としては海陸運輸の聯絡を敏捷ならしむるより他に重且つ大なるものはあるまいと斷言します云々。

高田亦次郎君

◎高田亦次郎君　江州商人で安政六年十月生れの君は郡町村總代を勤め、町會議員となりしこともありしが今は全く公職を去つて一意專念呉服商を營んで居る。乍併君の如き溫厚篤實にして世間の信用厚き者を、誰

れか其優に看過する者があらう。人物經濟の上から見ても、町の不利不便は決して尠少ではあるまい、果せる哉君は北海道倶樂部網走支部の常任幹事として公共に盡瘁すべき責任を餘義なく負荷せられた。君の熱心なる活動と要求とは常に姑息偸安を事としつゝある、一派の軟骨漢をして奮起せしむるの慨があつた。網走港頭を飾るべき能取燈臺も解決の緒に就き、網走開港も君の署名に依りて請願せられ、圖書館の維持會も亦た君の勞に俟つて逐次鞏固なる基礎を築ぐに至つた。君は亦た公共以外神佛に關する行事は、常に喜び勇んで世話をし、肝煎るのであるが、偶々熱心の餘り山瀬の吹き荒むこともありて、他をして顏色なからしめ、多少不滿の感を抱かしむる如き、滑稽も往々無にしもあらずで、或は人心收攬上非難すべき欠點ならんも、蓋し君の山瀬は到底山瀬たるを免かれずして、一度吹き荒さんだ後は、夫れこそ光風霽月、以前の溫厚篤實に復するから、特に之れを稱して、大欠点とするには、及ぶまいと思ふ。君たる者網走町發展に付き、大に自重自愛すべきである。

相馬院長

◎相馬廣吉君　網走病院を去つて獨立の旗上げを爲し北通りに高大なる病院を建て、自ら院長として活動し常呂村迄勢力圈を擴張し、一時は網走病院を凌駕せんする勢を示し、五千の町民をして、アツト許りに感嘆の聲を發せしめたる、君も亦た本業の醫術以外、隅に置けぬ、經世の才ありと稱すべきであらう。君は栃木縣芳賀郡祖母ヶ井村の出身で、明治五年九月生れ。現に町會議員の要職に在り、一方の驍將を以て目されて居る。

◎原鐵次郎君　前道會議員の名譽を荷ひ、北見の牧畜家として、夙に盛名を博したる君は奈良縣出身で、安政元年一月十六日生れだ、君は先づ北見の發展に付き語つて曰く、私が初めて網走へ來たのは明治十四年であつて、其頃の網走には土人の外に家を構へて居つた者は、藤野漁業店位で、今日の如く野付牛へ通ずる所謂中央道路も何も無かつたので、私は土人を連れて、峰から峰を傳ひ、十勝國境より北見へ扱けたのです。今から想ふと三眺山の頂きに攀ぢ登つて、ヤット海面を見た時の愉快は終生忘れることが出來ないのです。中央道路にして君の有樣だから、況んや美幌や釧路の道路の如き、形も何もあつたものを

はない、實際熊や鹿の棲息地としか見ることは出來ないのです。從來各町村發達の趨勢を見まするに、北見の四郡は漸く明治二十四年から發達しかけた。三十年から凡そ十五ヶ年の今日までは、紋別郡の發展であつて、今後の五年か七年間で、網走は現今よりも五倍十倍する發展を期せねばなるまいと思ふ。夫れには第一に海面の設備を整へ、木材業の奬勵は勿論、水陸產物の增加を計り、生產力を強大にするより急務はあるまいと思ひます。鐵道は開通しても、直ちに莫大なる農產や工產があるものではありません。當分は木材を主要貨物とする外はないでしよう、野付牛丈けでも無論二十年や卅年では伐採し盡されない前例としては厚岸がある。同地は明治十二年頃から木材業者が手を出して、年々歲々伐採搬出されゝけれども、今日尙は木材の盡きた話を聞かないのに徵しても、決して悲觀するには及ばないのです。斜里も中々有望です、併し美幌方面に比すれば遜色なきにしもあらずと認めます。釧木禽からオンネ木禽、津別、杵端邊の奥にかけチミケップ湖畔の木材は百萬石以上で將來網走川を利用して網走港より呑吐する時期が來ましたならば、目覺ましき大發展をするだらう、今日以後鐵道の惠澤に浴して、網走の盛大は五倍十倍の富力を養ふこと決して架空の談ではないのです。此の新時代を迎へ、此新機運に際したる以上はお互

に勇氣を百倍して、公私共に大々的努力を爲すの覺悟を持たねばならぬと存じます云々。

◎田野岡茂君　二十餘年間一日の如く、孜々として通信事務に從事し、網走郵便局長の椅子にあり、傍ら町政に干與するの外、餘財を牧畜業に注入し、現に網走町よりも程遠からぬ能取湖畔に於て三百餘町歩と、二百七十六町歩餘、新栗履村で百七十餘町歩、藻琴湖畔で二百九十餘町歩の牧場を成功し、牛馬頭數の多きこと、設備が十分で、管理飼養も行屆き、藤野嘉多山原の著名牧場を壓して、旭日冲天の勢ひなるは、萬目の齊しく認むる所であるが、果せる哉君の適確なる基礎の上に築ぎ上げたる信用は、郡產牛馬組合をして、馬政局より貸下げられたる純血種牡馬を飼養管理することは、君の牧場より外に無いと迄評決せしめた。君の名譽は勿論であるが、今後右の種牡馬に依りて、北見畜產界に一新紀元を開く盛況を迎へた曉には、君も亦た其一端の殊勳を分かつ資格がある。人生何事にあれ他の模範とせらるゝ程愉快の事はあるまい君は元治元年十一月高知縣長岡郡大津村に生れた人だ。他人が悉く牧場經營に匙を投げつゝあるに際し、君は不撓不屈の精神を鼓舞して奮鬪する其の武者振りが、健氣の至りであると敬服して何か牧畜業に關する所感談を叩き、併せて君の寫眞を揭載せんと欲したるも、君は深く口を噤んで更らに語らず又た金錢

でも取られてはその梯檝。失敬千万也とは思つたけれども、君の美點は美點として、編者は茲に紹介の筆を弛ることゝした。

◎松坂信太郎君　牧畜業と呉服店とを兼營して、網走では相當の勢力を扶殖しつゝある君は、南部の人で、文久二年十一月生、網走移住當時の狀況を叩けば……君曰く僕が來たのは明治十四年だ、其頃は又十の外にシャモの家があつた許りで、僕の此住宅は松井旅館の亡主人が鈴木文吉と稱した頃に、貸付の指令を受けたのを岩谷德松から買取つたのだが二戸分の宅地に三間に四間の平家が建てゝあるのを聽く勿れ大枚五十圓であつた。そうだ其時は慥かに明治十九年と思ふ。開けない時代は夫れでも直段が安いとは言はんから面白いではないか、辨天へ奉納の繪は網走草分けの名譽を紀念する爲めにしたもので、僕は贊成しなかつた。商店の方でも昔は一万圓の資上に對する純益と、今の一萬五千圓資上純益に匹敵するよ、夫れだから元は三割位利益をかけたものが、今は二割かけることが出來なくなつて來た。資上高が多くなるから、同じ結果になるけれど、網走も鐵道が貫通した以上は、一日も早く港を拵らへて、海陸運輸の便を圖らなければならないて、世間が追々忙しくなるに連れ草分けの元老は段々死んでしまい、後繼者の責任は一段と增して來るから、大に奮を締めて掛からねば馬鹿を見ることが無いとも限らぬと想ふよ。

◎安藤常君　町會議員中で獨眼龍として異彩を放てるは、君と松本君との二人者だ。君は辨論家で公衆の面前に於て堂々と議論を上下することを好む。近世的政論家を以て目すべきは十二名の町會議員中、君の右に出づる者は恐らくあるまい。君は藥種商を營み、傍ら舍弟をして藻琴湖畔の牧場を經營せしめ、既に成功濟みとなりたりと。君の事業は町の發展と共に前途益々有望なれば、他日に於ける君の雄飛は、一段の見物でがなあらう。君は山梨縣出身で、安政元年六月の生れ。

◎松本久次郎君　網走町會議員中での若年者、獨眼龍將軍の異名内外に轟き、狹斜の巷にすら評判される可褒者は、誰れあらう君許りだ。辯護士の事務員から賣出して、故峰村翁の腰巾着となり、多大の信用を博し二代の峰村若主人にも愛せられ、土地師の領分に侵入して莫大なる利權を獲得したれば、追ては一廉の紳士を以て、遇せらるゝに至るならむといふ。神奈川縣横濱市富士見町に原籍があつて、明治十一年六月の生れ、鄉里は大阪とかいつて居る。

◎轉石格次郎君　思慮周到、頭腦明晰にして、着々として事業を進め、所謂尺を獲て寸を伸ばすの筆鋒を心得、牧畜業に木材業、農業に土木受負業といふ色々の事業を經營して、違算なきを期する君の天才は亦た珍とするに足るでがなあらう。去れば町會議場に於て君の得意とする所は、數字を以て現はす豫算決算の塲合、算盤片手にパチ〳〵音をさせ、町經濟の權衡を失せぬ樣、緻密なる頭腦に依りて、明白に判斷を下すの一事にあるさうな。大言壯語是れ事として、數字を度外に置く、似非政論家の蟲忽たる今日、君の如きは實に得易からざる適材を適所に置くものと謂つ可しだ。君は安政五年四月二日廣島縣賀茂郡下黒瀨村に生れ、網走に於ける廣島縣人の立物で君の一號令の下に同縣人は去就進退することになつて居る。要するに君の性行は廣島縣人のスタイルを示したものと見て大差はあるまい。

◎相馬駿雄君　溫厚篤實の君子人として、現代青年中稀れに見るの事業家は、蓋し君を以て白眉とするに異論はあるまい。君は今教育品玩具雜貨商を營み、併せて大曲製軸所の動力を利用して、製材所を主宰し、熊谷氏の部下に在つて夙夜勉勵しつゝある。明治十一年七月の出生で、町會議員の名譽を荷ひ、正々堂々の論陣を張り、町政に貢獻する所は決して少からずといふ。君の前途は多幸ならむことを祈る。

◎菊池純二郎君　往昔源行家は士卒を撫育し兵法に精通せしも、數奇にして戰へば必ず敗れたりと。松前郡に一大農牧場を經營して成らず、釧路港の商業亦た利を失ひ、網走に來りて亦た志を得ず、更らに樺太兩館に轉じ、再び網走町に復歸せる君は、酒も飮まず女も買はず、學は大學豫備門に遁み、英漢數を專修したることあり、君の行徑豈に行家に酷似せるものなからずとせんや。乍併行家の敗るゝは平氏勃興の機運に反せしに座す。君や北見開發の活問題に對して、終始一貫せば、北見の發展と共に、漸次其の地步を進め、偉大なる成功を見るや必然なりと信ず。聞く君や客臘上京南部落出身の先輩と議して、大々的生產事業を目論見たりと。君が樽尾の活動は、一個の興味を以て張瞻明目之れを迎へんかな。君は網走町に於て無くて叶はぬ、尤も眞面目にして、思慮ある奔走家と評するは少しも過褒ではあるまい。

◎長岡溯司君　君は網走に於けるよりも、寧ろ北見に於ける奮鬪者として、惰氣滿々たる當今の青年界に刺激を與へ、敎訓を與ふる指導者として敬意を表すべき價値がある。君の最近に於ける經歷を知るとに論なく、根室の根據地が土崩瓦解したるとに知らざるとに論なく、

ため、決然として新運命を開拓す可く、網走に移り、日露戰役の頃は萬事蹉躓して、止むなく湧別に轉じ、具さに世路難を嘗め盡くすこと幾星霜、飜然として大に期する所あり、苟くも北見に於て爲す所あらむと欲せば、網走を以て策源地と爲すの要ありと斷じ、再び斯地に復歸して、迅雷耳を掩ふに暇なき活動振り、君の掲げたる長岡回漕店の金看板は、未だ幾干ならずして、北見木材輸出業者に多大の便宜を與へ、自他共に利する處少からず店運日々に隆昌に向ふ狀況、蓋し機運の然らしむるものあらむも、君の敏腕と熱誠とが贏ち得たる結果であつて、爲めに君の男振りを上げたること幾段なるを知らず、將來君の計劃、君の頭腦と共に圓熟するに隨ひ、破天荒の策戰なきにしもあらざるべしと心窃かに君の前程を祝福する者決して尠少ならずだ。將驕れば兵を損すといふ、君は小成に安んずるなく、飽迄正道を辿り、公益を念として私利を專らにせず、奮闘的歴史を飾るに足るの、心掛けが肝要であらうと信ずる。

◎吉川善藏君　理財の途に長じて、年一年資産を增殖し、財界の一方に雄飛せんとする立ち場に辿り付かんとしつゝあるためにや、君を目して、殘忍酷薄なる高利貸と稱するに至り、君の眞價は不幸にして、爲めに黒雲の蔽ふ所ろとならんとす。是れ果して社會の罪か將た亦君自から不德の致す所に依る乎。全體質屋を營むとか、金貸を業とするとかいふ連中が、世評を善くすることは、甚だ困難で、或は善く思はれるが最後、資産は漸次消散するなきを保せず、人間金貸となる亦た難い哉と叫びたくなるのだ。君は慶應二年七月六日生れで、福井縣坂井郡長畝村の人。明治三十年野付牛屯田兵村の開設と共に、同村相の內市街地に來つて店舗を開らき、後年網走町へ轉住し、林檎園を引受け、質業を營み、町會議員の任に在る。常に消極主義を擁して、豫算案に對するを以て、能事とするので、今や漸次資産の殖えるに比例して。交友は次第に離反する傾きがあるとの噂だ。君たる者大に反省すべきであらう。

◎町有志　別項紹介以外の有志としては、現今北見實業新聞社を經營せる松崎豪、元山田製軸所支配人四宮知萬、梅澤久治、高松兵助、工藤與一郎、武田新七、佐瀬子之吉、伊澤景介諸氏ありて、專ら公共問題に關して力を致さるゝは、亦以て町村の誇りとするに餘りありと謂つべし。

◎旅館と料理店　網走町の旅館としては松井旅館、岡澤旅館、熊谷旅館、益村旅館等を以て第一二流に推すべく。料理店は武藏樓、一喜亭、北盛亭等雄を稱し、西洋料理專業とし

ては三條亭あり。

◎商店　米穀雜貨商としては、横山、中川(米)、中川(清)、遠藤、呉服太物商は高田、松坂を推すべく、菓子商は赤城、佐瀬、鹽田、文具書籍類は木下、鐵物商は中川(國)各商店あり。酒造業には上田、熊澤、牧畜業としては田野岡、峰村、松坂、中川、轉石を頭目とすべく、土木受負業には轉石、中牟田、野坂、高橋、梶山等あり。

◎遊廓　北通三丁目にあり松葉樓、越中樓、昇月樓、北盛樓、金松樓あり。

◎遊覽地　網走町を距る西の方數丁にして、一小丘あり不動山と稱す。成田不動尊分靈を奉祀す、故に名く。丘上より展望すれば眼下に市街全部を收むべく、瀛船の出入汽車の着發、人馬の往來一々詩材に供すべし、而かも朝夕霞を踏んで俗腸を洗ふを得、恰かも別乾坤の感あり。

不動山に比して勝る共、毫も遜色なきは、夫れ遊園豫定地の嚴島神社境内ならむ。土地高燥にして閑雅加ふるに展望亦た尋常ならず、春は花に飽き秋は月を賞すべく、皇太子殿下御慶事紀念の櫻、日清日露戰役紀念碑あり、碑は伊東乃木兩大將の揮毫に係る。

△三眺山　は網走を距る一里餘の西北網走監獄用地にあり、網走、能取の兩湖を抱き、遙かにオコック海を望み得べし、故に斯名あり。景色の雄大なること帝國三景も遠く之れに及ばざるものあり。

第二節　美幌村外五ケ村

◎地勢　東南は一帶山丘蟠々として木繁茂し、中央網走川の沿岸は共に廣漠たる平原沃野遠く亘りて農耕に適し、北方網走川下流は濕地多く稍々東方に進むに從ひ漸く高丘となり、遂に藻琴山麓に達す。藻琴山は古梅村の東方に聳へ、南方釧路國境は鬱蒼たる針葉樹一面に繁茂し、濫木禽村には周回二里のケミチップ湖あり、湖中カバチヱホ（魚名）を産し、且全村は石炭を産す、達媚古梅村は白楊樹豐富なり河川の大なるものは網走川にして源を釧路國境に發し、濫木禽、達媚、活汲、美幌の各村を貫らぬき、網走村に入り網走湖に注ぐ流程約二十二里、美幌川は源を古梅村に發し藻琴山麓を屈曲流下し美幌村二股に於て網走川に合す。

◎境界　東は釧路國及び網走郡藻琴村に界し、南は釧路西は常呂郡野付牛村、北は網走郡網走町に隣り、東西十三里南北十八里にして面積約七十七方里。

◎沿革　明治廿年五月部内活汲村に戸長役場設置のことゝなりたるも、仝年九月六日北海道廳令第八十五號を以て、美幌村に位置變更移轉せられ、仝年十月二日網走郡北見町の管轄を離れて戸長役場事務開廳のより、當時は古梅枠端邊北見の土人數戸の外、麓木禽其他各村に舊土人點在し僅かに部落を形造れるのみなるを以て戸長野崎政之れをアイヌ古潭と稱し、總戸數僅かに十有六戸を以て村政を統べ來りたり。爾來各府縣人の來住者多少無之にあらずと雖も、十二年の長年月を閲みせる仝三十一年までには、漸く仝戸數三十餘戸を算するに過ぎず殆んど一去一來の姿にして地方の開發頗る遲々たり、翌三十二年に及びて鳥取縣或は石狩國夕張地方より十二三戸の移住者あり、越へて三十六年兼重浦太郎氏新たに戸長として着任以來、時の支廳長吉田直太郎氏の旨を享け、十勝方面其他より移民奬勵の結果來住者踵を接して到り就中活汲達媚二村の如きは仝年以來の新開移民部落にして、仝村戸數實に百五十戸を越ふるの盛況を呈せり、現任戸長は西田嘉太郎氏なり。

北見の土人

◎森林事務　三十五年十一月十五日林務課派出所美幌保護區員駐在所を置き今日に至れり

◎郵便局　明三十七年十二月二十日美幌原野三十一線へ開局松田富太郎氏局長たり。

◎社寺　美幌說教所　三十六年五月創立大谷派本願寺所屬なり。

◎戸口　美幌、活汲、達媚、麓木禽、杵端邊、古梅の六ヶ村を以て、一戸長役場を設けられ最近の戸口は左の如し。

	戸數	舊土人	戸口計
男	四六一戸	八一八人	一、八一〇人
女	九九二人	五二戸	八三人
計	一七八	一八六	九〇人
	三六三		一七三人

達　媚	一二六戸	二七二人	二二六人	四九八人	
磯木禽	二五	七五	六二	一三七	
杵端邊	二八	五五	四二	九七	
古　梅	六	二二	二三	四五	

◎財政一班　町村基本財産としては、

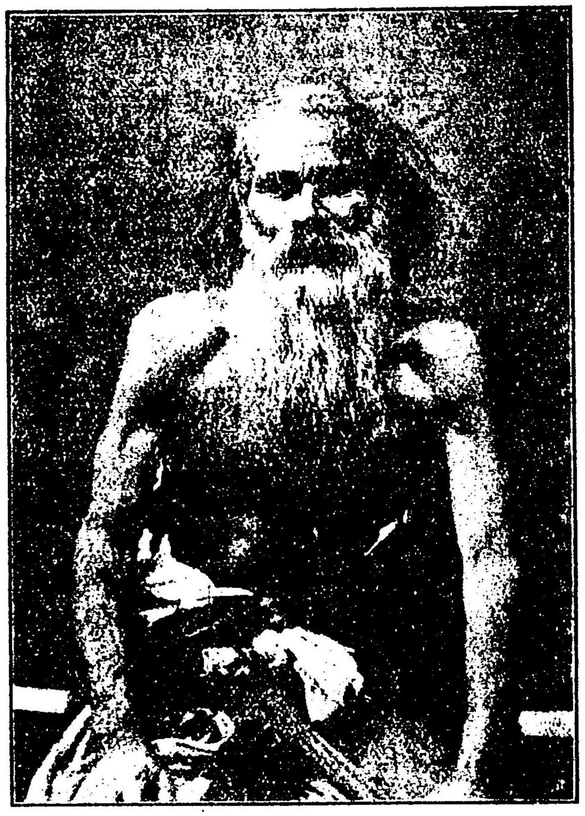
		土地時價	建物時價	有價證券時價	株券時價	現金	預金	貸金	合　計
美幌外五ケ村	普通基本財産	四〇七戸八二二							
	學校基本財産	七二〇、一〇〇	一、三七、〇〇〇	二四、〇〇〇	一九一戸一一七				二、〇六七、一〇〇
	備荒基本財産	七〇、〇〇〇	一、三八九、九九五	一、四五九、九五					六二二、九三九

を有するに過ぎず、而して最近昨年度の豫算は如何といふに、總額一万一千二百三十四圓六十一錢五厘の巨額を要し、之れが收入の主なるものは、二千三百四十圓九十五錢の雜收入、五百二十七圓四錢七厘の地方費補助、六千九百二圓四十六錢八厘の戸別割及び寄附金あり。支出の主なるものは、土木費五百十二圓教育費四千八百五十三圓七十七錢四厘、村醫費六百圓、勸業補助費四百二十六圓六十三錢八厘、村費取扱費五百七十二圓等あり。

臨時費を控除せる經常費と教育費を比較する時は、四割八分餘に當り、一戸平均六圓六十五錢八厘となる。

◎教育　四千八百餘圓の教育費を要する美幌外五ケ村にては、美幌尋常小學校、杵端邊教授所、活汲尋常小學校、津別教育所、磯木禽教授所及び野付牛十勝方面へは、交通の便頗る開けたれ共、太平洋と聯絡する點より見れば、甚だしく遺憾に堪へざるものあり。即ち美幌驛より分岐して磯木禽原野を縦斷し、阿寒湖に

北見之土人



の五校あり。

◎重要問題　網走線に沿ひ美幌停車場を設けられたるを以て、網走方面

沿ふて釧路港に達する所謂釧美線鐵道の速成を期するは、美幌開發の先決問題たり。此他道路の開鑿、橋梁の架設、網走湖の利用等、偻指に遑あらず、町村基本財産造成の如き特に重要問題中に算すべき也。

◎産物　木材、雜穀、薄荷牛馬等あり、北見に於ける大小豆産地として、美幌の眞價を發揮せしは實に十勝よりの轉住農民の賜なりといふ。

◎村有志　岡傳次郎、吉野長太郎、鳥居欽助、甲斐孫七郎諸氏は各實業家として村有志として活動せらる。

◎商店と旅舘　吉野商店、岡商店、鳥居金物店等は新開地の趨勢を察して益々商權を擴張することを怠らず。小泉田中の二大旅舘は以て旅客をして遺憾ならしむるの、待遇と設備を講じつゝあり。

藤島福治君

◎藤嶋福治君　君は夙に拓地殖民に志して、北見に來り幌内村に移住してから、或は水產、或は牧畜、或は幌内驛遞所取扱人、或は幌内郵便局長、學務委員村總代等の公職にありて、地方の公共問題や何に角に付き世話をして來たものだ。君は博愛平等を主義として、自己の一點曇りなき良心より打算して他も亦た然るべしと過信したるため、屢々思ひ掛けなき損失を招き、比年不振の漁業でも損耗したる等にて、財政不如意となり、亦た昔日の藤島大盡たる能はざるに至つた。丁度美幌村は鐵道工事のために、長足の進歩を致し、牧場として出願した地積もあつたので、斷乎たる措置を取つて、住み馴れし幌内村より兩三年前、始めて轉住したのである。君の牧場は美幌市街より約十町許しか離れて居らぬ愈々牧場として成功し、幌内に在住中と同じく君が其天性を發揮して適ばれ美幌の公共問題に盡瘁するの時も、餘き遠き將來ではあるまいと思ふ。

第三章　常呂郡各村

第一節　常呂村五ヶ村

◎沿革　本村は維新百五十年前近江國藤野四郎兵衛なるもの松前藩の允許を得て代々漁舎を常呂村鐙沸村に各一ヶ所宛設けたるを以て嚆矢とす當時道路なく橋梁なく全く無人の曠原にして山に獵し河海に漁り以て蠢々として生活する數口の土人の外見ることを得ざりき尋で幕府倒れ維新の新制を布かるゝに至り開拓使根室支廳後根室縣の管轄に屬し明治十六年始めて鹿兒島縣人松田三次郎を以て戸長とし現今の戸長役場制度を布かるゝに至る是抑も本村開闢以來始めて政治の下に立つの時なりし爾後開化の氣運は漸次歩を進め加之開拓使廳の熱心北見の移住を奬勵せられたる結果内地人の來住漸く多く獨立の漁業者も漸く加はり明治七年岩手縣人大越善三郎を始めとし三々五々常呂鐙沸海岸に内地人の家屋を見るに至りぬ。明治二十七年殖民として小島猪六原野に移住したるを始めとし、其後殖民區劃の制定ありて、移民の來住を俟てり。

明治二十八年高知縣人田村喜藏卒先して戸數三十戸人口壹百名の移民を率ゐて來住あり、是れ現今の土佐部落にして爾來年々諸縣よりの移住者多く次いで現今の岐阜部落となり川沿部落となれり續きて明治二十八年常呂尋常小學校川沿原野簡易教育所の設立ありて咿唔の聲を聞くことを得るに至れり。

明治三十年に野付牛原野（上常呂原野なり）へ屯田兵の移住ありて一層開拓の氣運を高め遂に現況を呈するに至れり。當時戸長役場は常呂外六ヶ村を管轄せるも、明治三十年七月野付牛外一ヶ村戸長役場設立せられたるを以て該村を分劃せり、太茶苗村にありては明治三十五年石橋平四郎の移住手師學村にありては仝三十五年杉本藤造移住したるを以て内地人居住の嚆矢とす、少牛村は未だ居住者なく又記すべきものなし。

◎境界　本村は北見の稍東部に偏せる常呂郡の海岸にありて、東は茫々たるオコック海に臨み、南の半部は網走郡能取村に對し半部は西部と共に常呂郡野付牛村に接し、北部は紋別郡湧別村に對す、而して各村個々の位置にありては常呂村と鐙沸村とは相並びて海岸に南北に位置す、而して常呂村の南に太茶苗村、手師學村、少牛村と順次平行して以て野付牛村との境界に至る、南北九里東西八里にして面積七十二里餘なり。

◎地勢　本村の東部海岸を除くの外境界は素より其内部にありても、其の大部分は丘陵起

伏し、南部を貫流する常呂川、ニコロ川、北部を流るゝサルマベツ川の沿岸に低卑なる沃地を發見するを得るのみなり。是等耕地は時々水害を被むることありと雖も、土質は眞土にして地味中等濕地を除けば小麥、大麥、燕麥、豆類、蔬菜の播種に適す、濕地も火山灰の類にあらざるを以て、疏水の設備をなすを得ば亦以て耕地とするに適す。

丘陵は牧場に適し間々耕作に適する所ありて、鹽地（タモ）白楊（ドロ）桂、樹、樺、椴（トゞ）其他の雜木を以て飾り、良好なる材木を產す。

常呂川は源を十勝國境より發するニオトコロ川、石狩國境より發するムカ川と相合し常呂川となり野付牛村を貫流し少牛村より來るニコロ川と相合して手師學村、太茶苗村、常呂村を串流して海に注ぐ、河底概して淺からざるも流木埋沒して舟揖の便を欠ぐを以て淺漲するを得ば艀艇等の來住するを見るに至らん。

ライトコロ川は東一線十一號より發し常呂村の北部なる岐阜部落を屈曲して猿澗湖に注ぐサルマ川は源を常呂郡トヤシベ附近より發し佐路間サルマベツの部落を流れて猿澗湖に注ぐ舟揖の便なし。

◎官公署　常呂外四ヶ村戸長役場は明治十六年設立せられ藤野四郎兵衛漁舍を借受け執務せり、當時七ヶ村戸長役場にして戸長は松田三次郎なりき。明治二十八年八月二十日現今役場裏なる丘上に建築せしも、風勢烈しき爲め明治三十七年四月現今の處に移轉せり、其前明治三十年七月野付牛村を置き上常呂を分離して現今の如くになれり。

◎巡査駐在所　明治二十年の設立にして常呂郡一圓を管轄す、戶長役場に於て執務し松田三次郎分署長を兼ね、其後明治三十三年六月分署の新築ありて專任署長を置く當時分署長心得浦西利久なりしが、今や之を廢して駐在所とす。

◎郵便局　明治二十四年の設立にして常呂村五十八番地に於て執務し居りたるも、明治三十三年四月二十六日仝村四十九番地に新築せり、明治三十三年十二月二十五日電信局を設置せられ今尙取扱ひ居れり。

◎寺院　常樂寺は常呂村新市街にあり、明治三十六年三月二十四日今の寺號公稱を認可せらる、眞宗本派にして檀家百二戶を有す。曹洞宗說敎所は明治三十三年八月十五日の設立にして紋別郡紋別村報恩寺の所屬なり檀家五十六戶を有す。

◎戶口　明治四十三年末の現在戶口表によれば

北見之町村

	戸數	人口			計	土人戸數	土人人口		計
		男	女				男	女	
常呂	六七二戸	一、一八一人	一、〇二四人		二、一九五人	九戸	一四人	一四人	二八人
鐙沸	五五六	一、〇〇六	七七四		一、七八〇	八	八	八	一六
太茶苗	六〇	一〇五	九七		二〇三				
手師學	四三	九四	八三		一七七	三	四	七	一一
少牛									
計	一、三三四	二、三八六	一、九六八		四、三五四	二〇	二六	二九	五五

◎財政一班 町村基本財産としては

		土地建物有價證券	時價	株券現金預金	時價	合計
		円		円		円
常呂外四ヶ村	備荒基本財産	三五〇	二八九	六三九		
	普通基本財産			一、〇四〇	一、六九五	
常呂外三ヶ村	學校基本財産	五二五	一三〇			
	普通基本財産			六二	二、七三五	
	學校基本財産	二〇	二、六五〇			
鐙沸村	本財産			三		
	學校基本財産	二五〇		六三七	八八七	
		一〇三	九二〇	九二	一、一一五	

常呂市街地概觀

北見之町村

にして、四十四年歳入合計五千七百四十九圓六十錢、此内五千三百三十七圓七十一錢は、戸別割の負擔重きを加へ、歳出の主なるものは、教育費の三千三百九十五圓六十四錢を筆頭に、村費取扱費の五百六十五圓五十錢、村醫費の五百四十圓、勸業費の四百六十八圓ありて、茲にも亦た教育衛生の費目負擔に苦しみつゝあるを見るのみ。

◎教育　殖民地を撫して來住者を待つ事の痛切なる村落は必ずや教育費の負擔比較的巨額なるの實例に乏しからず常呂外四ヶ村も亦た多大の殖民地を有せり即ち爲めに要する所の學校は、常呂尋常小學校、岐阜團體教育所、常呂第二尋常小學校、太茶苗教授所

手師學教授所、下佐呂間尋常小學校、中佐呂間教授所、武士教授所、智來教授所、幌岩教授所、上佐路間教授所の十一校あり、教育費のために村費の大部分を費消するは亦た宜なりと謂つ可し。

◎重要問題　常呂村に於ては、紋別郡興部村を經由して、天鹽國名寄へ連絡すべき第二期鐵道豫定線の、海岸線、山間線と稱して競爭の姿となりたる頃より、切りに海岸を希望して、文明的運輸交通の利器を得んとしたるも、不幸にして、山間線勝を占めたるため、頗る不如意の境遇に陷りたりしが、政府は局部豫想線として鐵道網に掲記せるを覗知し、全く斷念するに及ばざることを發見し、今後關係町村有志は聯合して、着々活躍を試むる勢ひなれば、先づ以て重要問題の首位に置くべし。此外各原野に一大排水を設くること、猿澗湖の利用を計ること、常呂河口の船入澗築設等數へ來れば、其數決して尠少ならざるなり。常呂人士たるもの豈に緊褌一番せずして可ならんや。

◎産物　常呂外四ヶ村には、石炭、滿俺、砂金等の鑛區到る處にあり。鐵車一たび通せば立ろに天與の特産を採取するの希望なしとせず。農産としては藝薯首位を占め、大小麥大小豆、薄荷等年々産額を增加しつゝあり。水産工産林産等亦た以て前途有望なるを看取すべし。

◎有志者　當村にては、西村礫三、新谷德治、寺元大道、莊子豐治、上杉眞治、菜喜太郎近藤直作、熱田常吉、小島猪六の諸氏ありて、何れも地方公共問題に關し、盡力しつゝあり。左に、同村農會副會長曾我浦三郎氏より寄せられたる、農事近況を錄して其の好意を謝す。

常呂村農會の近況

常呂村の富源は實に夥多にして、全く記載し能はざるも重なる一二を擧れば、原野は地味肥沃にして上下層全部壤土砂壤土より成り、氣候溫和にして春霜早く消え秋霜晩く來る故に農作物及桑葉の霜害を蒙りし事未だ嘗て之れなく、晩熟朝鮮黍及糯黍の如き能く豐熟して一反步年々平均四石餘の收穫あり。

◎秋蒔小麥　十月十五日前に播種すれば百發百中、一反步平均三石の收穫あり、土地好適安全の作物として各戶栽培せざるなし、現今主なる特産物なり。

◎春蒔小麥　通稱ナコ麥は豐凶交々あるも收穫秋蒔に次ぎ近年は豐作して一反步三石以上あり。

◎裸麥　は一般村民の食料として各戶栽培するも、豐作にて開村以來凶作なく一反步二石

五斗以上の收穫あり。

◎蠶業　は當村適當の副業にして常呂川兩岸の堤防用敷地には桑樹密生し、殆んど桑園の如く、其種類や本邦原産のニグラ種に屬するも、葉形大にして肉厚く內地にて肥料を施したる栽培桑に優り蠶兒嗜食して成育するものなり。村民は之を採りて副業養蠶を營み豐作して各戶相應の成繭を得て札幌或は岩見澤へ販賣し居れり、然るに明治四十一年農會の事業として製糸製綿傳習所を設立し、年々八月一日より開始三ヶ年繼續村內の生產繭を以て講習したる結果、既に今日にては上繭は生糸に製し中繭以下は眞綿に製し自家の用途に供し居れり、尙一層完全の桑園を設け該業に當らしめば地方の發展期して疑ひなし。

◎蠶種製造　には氣候風土能く適度にして、六七八月は本邦通して雨量多く濕潤なるも北見は却て年中の乾燥期にして（網走測候所の調査に徵して明なり）蠶種製造に適當の良地且其蠶種中就中二化性不越年晩秋蠶種は、製造至難の業にて風土氣候の關係より本邦中長野縣を除くの外、他府縣下にて未だ模造せしを聞かず、獨り長野縣の特產物として、蠶種一枚七十蛾附金二圓內外の前金豫約販賣せり、之れ他なし風土氣候の關係より二化性原蠶の飼育に好適なるの故を以てなり、當村は該二化性蠶種製造には適當の優秀地なり。現に本村長崎與三吉氏は多年經驗の結果、明治四十一年二化性蠶種を製造し岩手、福島、宮城千葉、栃木、茨城、埼玉、靜岡、群馬、長野、愛知各縣へ試驗蠶として無代分與したるに愛知縣を除く外皆好成績にて禮狀及翌年の注文を請けたるは、抑北見二化性蠶種製造の嚆矢たり。

又仝氏の說く處に依れば、北見の氣候は長野縣地方と略類似せり、只融雪二ヶ月晩れ隨て溫度も之れに伴ふも、五月に至れば溫度融雪草木一齊に進行し、十月十一月頃は大差なく却て風暖き傾あり、只遺憾なるは交通不便の爲め蠶種郵送に日數を費すこと之れなり。假に岩手縣下へ五日間、長野縣下へ六日間、愛知縣下へ九日間を要す運搬の期短き生種なれば產卵の翌朝直ちに蠶種を箱入とし郵送す、學理上より云ふも又實驗上より云ふも、多少の障害は免れざるもの又事情止むを得ざる事なり、此蠶種は產卵より十二日或は十一日位にて蠶兒に發生するものなれば、關西四國地方迄販路擴張を計りたきは目的なるも事物には一利一害の伴ふものにして、前陳の次第故目下の處致し方なく、實に遺憾の至りなり。常呂村は二化性蠶種の特產地として天惠の賜物として長野縣下を凌駕すべき特點は蠶兒健全、桑葉豐富、蠻蛆無害の四大要素あり、唯惜むらくは

交通不便の一點にあり。若し他日鐵道開通、道路開鑿、郵送迅速に運ぶの曉は本邦唯一の蠶種製造地と稱するも敢て過言にあらず、下常呂原野第八號より十二號に至る基線より西に亘り未開地約四百餘區劃を存するは全部濕地にして到底個人の單獨力にて排水を施すこと不可能なるを以て、其儘に放任しあるは黄金を土中に埋沒しあるも同然なり。之れが爲め國費工事として西貳線へ大排水溝を掘鑿せられんことを村民より道廳へ請願する數回なるも未だ其期至らず關係民は大に痛歎に絶へず、幸に官廳が村民の願意を容れ、該地に大排水溝を開鑿せば、年を越へてずして全部畑地と化し又一層地方民の發展を增加するものなり。

◎鑛物　は幌内に炭鑛あり、其脈太く採掘容易交通の便なるを以て有望なる由にて、採掘權は川岸源平氏の由なり、太茶苗、手師學村は常呂村と大差なく、地味氣候同一にして、農作物は薄荷を以て主なる生産物とし、本年の如き二回の水災にも甚大の被害なく、一反歩三組内外の製油を得、各戸平均三百圓内外の收獲あり、雜穀類の收穫は常呂と大同小異能く豐熟す。

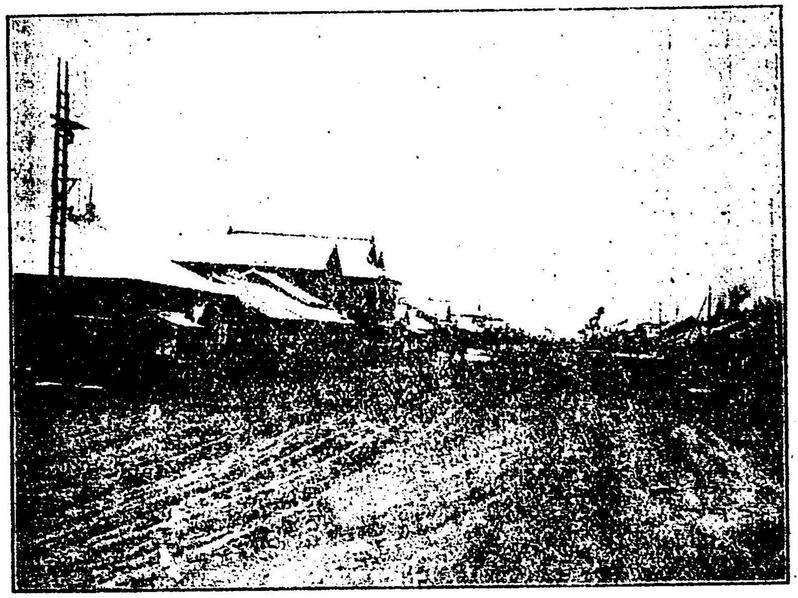
錦沸村は、概して地味肥沃にして水利の便あり、明治四十二年農會にて水稻試驗場を設け

試作せしに成績良好當原野未開地既成の後は灌漑溝を開堀して全部水田にするの計畫もあり、現今菜種小麥大豆を以て主なる產物とす、雜穀類何れも能く豐熟して、有望なる農村なり。

蘭草栽培は明治四十年より本村サルマ別橘三治郎氏試作し、年々引續き施行するに發育成長頗る良好にして、冬期閑散を利用し疊表を製造するも未だ斯業甚だ振はざるも原野の開發に伴つて漸次增加するに至るべし云々。

第二節　野付牛村

◎沿革　明治三十年六月第七師團に屬する屯田歩兵第四大隊を設置したるを以て本村開村の始めとす、之以前に於ては僅々中央道路に沿ふ端野相之内の驛遞あるのみなりき、中隊の配置は第一中隊を端野に、第二中隊を中野付牛に、第三中隊を相の内に置き、三百戸の屯田移住者を各中隊に配置したるを以て始とし、翌三十一年九月猶三百戸を增募して各中隊に配置し、茲に三ケ中隊の編成を完了し以て一兵村を形成せり。陸軍中將男爵小泉正保氏は中佐にして實に當時の大隊長たり、又訓子府原野に於て三十年五月曾て衆議員議長た



北見之町村
野付牛街市街の景

りし片岡健吉氏外六名の經營に係る北光社あり、移住民百戸來住翌三十一年六月五十戸移住せしも三十一年九月大洪水の爲め水害に罹り、他管内に轉住せしもの八十戸に及び、其後自作小作の移住者を併せ現今二百有餘戸を有す。

北光社と同時に大谷清虎氏及馬場政吉氏は六十万坪の貸付を受け獨立經營を爲す、第一中隊第一區の位置は常呂川南岸低地にありたるを以て、三十一年九月の大水災に罹り家屋流亡人畜死傷等あり、爲めに明治三十二年五月其位置を現下の高地に移轉したり、移住尚日淺き事とて頗る慘憺を極めたり。

屯田兵現役は明治三十六年三月三十一日滿期解隊せられたるを以て、兵村行政事務は總て戸長役場に移せり。

端野番外地は明治三十年六月屯田兵移住と共に生田錫三郎商店を開きたるを以て始めとし逐次今月の現況を呈す。

野付牛市街地區畫設定後畠次吉郎商店を開きたるを以て年々戸數劇增今日の現況を見るに至れり。

相の内番外地は志村金作商店を開きたるを以て始めとし逐次發展を見るに至れり。

北光社は社内に商業部を置き、管轄住民に非常なる便利を與ふると共に他の住民に於ても大に利する所ありたり。

明治三十年七月戸長役場開廳仝年十月郵便局を野付牛市街地に移轉しぬ、次で巡査駐在所設置等ありて野付牛市街地は木村の中央に位し村の主要地となれり。

ポン湯は第三中隊の西方に位し、明治三十年の秋河原田万藏の發見にして冷泉使用を願ひ住居を構ふ、同年九月小泉將軍旅行の際紅葉山温泉と命名す。

生顔常村は明治三十一年四月與森重要吉及大光寺直藏なるものオンネナイに湯池を發見し

鑛泉使用を以て始めとす、湯の効能は諸病に適するの評高く爲めに浴客多く頗る繁榮を見るに至れり。

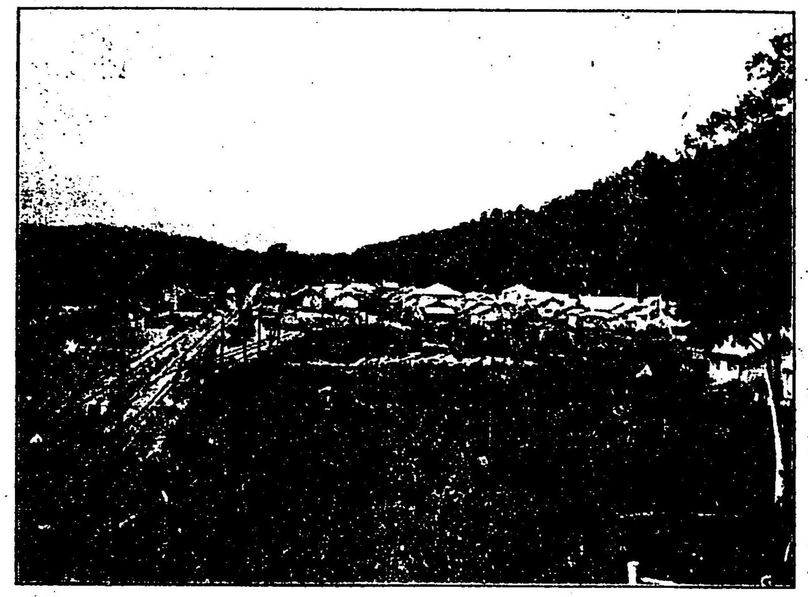
ニコロ原野は明治卅九年上枝平八團體移民長として來住し開拓に盡瘁し現今百餘戸を有すサロマ原野は明治三十九年上枝平八の實兄上枝平藏團體長として來住し開拓に盡瘁し、現今四十戸を有す。

置戸は明治三十六年秋平野鈴太郎單身農業を營み居りしが、明治四十年藤田德三郎及佐坂竹太郎氏等團體移民長として來住し開拓に盡瘁の結果逐次移民を增し現今二百戸に達し、長足の進歩を見るに至れり。

本村は野付牛村一圓及生顏常村一圓を以て、野付牛外一ヶ村戸長役場所管に屬し其當時の戸長田中愿氏なりしも、明治三十七年六月岩淵周之助氏之に代り、明治四十年二月金田虎吉氏之に代り明治四十二年三月篠田簡氏は常呂外四ヶ村戸長に轉任す、明治四十二年四月一日を以て二級町村制を施行せられ、生顏常村を大字と改め野付牛村外一ヶ村戸長役場を野付牛村役場と改め、和知金次郎、長谷川源之助を經て現任吉田保次郎村長たり、野付牛村市街地は元屯田市街地にして、百戸分の宅地を設定し、其後四十三年に至り池網鐵道布設確定するや、遽に市街の戸數激增し、ために部有財産地内に千四百戸の市街地區劃を設定し現在戸數四百六十八戸、人口二千三百人あり、目下新築中のもの五十餘戸あり、宅地貸貸未濟のもの九百戸あり。

置戸市街地は鐵道停車場位置確定と共に四十三年の創立にして、宅地區劃二百餘戸あり、現在戸數七十戸人口三百五十人を有し現在新築中のもの十數戸あり宅地所有者は置戸市街地平野鈴太郎野付牛市街地鈴木浩氣の所有にして、現在未貸付のヶ所百餘戸あり。

訓子府市街地は停車場位置確定と共に一百



置戸市街地

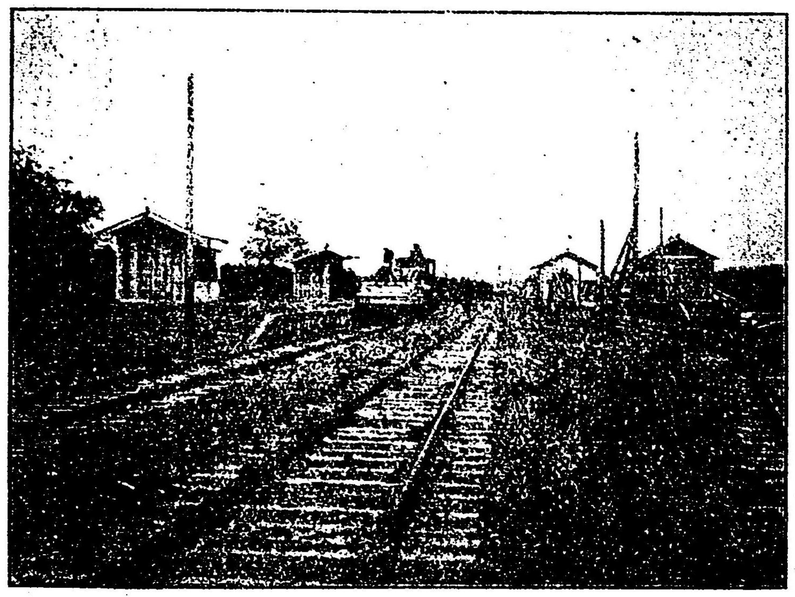
餘戸の宅地を區劃し、未開地賣拂を受け既に建設したるもの三十餘戸あり、尚新築中のもの數十戸あり、賣拂處分未濟の宅地も尚多數ありて現在人口は百五十人大原野の中央に位し將來最も有望なり。

其他端野に市街宅地二百五十餘戸を區劃し之れは部落の土地にして現在戸數新舊を合して五十戸人口二百五十五人目下新築中のもの數十戸貸付未濟の宅地百餘戸あり、上常呂市街地は百五十餘戸の宅地を區劃し現在戸數二十餘戸あり、個人の所有地にして貸付未濟のもの多數あり。

オンネ湯市街地は溫泉所の所在地にて、四十四年に市街宅地二百四十餘戸を區劃し、目下未開地賣拂處分中なり現在戸數十數戸宅地賣拂處分濟の上は直に數百戸の市街を形成すべく、ムカ大原野の中央に位し將來最も有望なり。

其他相之内ルベシベ等は近き將來に於て停車場確定の上は數百戸の市街を形成すべし、現在は何れも四十餘戸の戸數ありて、地方需要を供給し居れり。

本村は廣袤一百餘方里に達し、常呂、ムカ、ニコロの三大川に沿ひたるを以て、土地肥沃農牧の適地に富み、現今一万百有餘の村民を有し、長足の進歩をなし今日に至る。今又網走線の開通を見遠からず湧別線の開通を見るに至らん乎、本村の發展蓋し識者を待たずして知るべきのみ。



地圖子府停車場

◎鐵道沿革の大要　明治三十二年十一月北光社長澤木楠彌、戸長田中愿、有志鈴木浩氣等と相謀り北見鐵道速成請願を爲すを以て始めとす、明治三十二年九月北海道廳長官園田安賢金森通倫を伴ひ地方勤儉貯蓄奬勵の爲め來村せしを好機とし、當村有志協議の上、鐵道速成問題外重要問題數件に關し、地方を代表して澤木楠彌鈴木浩氣嶺次吉郎前田駒次外數名をして陳情頗る努めたり。明治三十三年十月網走、常呂、紋別の三郡連合して北見鐵道期成會を起し、本部

を網走に置き、代表者として信田壽之、澤木楠彌の兩氏をして上京せしむ。明治三十四年十月國澤鐵道部長全道未測線實地踏査に際し、十勝國利別より利別川を溯り本村に向け線路踏査すべき旨電報に接し直ちに澤本楠彌、前田駒次の兩氏山野を跋渉して利別に出で、鐵道部長の一行と出會ひ、共に本線の踏査を爲したる處意外に線路良好のみならず前途有望なるが故に、第一期線に繰上げ速成の必要ありとして運動を開始す、明治三十五年四月北光社長澤本楠彌氏餅するに當り主管として前田駒次氏之に繼ぎ、殊に北見鐵道に關しては深く中央政界と氣脈を通じ活動する處ありたり、續て明治三十八年日露の役に際會し、本道の未測線は一時中止の姿を呈したるも一面に於て活動歇まざるの結果、戰爭の局を結ぶや一躍社會の進歩に伴ひ鐵道速成の急なるを認め、當局者に於て各線共實測するに至り測量の終るや北見鐵道は第二期線より第一期線に繰上げ速成することに決す。

明治三十九年三國有志會を札幌に開催し、北見鐵道速成に關し協議する處あり又時の長官及鐵道部長三宮技師大塚内務部長等を歴訪して陳情せり、出席者は白石義郎、上野直温、川越常次郎、新津繁松、前田駒次外數名にして時恰も池田網走線は十勝國淦別より鹿山美幌を經て網走に至るやの風聞あり、斯くては北見開發上及拓殖上に於て至大の影響を蒙り殊に本村の如きは死活問題なるが故に同志會は極力活動し、明治四十年二月前田駒次氏を運動員として上京せしむ。

上常呂停車場

北見之町村

明治四十年八月前田駒次氏道會議員に選任せられ、猶引續き池田網走線に對しては其筋に向て親しく計る處ありて功を奏し、明治四十一年帝國議會に於て、池田網走線は十勝國淦別より野付牛美幌を經て網走に達することに確定せり。

抑も網走線の起工は池田上利別間四十年三月又上利別淦別間四十二年四月淦別置戸間四十二年五月置戸野付牛間四十三年四月にして明治四十三年九月池田淦別間部分開通し明治四十四年九月二十五日を以て淦別野

付牛間部分開通を見るに至れり。猶吾北見鐵道に就ては前途有望にして、明治四十三年帝國議會に於て野付牛名寄間野付牛下湧別の一部拓殖鐵道として輕便線を速成することに確定し、明治四十四年度より起工するは寔に急足の進歩にして、國家の爲め將た地方の爲め慶すべきことゝす。

◎公共團體

△野付牛村農會　野付牛村農會は明治三十三年九月二十日の創立にして、當初澤本楠彌會長となり、會員千六百九十餘名にして役員及代議員四十二名、年々大小麥大小豆水稻等の試作經營をなせり、明治三十五年四月澤本楠彌辭任せしに付、後任として前田駒次之が會長たり。氏は最も實業に熱心なるを以て本村農會の振興を見るに至りたるは預て氏の功績に依る。明治四十四年六月前田駒次辭任に付、後任として長谷川源之丞之が會長たり。

三十七年四月始めて野付牛村に簡易養蠶傳習所を設置し、前田駒次之が所長たり、而して其効果良好なるが故に、年々繼續設置の計畫に屬す亦稚蠶共同飼育場も農會の事業として年々設置し、敎師片桐貴策熱心に普及したるを以て、其功績尠なからず爾來斯業の振興を見るに至れり。

オンネ湯の勝景

野付牛市街地より七里洞別線に沿ひ交通至便

△網走外三郡產牛馬組合野付牛支部　は明治三十七年の創立にして、其當時前田駒次會長となり、本部より種牡馬及種牡牛の貸付を受け、牛馬の改良を計る。猶ほ年々巡回交尾を爲し逐次本村の牛馬改良に努め其効果著大なりとす。

△野付牛村同志會　明治三十九年鈴木浩氣、北川知衛、前田駒次、岩淵周之助等主宰となり、同志會を組織し會員百餘名にして鈴木浩氣之が會長たり。氏は本村の實業家にして、最も產業に力を致し製軸工場を設置し公益を廣め熱心以て其職に當りたるが故に村治上

諸般の刷新を見るに至れり。

△教育衛生會野付牛支部　は明治四十三年九月の創立にして、當初鈴木浩氣支部長となり會員百二十餘名にして教育及衛生事業の普及を計る、然るに明治四十三年十一月支部長僻任に付現任支部長長谷川源之丞之を繼ぐ。

△在鄉軍人分會　は明治四十三年十一月三日の創立にして當初千葉益三郎會長となり、會員六百五十餘名にして軍人の誠心を鼓舞し、會の發展を期すべし。猶明治四十四年八月廿九日旭川聯隊區司令官陸軍歩兵中佐富澤定一來村を期し、分會旗授與式を擧行す。

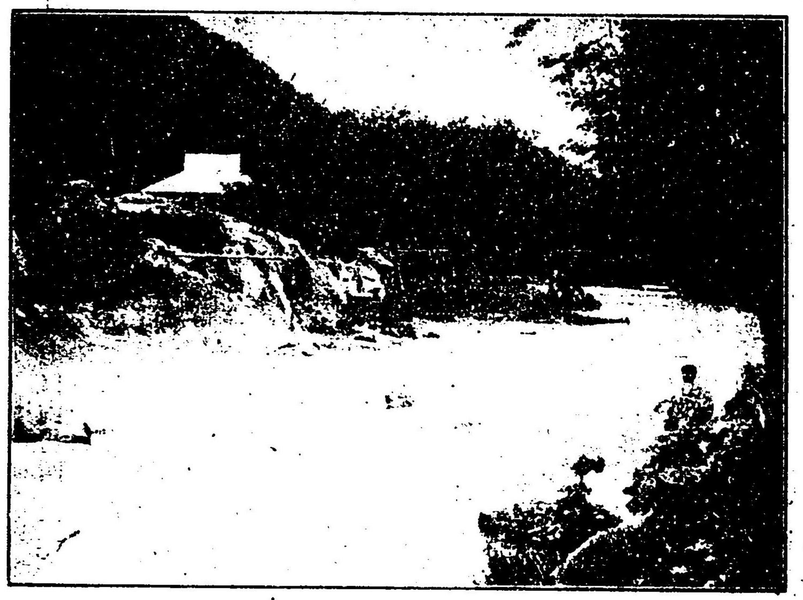
△愛國婦人會　は明治三十八年の創立にして當初海軍大尉武藤喜平次夫人武藤甲會長となり日露戰役に際會するや頗る盡瘁する處あり、猶引續き經營しあるが故に逐次發展を期すべし。

△農事試驗場　中野付牛部落有財産たる元大隊練兵場を農事試驗場用地として、明治四十一年八月寄附したるが故に、明治四十二年六月北海道農事試驗場北見支場を設置せられ、當時安孫子孝次場長たるも明治四十三年兩館に轉任に付、現任場長梁田參之を襲ふ。

◎境界　東南は網走郡美幌村及び最寄村に界し、西北は常呂郡常呂村、紋別郡上湧別村に接し西は屏立せる山脈に依りて、十勝釧路兩國に連なる。東西十七里南北八里にして面積百十四方里なりといふ。

◎社寺　端野には眞宗大谷派無量壽寺野付牛市街地には仝本派本覺寺曹洞宗白巖寺、相の內に曹洞宗高臺寺あり。其他各宗說敎所五あるの外日本基督敎會說敎所一あり。神社は野付牛市街地へ天照皇大神を祀れる護國神社あり。元三中隊一區に三吉神社あり。其他端野及び元二中隊三區同四區に五ケ所の遙拜所あり。

◎戶口　現在戶數二千〇六十二戶を有し、男五千九百五十一人、女五千百五十五人合計一万一千百〇六人にして、管內唯一の大



オンネ湯の仙寮

村なりとす、但し土人三戸七口内男四女三〇

◎財政一班　基本財産としては

	土地時價	建物時價	有價證券時價	株金	預金	合計
普通基本財産	一、〇〇〇円	五、〇一四円	四四五円		七七〇円	七、二三九円
學校基本財産	一七、〇九九	二一、一五六	五、〇〇三	四〇〇	二、七九三	四六、四五一

昨四十四年度歳出入如何と見れば、總額二万五千八百八十四圓五十七錢八厘を算し、一万七千五百七十四圓六十九錢の村費は、之れが歳入の首位を占め。歳出の主なるものは、教育費一万二千三百十四圓、役場費四千六百十六圓、會議費四百五十圓は他町村に匹儔なき高額にして、勧業補助費へ五百九十圓、村醫費七百二十圓等あり。

◎教育　一村内に既設停車場五、未設三を有し面積一百餘方里の本村は、東西十數里に亘れるため點綴せる各殖民地の解放と共に新來移民の數を増し、義務教育の設備に日も尚ほ足らざるが如きは、寧ろ當然の狀勢と謂ふ可く隨つて端野尋常高等小學校、緋牛内教授所、仁頃教授所、野付牛尋常高等小學校、野付牛第一教授所、仝第二教授所、相ノ内尋常高等小學校、ニコロ教授所、サロマ教授所、訓子府尋常小學校、訓子府教育所、起統教育所、上起統教授所の十三校舎を要し、村内に尋高三ヶ所を置くに至るの盛況なり。

◎重要問題　本村に在りては多年の宿題たりし、網走線鐵道及び下湧別線鐵道起工せられたる今日鐵道の要求は焦眉の急務とせざる可きも、各殖民地の聯絡を期する上に於て、道路開鑿又は修繕、河川の浚渫、實業學校の設立種馬所の設置等數へ來れば、亦た決して尠少ならざるべし。

◎重要産物　木材、薄荷、其他の雑穀にして、就中薄荷の産額は昨年度四十五万圓以上に達したりといふ。

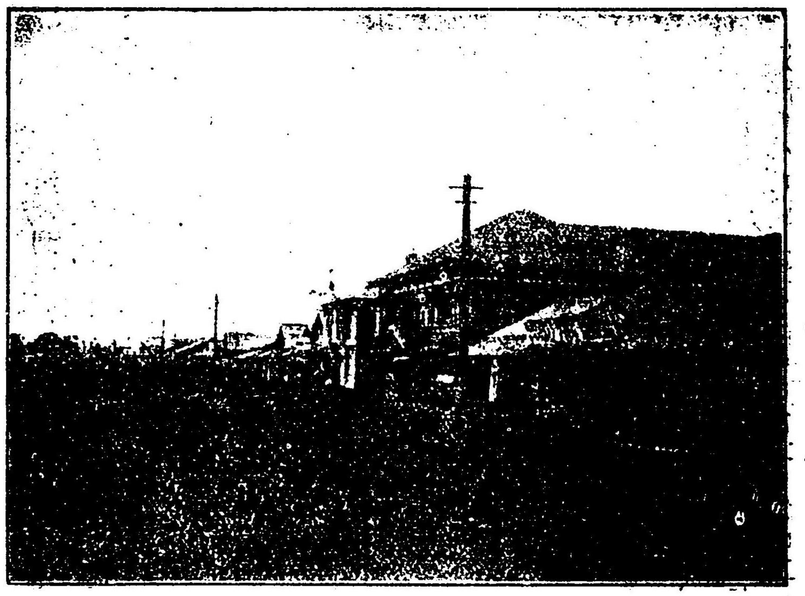
オンネ湯元の湯

北見之野村

前田駒次君

◎前田駒次君　氏は高知縣の人、安政五年一月十四日を以て土佐國長岡郡本山村に生る、資性溫厚篤實にして君子人の稱あり。明治二十六年石狩原野の一部なる樺戸郡浦臼村に移住し越へて三十五年北見國常呂郡野付牛村字訓子府原野なる高知縣人片岡健吉氏等の設立せる北光社農場に入りて、精勵大に力むる所あり、道會議員の名譽を荷ふこと前後二回に亘り、現今同農場管理者として着々事業を進捗し、漸次基礎の鞏固を計り傍ら地方開發の先覺者を以て自任し、網走線鐵道速成其他公共問題に關し常に穩健なる意見を樹て、盡瘁する所ゐ尠少ならす、野付牛村の今日あるは實に氏の力に依るといふも過褒にあらず。一日黒部旅館樓上に於て偶々會見の機會を得て北見發展策及び稻作談を聽く、左は即ち其の大要なり。

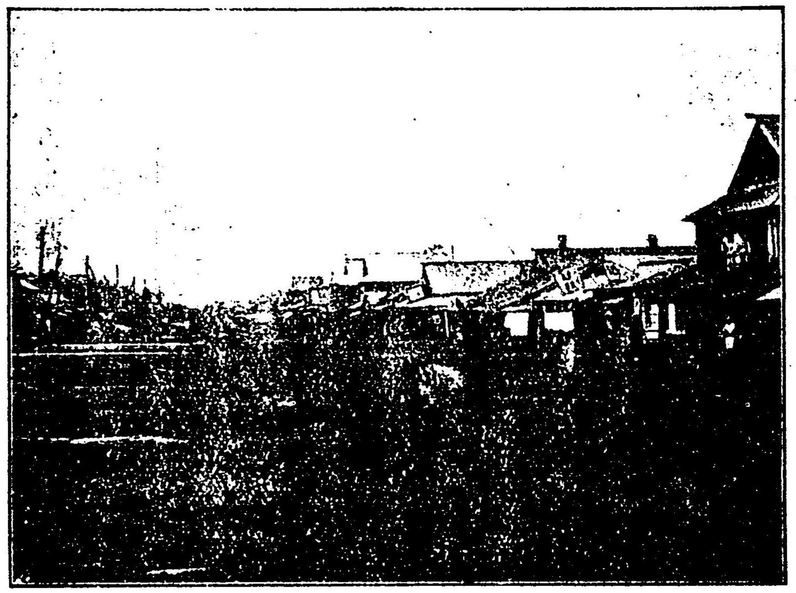
北見の發展策如何とのお尋に答ふるには、矢張簡單に交通機關の設備を完うするにありと斷言するの外は無いのです。鐵道の敷設は急務中の急務で僅かに網走線や湧別線位で滿足する譯には行かない、網走から根室に通ずる根網線や、例の釧網線釧美線も必要です。夫れから、港灣の修築は最も急要と認めます。網走築港の如き多年の宿論で野付牛の玄關を便利ならしむる點に於て、喫緊問題の首位を占めて居るものと存じます、道路橋梁は申すに及ばず是非共完備させたいものと思ひます苟くも交通機關の設備にして完成したならば北見の發展は期して待つべしと想ふ、即ち單に北見の繁榮策如何と問ふ者あらば猶豫なく交通機關の設備を完成するに在りと答ふる外は無いのです。北見の農產物の將來ですか左樣現今の趨勢に依れば薄荷が主要產物の首位を占めて居る、併しながら薄荷の將來は左のみ有望ではあるまいと斷言します。余は此薄荷に付ては夙に



野付牛新市街地

北見之野村

種々の調査を遂げ到底北見の特産として持續することの出來ないものとの意見を抱く一人です。御承知の如く薄荷は三備地方や山形縣等で巨多の產額がありましたなれども地代は年々高くなり、肥料は申すに及ばず製造に要する薪炭の費用は年一年に高くなりますので、漸次收支引合はぬことゝなりつゝあります、現に湧別村の如き野付牛村の如き五六年前に比較すれば、作付反別は多少增加の傾きあるも追々畑地を轉換して行く實況です。之れを見ても薄荷は主要產物として永年に亘り權威を逞ふすることが出來ぬものと言ふを憚らない。然らば薄荷に代るべき作物は何であるかといふに、小麥は一番有望で大麥や大小豆も重要な作物として奬勵したい考へです、特に余は北見の稻作に付きては十分の希望を繫いで居る一人です。今を距る十八年前慨しか明治廿六年と存じます、今の佐藤大學長や橋本博士に會して稻作の所見を交換したことがあります、余は其時よりして北海道へは稻作の適しないことは無いと信じて居りました。道廳農商課に出願して籾の配布を受けたけれども生憎分配を受くることが出來ず、農事試驗場も同じく種切れといふ憐むべき狀態、丁度白石村の豪農高橋某は稻作熱心家である噂を耳にしたので、同氏を訪ふて具さに所見を述べて籾の分與を申込んだ。處が非常に喜ばれて一俵丈けの分配を受け、勇み進んで浦臼村に



野付牛驛市街地

歸り愈々試作に着手した、果して余の豫想に達はず其年大豐作であつたので、近鄕近在より實地見分に出懸けて來る者冠蓋相接する盛況今日石狩原野に於ける稻作の發達は多少此好結果に因由するものと斷ずるも誇稱ではない。北見へ轉住してからも稻作の試驗に付ては相當の苦勞を重ねたが、十分好結果を獲るに足るの信念を確め得たので將來北見の特產として大小麥、大小豆を凌駕するの日も亦た遠きにあらざるべしと斷言するのである云々。

要するに君の意見は北見發展の主眼として先づ交通運輸の設備を唱へ、農作物は稻作を以て首位に置くことの最大急務を喝破し

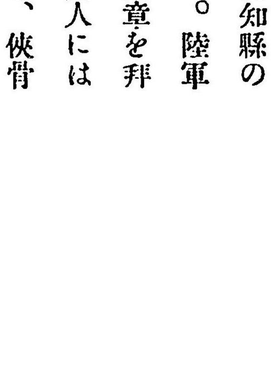
鈴木浩氣君

戰役に參加して、皇國のために忠誠を致した結果である。今丸玉商店を經營し同時に製軸業と製材業を兼營しつゝあり、公職としては村會議員の任にあるのみである。……

◎鈴木浩氣君　野付牛の事業家として將た亦た元老として、重きを爲して居るものは恐らく君の右に出づるものはなからう。君は茨城縣出身の所謂關東男兒で、明治二年の六月生れといへば、分別盛りの働らき盛りだ、陸軍歩兵少尉で、正八位勳七等の瑞褒章は、日露

野付牛市街の發展ですか、左樣私の見る所ではどうも大市街となることはあるまいと思ひます。先づ六百戶內外の程度が相當であらうと存じます。御覽なさい現に出來て居る營業者はどうです、此の狹ひ所へ湯屋が二軒もある。是れが自然の必要に迫られた需給の原理に叶ひますか。供給過多の嫌ひがあるのは、單に湯屋のみではない、商店の如きも其弊が無いとは思はれないのです。需要する所ろのお客が少ないのに、供給する商店が多過ぐる

以上は、何日か反動が起つて自然淘汰の理法に制限せらるゝ、即ち一大恐慌時代が現はれて、不適當の膨脹を抑さへ、夫れから始めて着實穩健なる發展を遂げるのが順序です。此理法と順序を踏んで來ない發展は、眞の發展では無いのです。夫れで私は當分六百內外の戶數を以て程度するのであります云々。



川淵収入役

◎川淵眞澄君　野付牛村の收入役たる君は、高知縣の出身で明治八年二月十日呱々の聲を揚げたのだ。陸軍歩兵軍曹で日露戰役の功に依り勳七等靑色桐葉章を拜受した名譽の軍人である。君は資性磊落、四國人には稀らしき熱血男兒だ。既に熱血男兒であるから、俠骨稜々として、常に弱者を憐れみ貧者を救ふの氣慨に充ちて居るのは固より當然のことである。魑魅魍魎百鬼夜行の新開地、而かも誘惑多き地に在つて、守るべき處は斷乎として、死守する底の君ありてこそ、始めて野付牛の財政を、語るべきであらう。君幸ひに健在なれ。

鈴木幸吉君　野付牛消防組頭

の體格、彼れの相貌。濃き眉毛にボツチリとした眼、今にも垂れて疊に付きそうな豐なる頰の下に窮屈らしく結んである可愛らしき口元から……おまはん夫れはと語り出す時のニコ〳〵顏は、東都のニコ〳〵倶樂部に出し度なる程の愛嬌タップリ、市川亭の橫座に置くには惜しい男だ。夫れも其筈、君は元と札幌を島義勇さんが見立てゝ將來北海全道の政令發源地とした當時、飛ぶ鳥も鼻息で落す程の勢力を持つて居た、御用土木請負人であつたものを。薄荷臭い連中が白首座の親仁と輕蔑するのは大に酷だ。札幌では押しも押されもせぬ土木請負人として、相當の信用と勢力は無論持つて居たが、どうした機會か根室に行き網走に流れて、ポンモイ道路の直營工事に汐風に吹かれ、夫れからサロマベツの開鑿道路工事を請負つてから、緣は異なもの味なもので、今のおタケ夫人と宜しくなり、野

◎鈴木幸吉君　野付牛での肝煎役、公私の差別なく能く世話を燒く……燒くと言へば語弊があるかも知れない……夫れでは能く世話をする有志の一人は誰れ？と問ふたならば、万口一齊に夫れは市川の布袋と答へるでがなあらう。布袋なるかな、〳〵、福々しき彼れ

付牛へ腰を下ろすことゝなつた。君は今でも土木請負の味を忘れず、野付牛消防組には多大の金錢と勞力を吝まず寄附して、市街の發展に伴ふ丈けの設備して、之れが組頭となり傍ら村事に貢獻しつゝある。君の性質としては野付牛へ永久忘れられぬ紀念を貽す丈けの何等かの施設なきにしもあらずと、噂する者があるよ。

姫野近喜君

◎姫野近喜君　明治八年九月廿五日大分縣出身の君は日露戰役に隨ひ、殊勳に依りて功七級金鵄勳章を賜はり勳七等の靑色桐葉章を佩用する名譽の軍人だ。君は總べての點に於て頗る克く活動する、新進氣銳の野付牛に君の如き活動家を議員の列に置かないのは、野付牛の損失であらうと思ふ。君たる者大に自重して村の爲め盡す所あれよ至囑。

野付牛の有志中には、花田清五郎、嶺次吉郎、林保衛、野々村柳四郎、中澤佐次郎、横地吉次郎、田中金藏、川村恒馬、寺西政吉、河合信一、森谷傳吉、田中安五郎、山中權吉、池田七郎、諸氏の或は村會議員たり有志家たるものゝあることを忘れてはならぬ。

◎岩澤周之助君　は明治四年十一月九日宮城縣本吉郡の生れで日露戰役中は野付牛外一ケ

村の戸長として功績尠からず勤八等白色桐葉章を拝受した一人であるが性格は極めて真面目の方で些細の事でも敢へて苟くもしない末頼母敷人物として嘱望されて居る是れある哉君は戸長を辞してより鈴木浩氣氏等と共に大同造資組合を組織して其會計主任となり大同運送合資會社を設立しては其の首腦者となる等重き責任の位置に立つに至つたのである一日君を訪ふて野付牛の將來は如何といふ様な質問を試みた、處が君は滔々として辯じ去り諭じ來つて言はるゝには……

私は野付牛の將來に付て大に悲觀する一人です薄荷の豊作と價格の暴騰と鐵道の開通とで如斯盛況を呈して居るとは言ひながら鐵道は敷設し了れば夫れ迄でゝあつて薄荷は毎年景況の善いと限つたものではない殊に年々耕作の結果は地力を減耗して肥料を施す必要が起るに違ひない其時には手數と費用とが澤山掛つて迚も今日の如き利益を擧げることは六ケ敷なつて來ることは知れ切つた話だ其處に行くと天與の森林を利用して發展を策する外は無いことゝなるが是れ亦たそう無盡蔵とも言はれまいから何時しか材木の富も減少して頼み少なくなるので私は世間が期待して居る如く野付牛村は發展を持續することは信じ得ないです……先づ差當りての發展策としては交通の便が開けて來れのや支廳其他の官衙を網走から野付牛へ移轉せしめたならば甚だ好都合と思ふが何か妙案は無いでしやうか……

……私共の大同造資組合ですか……之れは明治四十年の創設で一口五圓宛五十口滿四年間で一万二千圓著積して居ります跡一年で貯蓄は結了します、毎月五圓ですから一ケ年に六十圓五十口の三千圓五ケ年の一万五千圓です。組合員には低利で融通して利殖を計つて居るのです利息ですかイヤ君そう詳細に質問されて新聞にでも出されては困るね……

造資組合は幾らの資本の何程の金利であると知れた日には税務署は黙つて居らず直様税金を賦課するといふ今日だから今少し之れが發表は見合はして貰ひたい……組合員は五十口五十人と限つてはありません一人で三口でも五口でも持つて居るものがあります……薄荷や其他で景氣の付いた野付牛も更らに現金が欠乏して居るのは一般の農家が贅澤になつた結果と信じます私が赴任した當時即ち三十七年は戸數は八百二十戸餘と記憶します夫れで全村で二千俵即ち八百石位の輸入を見たに過ぎなかつたが今日では戸數は二倍半の二千戸に達したとは言ひながら一万石二十万圓の輸入を仰いで居るので其時に比較すると十倍以上米食を用ゐる勘定となるのです今年の薄荷が四十五万圓とした處で米代許りで其半分を喰ひ潰ぶすのですから金融の逼迫するのも無理はありません米食にして右の如き增加で

すから其他の酒とか衣類とかの如き贅澤品にも相當の入費が掛るので野付牛人士も大に考へなければならぬことゝ信じます。

第四章 紋別郡各村

第一節 下湧別村

◎沿革△△ 古昔は史の徴すべきものなく隨て其沿革詳かならざるも天保年間滋賀縣の人藤野某來り多く土人を使役し漁業に從事せるも沿岸の不良に伴ひ比較的投網困難隨つて收獲も多量ならず甚だ營し專ら漁業に從事せるも沿岸の不振なる所明治十八年に至大阪府の人和田麟吉高知縣人德弘正輝外數人開墾に從事し明治廿四年湧別原野の區劃割あり仝廿六年原野貸付開放せられ翌二十七年高知縣團體泰泉寺某數名及び廣嶋縣人河井豊吉等來住し仝廿八年禮文團體池田關太郎上野德三郎渡部精司外數名及び高知縣團體西澤收柵秦泉寺廣馬外數十名と德島縣人岡村熊三郎外數人移住し其他單獨移民續々來住茲に稍々農村の形成を作し仝二十九年德島高知二團體の移住ありて自然濱

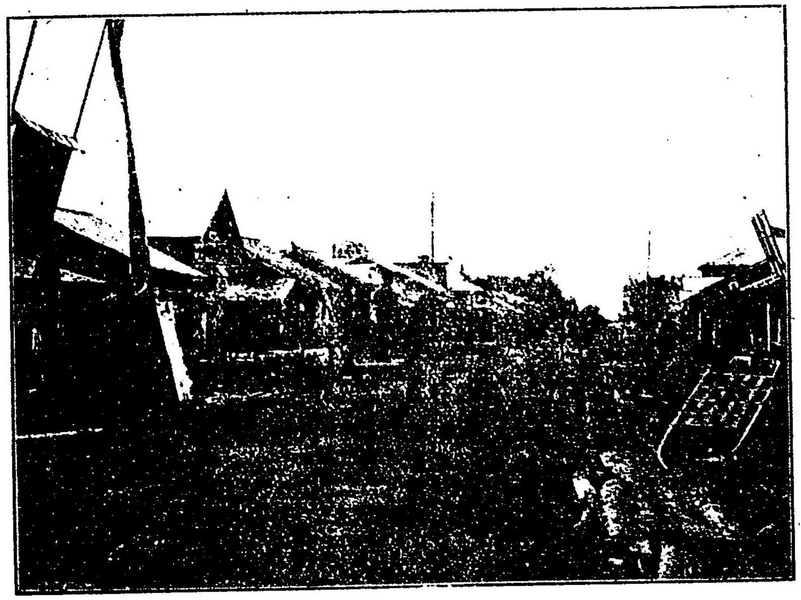
近くに一小市街を形成し仝三十年一ヶ中隊の屯田兵を置かれ頓に大地積を開墾し農業大に發展し仝三十六年三月を以て屯田兵解除したるも爾來一戸として退去したるものなく現今北見有數の一大農村たり行政機關は從來紋別外九ヶ村戸長役場の所轄なりしが明治三十年四月湧別村戸長役場を新設せられ戸長として岐阜縣人小池忠告赴任せり仝三十二年三月高木榮其後を襲ひ仝三十三年六月辭任其後任岩橋佐吉は三十六年十二月辭任石川正之助其後任となり仝三十九年三月廢官同年四月一日二級町村制施行仝日雄武外三ヶ村戸長佐藤信吉代りて村長となり兼重浦次郎在任の儘四十三年四月一日上下湧別に分離し、藤田松之助を經て現任宮崎簡亮に及べり。

◎境界△△ 東方は鐙沸村に接し西は紋別村に隣りし南は山脈を隔てゝ石狩國に連なり北は一面オコック海に瀕し東西凡そ七里餘南北十七里許百十六方里餘の面積を有せり。

◎地勢△△ 西は紋別村に接屬し東は鐙沸村に連亘し南は山に屬し地勢概ね平坦なり。

湧別川は源を石狩國境の諸山より發し左曲して北流海に注ぐバロー川は其水源十勝石狩國境の諸山脈に發し猿澗湖に落流す河身甚れも廣大なるも屈曲水淺くして舟揖大に不便なり、

◎官公署△△△ 湧別村役場 明治三十年四月紋別外九ヶ村戸長役場より分離し湧別濱市街地南



北見之町村
下湧別四號線

端に創立し、同三十九年四月二級町村制施行。

△網走警察署湧別分署　明治三十四月新設

△森林監守駐在所　明治三十二年設置。

◎社寺　明治二十七年殖民地基線十八番地に眞宗說教場設置布教師市野得心仝二十九年仝所基線五番地に仝宗說教所增立布教師川端道因何れも今尙布教に從事す。

明治三十八年兵村市街地に大谷派東本願寺の所屬法德寺を設立二階堂法城之れが住職たり。

◎戶口　本村最迅の統計によれば、戶數一千〇十二戶、男二千二百八十七、女二千百四十四合計四千四百三十一人土人十戶男九

女六を有せり。

◎財政一班　四十四年の歲入歲出豫算總額一万二千百三十九圓八十一錢八厘にして九千六百〇三圓六十七錢は、村費の賦課に依るものなるを以て、負擔輕重難易は管內他町村に讓らざる重荷なりと斷ずることを得べし。而して之れが支出如何と問ふに、役場費の二千九百二十二圓、土木費の三百八圓、勸業補助費二百九十二圓、雜支出四百三十七圓の外には敎育費の六千五百五十四圓七十六錢を以て、最高額に置くを見るべし。而して本村基本財產としては、

土地	建物	有價證券	株券	預金貸金	計
時價	時價	時價	時價		
普通基本財產 一、八八二円	四一二円	円	一、二二〇	三、五二六円	
備荒基本產財					
學校基本財產	三九九	四、六二〇		二五二	二五二
	二五二		八二二	五、八四二	

村費の負擔輕からざるに比して、村有財產より生ずる收入彼れの如き現況にあり。基本財產の造成に熱注すべきや亦た焦眉の急を要するものあらん。

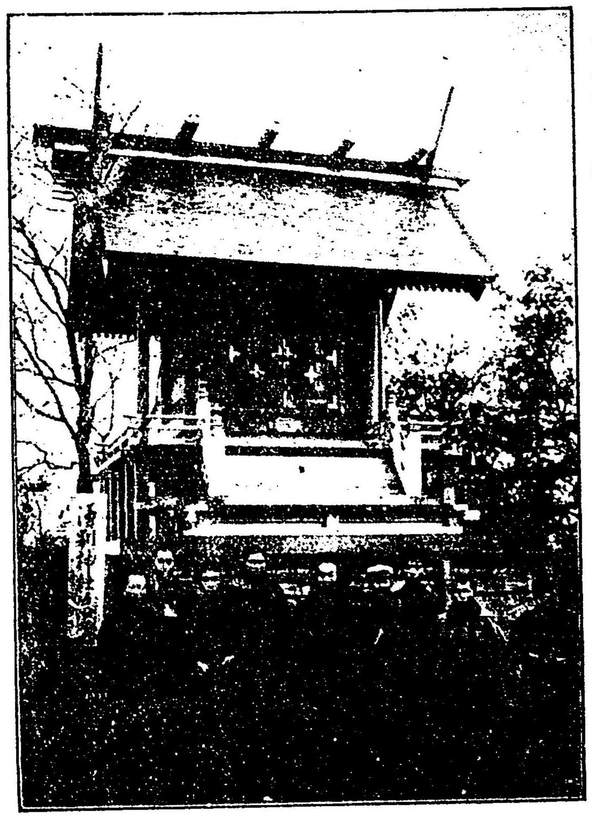
◎敎育　本村にては湧別尋常高等小學校、東敎授所、芭露尋常小學校、床丹敎授所、上芭

露敎育所、計呂地敎育地の六校あり。

◎産物　水産としては鰊、鱒、鮭、海扇、北寄等にして、陸産は雪荷大小麥大小豆藥用人參其他の雜穀木材軸木等を主なるものとす。

◎重要問題　鐵道の速成道路橋梁の改修開鑿は勿論、猿澗湖の利用策野津幾太郎、武野明、尾形天外、本間省三等の諸氏あり。所謂多士濟々を以て他村に推さるゝ然れども船頭多くして船を山に上ぼす譬の如き、事毎に一致團結を欠くが如き憾みあるは有志の齟然三省すべき點ならん乎。

湧別神社



烏打朝ヲ被リ美髯ヲ貯ヘタルハ大益恒夫氏

◎商店と旅館　楠瀨、佐川、中川、大益の各商店、堀川、横山、中島の各旅館を以て優れりとすべし。

第二節　上湧別村

◎沿革と地勢　本村は元と下湧別村と共に單に湧別村と稱し一村なりしも、四十二年四月一日上下湧別兩村に分離したるものなれば、下湧別の沿革を引用すれば足ることゝ信ず。仍て直ちに進んで戸口及財政一班に付き說明すべし。

◎戸口　本村は戸數一千二百三十戸、人口男三千百三十七人、女二千六百九十六人合計五千八百三十三人。土人十一戸男十四女十五人を有す。

◎財政一班　町村財産としては

土地時價　建物時價　有價證券時價　株券時價　現金　預金貸金　計

普通基本財産	一、一七八円			一、三九七円	二、五七六円
備荒基本財産				二七四	二七四
學校金本財産	六、二八三	七、八五九		二、九五八	一七、二二七

を計上し。昨四十四年度歳入出豫算は、臨時部共合計一万六千六百九十圓七十三錢六厘にして、村稅として徵收するは一万三千二百四十二圓七十三錢八厘なりとす。而して之れが支出の費目如何といふに、教育費七千四百二十八圓四十二錢五厘、役場費三千四百八十二圓土木費千二百五圓、勧業補助費五百十九圓、村醫費四百八十圓等を以て稍々巨額の費目とすべし。

◎教育　北湧尋常高等小學校、全第一、第二分教場、遠輕尋常小學校、生田原教授所、社名淵教授所、生野教授所、瀬戸瀬教授所の八校なり。

信太壽之君

◎信太壽之君　北見繁榮策と云へば鐵道の延長、港灣の修築、道路の開鑿、移民の招來、街生の設備、教育の普及、家屋の改良其他農業に畜産に工業に漁業に枚擧に遑あらずであるが、偖り世間で重大視しない問題で余の急務と思ふ處を云へば。

第一、專問的畜産を廢し、各地の大牧場を開放して小農家に小畜産を副業的に奨勵すること。

北見は冀北の地であるとか、馬產地であるとか、或は、畜牛の飼養に適してゐるとか、官民共に叫んでゐるが、余は決して左樣は思はない、畜產の適否は氣候の如何にあつて、我が北見の如く冬季五ヶ月も舍飼ひを要するのみならず、寒氣の濕潤なる所では決して名馬の出來樣筈がない、若し名馬が出來利益を得らるゝとしても夫れは稀有の僥倖である。又地理上から云ふても、販路を求むるに甚だ困難であるから、假令、逸物が稀に出來て高價で賣つて見た所で利益はない、況んや普通の牛馬に於ては茶席の話頭にも上り得べき問題ぢやないのだ、故に余は、北見を亡ぼすものは專問的畜產大々的牧畜であると思ふ。

然るに此の亡國事業を道廳も奨め、支廳も勵まし民間に強ふるは其の意を得ぬ、殊に民間の有力者が是れを歡迎してゐるのは不思議である、が是には亦亡國的理由が伏在してゐると云ふのは條件の如何に係らず、只管土地を得んことにのみ熱注して、前後を顧慮しない牧畜の目的と云へば多大の地積を得られるから、其の起業方法の如きは唯官廳の命令に惟れ從ふ次第である、而して其の結果如何と云ふに、元來牧畜なるものは有利なる事業と云ふよりは、寧ろ北見に於ては自他に取つて不利益な事業である、其の不利益な事實く知れ亘つて居る事であるから、起業家は牧畜事業を永久に繼續仕樣と云ふのではなしに、暫時

北見之町村
信太牧場

其地を我が物にする迄若干の不生産的投資や、勞働を犧牲にして官廳の檢査に差支へなき丈けの表面的準備をして、其の地積の附與を受くるのである、附與を受けた後には是れを如何するかと云へば其の植樹に適する所は植樹の經營を爲し農耕に適する所は其の方法を講じ其の地質と場所とに應じて最も有利に使用するのである、起業家は是れを樂しみに附與前の不利益や苦難を忍ぶので官廳も是れを知りつゝ約子實現を當てゝ姑息の成功檢査を了し、得々然として息を強からしむは笑止の至りではないか如斯民は官を欺き官は民を強いて爲さしむる即ち約子定規濫用より起る所の空費を十

分の三、假令ば十万圓を以て成功すべき牧畜事業には三万圓の空費を要するが此例を以て全道の損害を計算したならば、年々百万圓前後の大金を溝中に投ずることゝなるであらう然るに起業家が官廳を欺かず、其の法規に從ひ、地積の割合に牛馬の蕃殖を計つたならば如何であらう、今は已に需要の權衡を失ひ、牛馬の價格下落して畜産家は多く破產に頻してゐるのに、尙此の上に已に得たものゝ、若くは是より得んとする牧場の面積に從ひて牛馬の頭數を增加したならば、或は免れると云ふても貰ふ人もなくなり、船に積んで沖に捨る樣になるかも知れない、斯くの如く馬鹿氣た事をして、個人と國家に不利益を與ふる未開地處分法を改正して、窮屈な條件を用ひずに、ドシ〳〵大地積を與ふのでなければ、拓殖の實が擧がるものではない。話しは少々問題の範圍を越えた樣であるが、兎も角北見に於ては專門的畜産や大々的牧畜は、先づ亡國事業であると余は斷定する、乍去我が北見には多大の牧畜適地があるのであるから、是れを利用するの道を講じなければならん。其の方法としては各小農家には畜産即ち二三頭若くは四五頭位の牛馬を飼はしむるのである、彼等其の牛馬を春秋は輕役に使用し、夏季は適當なるヶ處に放牧し、冬季は舍飼ひして田畑に必要なる肥料を造り、又其の仔を養ふて冬仕事を補ふのである、故に小農家が小畜產

北見之町村

を兼ねる事は專門的畜産家の夫れの如く不利益所ぢやない、隨分有利で又樂しみ多い副業である、が是には適當なる種馬を要するのであるが、是れも亦民間に於て求むる事としては矢張り不利益だから、長く繼續はし得ない、從つて改良も覺束ないのだ、仍て馬政局をして、我が北見の適當なる場所に種馬所を設置せしめ、民間の牝馬を檢査の上優秀なるものに無料で交尾せしむるのである、そうすれば各小農家競ふて良牝馬を求めて有利なる馬匹の改良に樂しみつゝ從事する事となるのであるから馬匹改良の目的も成就し得る譯だ、一體政府が兵士を養ひ軍艦を造り國家の喧嘩道具には多大の資金を投じてあるにも係らず唯り馬匹の改良にのみ冷淡であるのは矛盾した遣り口である、併し如何に政府ばかりが馬匹の改良に熱心になつた所が民間が樂しんで是に從事するのでなければ其の目的を完成せしむる事は出來ない、故に官民一致して始めて成就すべき問題である、即ち政府も今少し奮發して斯業に從事する人民の損害ない様に方法を講じ、人民も亦國家事業として樂しんで之に從事することゝなれば、改良の目的は自ら成功するのである、であるから今日迄我北見に行はれたる專門的大畜産大々的牧畜業を廢して各小農家に副業的に小畜産を行はしむる事は、北見繁榮策の一で、且つ馬匹改良と云ふ國家の目的も遂げられるので北見の爲めにも有利である。

第二、薄荷の栽培を大々的に奬勵して百方圓以上の産出を期すること。

此の薄荷栽培に就て意見を述べる前に、聊か余が農場經營の實驗談を試みる事は無益ではあるまいと思ふから、茲に摘んで話して見やう。

余は未開地を開墾するよりも道民の腦裡を啓發する目的を以て渡道したのである。其の後此の目的を達する一方法として、去る二十八年中北海道同志敎育會なるものを組織し、政界には故片岡健吉氏等、敎育界には押川方義等の贊成を得、尙同志實業家の資金數万圓を聚集し、數千町歩の未開地を拓き、是を基本財産とし其の得る所の利益を以て本道に一大學を設立仕樣と計畫したので。先づ湧別原野の三千町歩を占めて農牧業に着手したのは、明治三十年の春であつた、然るに牧畜業の容易ならざる事を認め專ら力を農場の方に集注した、そこで三十年三十一年の兩年間に、新潟及び山形より百五十戸の小作人を募集して開墾事業に從事せしめた、所が不幸にも三十一年九月、即ち北海道未曾有の大洪水に遭遇し、彼等數百の移民が爲したる二年間の努力も、二万前後の投資も悉く水泡に歸し、而のみならず、數多の移民の居小屋及び開墾地數十町歩も洗ひ流され、殆ど目も當てられぬ慘

狀を呈したのである、茲に於て内地の資本主は此報に接して、北海道に對する前日の希望を失ひ、資本の拂込みを停止するに至つたので、余は實に天を仰いで長嘆した、乍去農場内數百の小作人に喰はせず飲ませず、働かせずにおけんのであるから苦心慘憺の結果、高利の金を借り受け、どうにか此の場合を瀰縫したが、其の後兩三年は何分收入を得る事出來なかつたので、最早自分は事業と倶に倒れざるべからざる悲境に陷つた、到底復活の道を得る事が六ヶ敷かツたのである、が唯暗中に光明を認めたのは、薄荷栽培の事で、當時湧別原野内三五の試作者あるを幸ひに販路及び其の價格に付て農商務省に取り調べ方を依頼した所が、詳細なる報告を得茲に大に確信する所あつて、湧別中の薄荷の根を買ひ占め小作人一戸につき三反歩宛を、强制的に栽培せしめたが、其の後年々數百圓、數千圓、數万圓と産額が增進し目下のところ五万圓前後の收入がある、斯くの如く已に死したる農場の復活するに至つたのは、全く薄荷の栽培に因つたのである。北見の一小部分なる我農場の復活は、北見全體の農場の復活を意味する事で、此の薄荷の栽培は今後と雖も我北見の如く不便極る地方に於ては、矢張り量少く、金高の多い作物を擇ばねばならぬ、然るにこゝに面白い事には、我北見は種々不便な點が多いから、有益な薄荷の産地に余義なくせられると云ふ事である、石狩其他便利な地方に於ても此の栽培を試みる樣子であるが、少しく作物が不良であるとか若くは直段の下落を見る時は忽ち是を廢して他の作物を植え換えるのであるが、我が北見は所謂背水の陣で此作物を以て勝利を得なければ、他に勝利の道がないから、一年や二年の不作や直段の下落にビク〳〵せず、飽くまでも忍耐して繼續するので、山形方面は勿論、三備地方迄も我が北見と競爭する事が出來ないから、全國の産地は遂に北見に奪はるゝに至るは火を見るよりも明かである、方今横濱、神戸其他より輸出する所の薄荷及び内地に於て使用する所のものを合算すれば收卸薄荷平均價格として年々百五十万圓位のものが要るのである、就ては我が北見より百万圓位のものを産出したからといつて、需要供給の權衡を失ふ樣な事はない、故に余は是非之を奬勵し網走管内より百万圓以上の取卸薄荷を産出させたい希望である。

此地木材を最も有利に販賣する方法等は、餘り長くなるから、省略いたすこと丶御諒知を願いたい云々。

北見之町村

兼重浦次郎君

◎幼て歩監

◎兼重浦次郎君　君は明治二年山口縣加見村に生る、幼時より町村事務に從事し、明治二十六年屯田兵にして上川郡字當麻に移住、二十七八年日清戰役に從事し歩兵伍長に任し兵村諮問會公有財産の常置委員、兵村監査役、學務委員及水利土功組合長に擧げられ爾來岩内郡堀株外三ヶ村及小澤外一ヶ村戸長、網走郡美幌村戸長、斜里郡各村戸長湧別村長を經て、旦下上湧別村長兼村農會長、産牛馬組合上湧別支部長、敎育衛生會上湧別支部長、勤儉共成組合長、在鄉軍人分會長、衛生組合長等の現職にあり、三十七八年の戰役に際しては其功勞に依り勳七等青色桐葉章を賜ふ。

◎重要問題　倩々本村の既往に鑑み將來の發展策を按ずるに、本村は未だ以て開村日猶淺く、隨て自治の根底薄弱に民間亦薄資觀るべきの事業なく、幼稚の譏りを免れず、今後益々爲すべく採るべきの事業一再にして止まざるべし、克しく將來益々自治の基礎を高め民業の擴張を勸奬し交通運輸の道を開き、勤儉以て一般生産力の鞏固を期せざるを得んや、其爰に至らんと欲せば、如何なる施設と經營に俟つべき乎、曰く水田の施設、金融機關の

上湧別の北見青年會館

北見之町村

設置、移民の招來、公有林地の設置、村基本財産の造成、輪作施肥、副業の奬勵、産業組合の組織、通信及交通機關の完備等掲げ來れば枚擧に遑あらざるなり、然れども就中本村の開發を想は

第一、農會の活動を絶叫せざるを得ざるなり、抑もや本村は擧村農業地にして本村今日の發展は一に農家のあるありて實現せるや言を待たざる處、然るに頃者農家其者にとつて最一の指導機關たる村農會の活動充分ならざるのみならず、農家自身が又農會の利用を誤るの點甚しく、畢竟するに自家の福祉を欲せざるものと云ふを得べき乎、矛盾も亦甚しい哉。噫本村の開發は一に農

家の活動を希待するもの多し、然るを事現況の儘推移せば何を以てか本村の進歩發達を贏ち得るものぞ、豈に警せずして可ならんや、故を以て本村の重要問題として劈頭農會の活動を警告するもの所以ありと云ふべし。

若し夫れ農會と共に農家の活動を見れば農業上の進歩改善は勿論、不識生産品の協同的販賣又需用品の協同購買組合等の組織容易なるべく、然るに本村には未だに夫等組織を見ず、其生産物資の豐饒に需用亦巨額なるに於て、其の不便と損失幾何なるを知らざるなり。幸に是等組織を現出せば、啻に組合一同の利益なるのみならず挙て相互の信用を博する結果は遂に物資の購販一に是等組合の手に委せらるゝに至り、總て取引をして極めて經濟的に又勞せずして有利なる終結を告げ、併せて資金融通の便をも得らるべく、遂には地方經濟界をして圓滿ならしむる事をも決して難事ならざるべし。素より當初より之が大を欲するにあらず、察ろ堅實なる組織により漸次實驗と成績に鑑み、擴張を期せば各地方面に自動的組織を見るに至らん、其時に至つてや本村民の利する處今日に比し幾何ぞや。

次に水田の起業を絶叫せざるを得ず、本村は既に連年の試作に徴し、水稻の適地たるや疑ひなきに至れり。況んや各原野細大無數の河川縱橫に貫流し居るを以て、水源地に苦むの要なく、又濳渠の堀鑿次して難事ならざるに於て一日も早く改田の必要あるもの丶如し。

從來作毛振りを見るに無肥料耕作をなし得る結果は、可成手擴く放慢的耕作をなし以て豫期の收獲を得たりと雖、到底永く夫等耕作の持續すべき理なく、漸次耕作地積の漸減と共に相當施肥をなし府縣農家全樣懇切なる耕作法を採るにあらずんば、豫期の收益を見んこと至難となれり。此場合水田の起業をなし、收益の激增を期せんは刻下の急務なるを認むるものなり。

本村多年の宿志は遂げられ近々鐵道の開通を見んとするの機運に逢着せり、其時に當つては農産林産貨物の輸出入極めて迅速に地方住民必要用材の如き遂には稀薄を告ぐるの現象を來すや論なし、左れば各部落有とし若くば村有とし相當公有林地の存置を計ると共に植林の計畫をなすに非ずんば悔を百年に殘すに至らん。

本村は益々農業は勿論商工其他事業の勃興を見んとするの趨勢なるに、未だ以て金融機關の設けなきは本村經濟界に幾多の不便と損失なるや知り難し、仍て本村將來の發達を想ひ此際相當機關の開設は急務なりと云ふべし、尙近々鐵道の開通を見ば各停車場に向て各原野より搬出する貨物從來に比し層一層頻繁を來すべきに、本村の主要幹線にある元開盛橋

は今に復舊架橋の機運に至らず、僅かに私設渡船の便によりつゝあるは本村開發を阻害する尠少ならず、尚各原野殖民道路橋梁の修復を要するもの許多あり、其の甚敷に至りては フミ原野の如き既に四十戸に垂んとする移住者あり、尚優に數百を容るゝの餘地を存し、「ウラシマナイ」原野亦フミ原野に劣らざるの趨勢を示す、然るに之等は何れも未だ殖民道路の開鑿を見ず、空敷放擲せられあるは兩原野の爲め將亦本村の開發の爲め洵に痛嘆に堪へざるなり。借問す是れ當局が移民招來を云爲するものと何等矛盾なき歟、速に當局の覺醒を希ふ事切なり、而して更に野上旭川間道路は假定縣道なるも今や廢道の姿にあり、野上旭川間鐵道開通の曉に於ては、林産貨物の多くは此沿道より搬出せらるべく、現に該方面の殖民區劃中なりと云ふを仄聞するに、優に壹千有餘戸を移すの大積ありと。果して然らば旭川野上間道路は特に下湧別野上間の幹線と何の撰ぶ所ぞ、則ち本村の主要路に相當すべく然るに元金山橋二俣橋等は渡船の設けあるに止まり、交通運輸上の不便知るべきのみ、事の少なる道路橋梁の如きも最早大破不朽の現況にあり、是等復舊と新規の開鑿は頗る急務なるを認むるものなり。

夫れ町村は權利の伸張に伴ひ其責任と負擔亦重きを加ふるは素より其所なりとす、然れば將來益々村事多端、經費膨大に趣くべく之を悉く住民の負擔に待つこと頗る困難なりと云はざるを得ず、殊に水田起業の如き到底些額を以てなし難きは勿論なり。故を以て村基本財產の造成は識者を俟たずして明なり、村理事者は夙に見るありて夫々希講するあるも、到底現時の程度を以てしては財產收入より村費の半を支辨し得るに至らんこと餘りに遼遠にして、日暮れて道遠しの恨みなきを得ず、今にして其の法を探めば國有未開地たる山野の貸付を受け、耕牧若くは植樹等の計畫を立て相當收益を計らば遂に其の理想の域に達するを得べき乎、然るに村が基本財產造成の目的を以て出願するものに對し、當局の措置迅速ならざるは甚以て遺憾とす。

地方の開發に伴ひ通信事件亦日に月に頻繁なるは之れ時世進運の然らしむる處なりとす、然れば其通信機關の完備を希ふや切實也。然るに之を本村の主腦地たる兵村部落並にフミ原野等の實情に徵せば轉た寒心に堪へざるものあり、該部落は現に人戶七百有餘の多數あり、就中通信事項多端なる地方にありて、僅かに屯田市街地に郵便電信局の設置ありと雖も未だ集配局に非ず、遠隔にある湧別村の管下として集配を見るの現況なれば、寔に地方住民の不便不幸甚大なるものあり、其の甚敷に至りては配達局受理後旬日の久敷日數を超